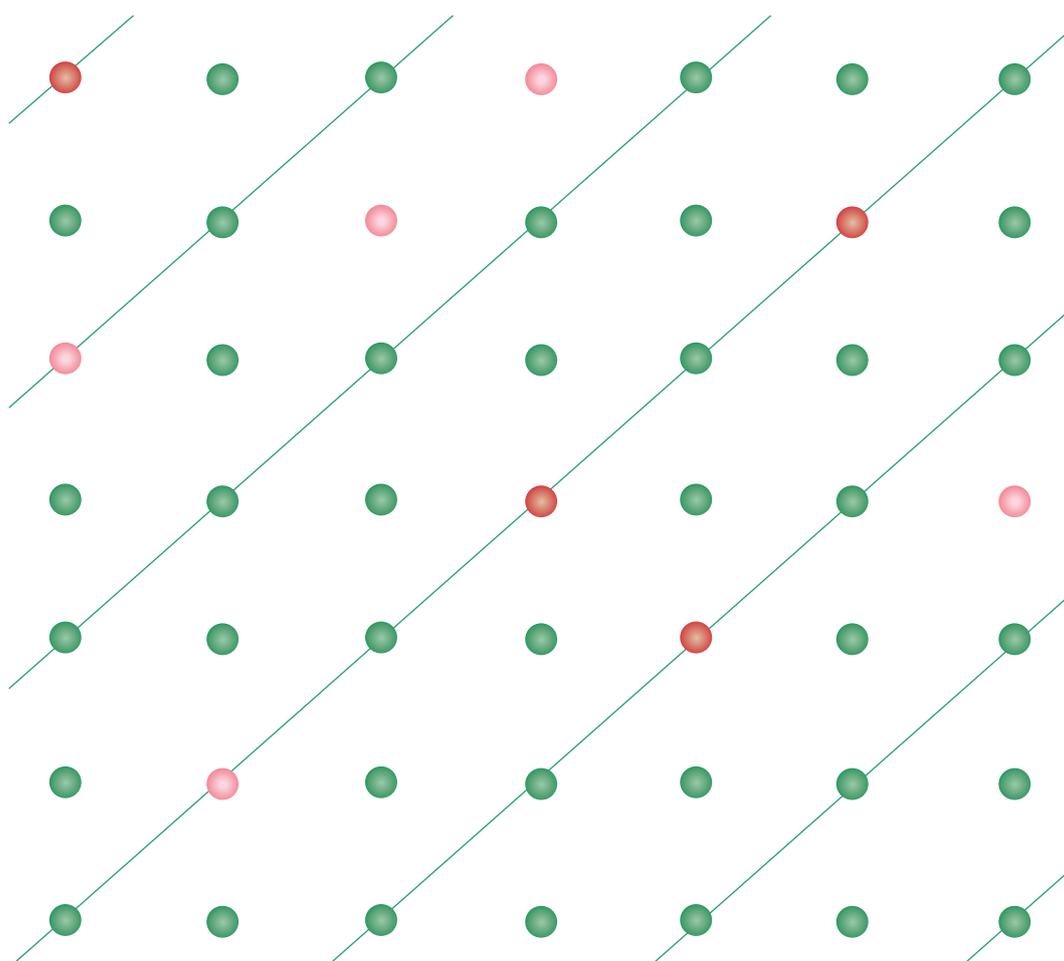


# シラバス

2022年度

看護学科

2021年度以前入学生



平成医療短期大学  
Heisei College of Health Sciences

# 建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

## 教育目的

### 1 全学の目的

教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

### 2 看護学科

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

### 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

### 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

### 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。

- ①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
- ②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

# 学習成果

## 1 全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

## 2 看護学科

- (1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
- (2) 看護の専門基礎知識の修得
- (3) 看護の専門知識・技術の修得
- (4) 看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

## 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

## 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
- (3) 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
- (4) 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
- (5) チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
- (6) 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

# 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

## 1 全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
- (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。

## 2 看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
- (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
- (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
- (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

## 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

- (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

## 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
- (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

# 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

## 2 看護学科

- (1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
- (3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
- (4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

#### 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

#### 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
- (3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
- (4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
- (5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
- (6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。



# 履修要領

看護学科

2021年度以前入学生



# 履修要領

## 1. 教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的にすすむように編成しています。

## 2. 「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

## 3. 「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

看護学科に配置した「専門基礎科目」には、看護の専門領域を学ぶ前段階として基礎医学に関する科目群を配置し、看護学の専門性を高める基盤となるよう配慮しています。また、看護を取り巻く社会の構造と環境についても、系統的に科目立てをしています。

「専門科目」には、看護の各領域に関する学問を系統立てて配置し、それぞれの領域が融合しながら看護学を学び、人間、健康、環境の面から看護を考え、看護の実践ができるよう考慮しています。

「統合科目」は、各領域を統合させた看護の提供ができる能力を養うために、「看護学の発展」的な位置付けとして科目立てしています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

<看護学科> 2021年度以前入学生

| 区分           |                     | 授業科目                    | 単位数                  |    | 卒業要件 |   |    |
|--------------|---------------------|-------------------------|----------------------|----|------|---|----|
|              |                     |                         | 必修                   | 選択 |      |   |    |
| 総合教育科目       | 教養教育科目              | 人間と科学                   | 生物学                  | 2  |      | 2 |    |
|              |                     |                         | 物理学                  |    | 2    |   |    |
|              |                     |                         | 化学                   |    | 2    |   |    |
|              |                     |                         | 情報科学                 |    | 2    |   |    |
|              |                     |                         | 人間工学                 |    | 2    |   |    |
|              |                     |                         | 環境と人間                |    | 2    |   |    |
|              | 人間と社会               | 社会学                     |                      | 2  | 2    |   |    |
|              |                     | 人間関係論                   |                      | 2  |      |   |    |
|              |                     | ボランティア論                 |                      | 2  |      |   |    |
|              |                     | 哲学                      |                      | 2  |      |   |    |
|              |                     | 教育学                     |                      | 2  |      |   |    |
|              |                     | 心理学                     |                      | 2  |      |   |    |
|              | 基礎教育科目              | コミュニケーション               | 生命倫理学                | 2  |      | 2 |    |
|              |                     |                         | 基礎演習                 | 1  |      |   |    |
|              |                     |                         | 文章表現法                | 1  |      |   |    |
| 外国語          | 外国語                 | コミュニケーション学              | 1                    |    | 3    |   |    |
|              |                     | 英語Ⅰ(教養英語)               | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 英語Ⅱ(日常英会話)              |                      | 1  |      |   |    |
|              |                     | 英語Ⅲ(専門英語)               |                      | 1  |      |   |    |
|              |                     | ドイツ語                    |                      | 1  |      |   |    |
|              |                     | 中国語                     |                      | 1  |      |   |    |
| 専門教育科目       | 専門基礎科目              | 人体の理解                   | 解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等)   | 2  |      | 6 |    |
|              |                     |                         | 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) | 2  |      |   |    |
|              |                     |                         | 生化学                  | 1  |      |   |    |
|              |                     |                         | 栄養学                  | 1  |      |   |    |
|              |                     |                         | 疾病論Ⅰ(神経・病理組織)        | 1  |      |   |    |
|              |                     |                         | 疾病論Ⅱ(呼吸と循環・代謝と栄養)    | 1  |      |   |    |
|              | 疾病の成り立ちと回復の促進       | 疾病論Ⅲ(神経と運動・生殖・排泄と感覚)    | 1                    |    | 9    |   |    |
|              |                     | 微生物学                    | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 公衆衛生学                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 薬理学                     | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 病態心理学                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | リハビリテーション概論             | 1                    |    |      |   |    |
|              | 社会の構造と環境            | カウンセリング論                | 1                    |    | 6    |   |    |
|              |                     | 保健行政論                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 保健統計学                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 看護と法律                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 障害者と福祉                  | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 医療と経済                   | 1                    |    |      |   |    |
|              | 健康生活を支えるための看護の原理と基礎 | 社会福祉学                   | 1                    |    | 13   |   |    |
|              |                     | 看護学概論                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)          | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)       | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置)          | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習)   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | フィジカルアセスメント             | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 基礎看護学実習Ⅰ(基礎)            | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)            | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動 | 成人看護学概論              | 1  |      |   | 40 |
|              |                     |                         | 成人看護活動論Ⅰ(基礎)         | 3  |      |   |    |
|              |                     |                         | 成人看護活動論Ⅱ(発展)         | 2  |      |   |    |
|              |                     |                         | 成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)     | 3  |      |   |    |
|              | 成人看護学実習Ⅱ(手術・急性・終末期) |                         | 3                    |    |      |   |    |
|              | 高齢者看護学概論            |                         | 1                    |    |      |   |    |
|              | 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎)       |                         | 2                    |    |      |   |    |
|              | 高齢者看護活動論Ⅱ(発展)       |                         | 1                    |    |      |   |    |
|              | 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎)       |                         | 2                    |    |      |   |    |
|              | 高齢者看護学実習Ⅱ(発展)       |                         | 2                    |    |      |   |    |
|              | 小児看護学概論             |                         | 1                    |    |      |   |    |
|              | 小児看護活動論Ⅰ(基礎)        |                         | 2                    |    |      |   |    |
|              | 小児看護活動論Ⅱ(発展)        |                         | 1                    |    |      |   |    |
|              | 小児看護学実習             |                         | 2                    |    |      |   |    |
|              | 母性看護学概論             |                         | 1                    |    |      |   |    |
|              | 母性看護活動論Ⅰ(基礎)        |                         | 2                    |    |      |   |    |
|              | 母性看護活動論Ⅱ(発展)        |                         | 1                    |    |      |   |    |
|              | 母性看護学実習             |                         | 2                    |    |      |   |    |
| 精神看護学概論      | 1                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 精神看護活動論Ⅰ(基礎) | 2                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 精神看護活動論Ⅱ(発展) | 1                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 精神看護学実習      | 2                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 課題研究事前演習     | 1                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 課題研究         | 1                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 統合科目         | 看護の統合と実践            | 在宅看護概論                  | 1                    |    | 12   |   |    |
|              |                     | 在宅看護活動論Ⅰ(基礎)            | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 在宅看護活動論Ⅱ(発展)            | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 在宅看護論実習                 | 2                    |    |      |   |    |
|              |                     | 安全管理論                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 災害管理論                   | 1                    |    |      |   |    |
|              |                     | 総合判断育成演習                | 2                    |    |      |   |    |
| 看護の統合実習      | 2                   |                         |                      |    |      |   |    |
| 合計           |                     |                         |                      |    | 99   |   |    |

## 4. 履修方法等

### 1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

### 2) 授業

#### ① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を Google Classroom で配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 Google Classroom で配信しますので始業前等には必ず確認してください。

#### ② 授業時間

| 1時限        | 2時限         | 3時限         | 4時限         | 5時限         |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 9:00～10:30 | 10:45～12:15 | 13:15～14:45 | 15:00～16:30 | 16:45～18:15 |

#### ③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

#### ④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 Google Classroom で連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から15分を経過しても担当教員が教室にこない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

#### ⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は Google Classroom で連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

### 3) 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

#### <履修上の注意事項>

- ア. 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。
- イ. 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。
- ウ. 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

### 4) 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

#### <履修登録の上限単位数 (CAP 制) >

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において1年間に履修登録できる単位数の上限を55単位としています。

5) 授業の出・欠席の取り扱い

- ① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。
- ② 出欠席の取り扱いは次の各号によりますが、遅刻・早退・欠課・欠席等の該当事項が生じた場合は、本学所定の用紙により、「遅刻・早退・欠課・欠席届及び公認願」を提出しなければなりません。
- ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。
- イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。
- ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。
- エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあつては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。
- オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあつては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。
- カ. 同一科目において遅刻、早退 2 回をもって 1 時限の欠課となります。
- ③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限ります。
- ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合
- イ. 忌引きによる場合

|     |      |     |      |
|-----|------|-----|------|
| 父母  | 兄弟姉妹 | 祖父母 | 伯叔父母 |
| 7 日 | 5 日  | 3 日 | 2 日  |

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

- ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。
- エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合
- ※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。  
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。
- ④ 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に事務室へ提出し、学長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも 3 日以内（土・日・祝含まず）に事務室へ提出しなければなりません。  
なお、②の遅刻・早退届については、当日教員に直接提出してください。

5. 選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

| 科目名         | 制限の人数 |
|-------------|-------|
| 情報科学        | 40名   |
| 英語Ⅱ（日常英会話）A | 40名   |
| 英語Ⅱ（日常英会話）B | 60名   |
| 英語Ⅱ（日常英会話）C | 40名   |
| 英語Ⅲ（専門英語）   | 60名   |
| ドイツ語        | 40名   |
| 中国語         | 40名   |

6. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

<看護学科実習科目の履修前提条件> 令和3年度以前入学生に適用

| 区分                         |   | 授業科目      | 時期             | 履修条件   |                                   |
|----------------------------|---|-----------|----------------|--|-----------------------------------|
|                            |   |           |                | 単位修得済み科目   | 当年度履修登録済み科目                       |
| 専<br>門<br>教<br>育<br>科<br>目 | と健康<br>基礎の<br>生活<br>を<br>支<br>え<br>る<br>理   | 基礎看護学実習Ⅰ  | 1前             |  | 看護学概論<br>基礎看護技術Ⅰ                  |
|                            |   | 基礎看護学実習Ⅱ  | 2前             | 1年次の[専門基礎]科目全て<br>看護学概論<br>基礎看護技術Ⅰ<br>基礎看護技術Ⅱ<br>基礎看護学実習Ⅰ                          | 基礎看護技術Ⅲ<br>基礎看護技術Ⅳ<br>フィジカルアセスメント |
|                            | 健康<br>生活<br>を<br>支<br>え<br>る<br>た<br>め<br>の<br>ラ<br>イ<br>フ<br>サ<br>イ<br>ク<br>ル<br>別<br>看<br>護<br>活<br>動 | 成人看護学実習Ⅰ  | 2後*<br>～<br>3前 | 【看護の原理と基礎】全科目<br>成人看護学概論<br>成人看護活動論Ⅰ   | 成人看護活動論Ⅱ                          |
|                            |   | 成人看護学実習Ⅱ  | 2後*<br>～<br>3前 | 【看護の原理と基礎】全科目<br>成人看護学概論<br>成人看護活動論Ⅰ   | 成人看護活動論Ⅱ                          |
|                            |   | 高齢者看護学実習Ⅰ | 2後*            | 【看護の原理と基礎】全科目<br>高齢者看護学概論<br>高齢者看護活動論Ⅰ   | 高齢者看護活動論Ⅱ                         |
|                            |   | 高齢者看護学実習Ⅱ | 3前             | 高齢者看護活動論Ⅱ<br>高齢者看護学実習Ⅰ   |                                   |
|                            |   | 小児看護学実習   | 2後*            | 【看護の原理と基礎】全科目<br>小児看護学概論<br>小児看護活動論Ⅰ   | 小児看護活動論Ⅱ                          |
|                            |   | 母性看護学実習   | 2後*            | 【看護の原理と基礎】全科目<br>母性看護学概論<br>母性看護活動論Ⅰ   | 母性看護活動論Ⅱ                          |
|                            |   | 精神看護学実習   | 3前             | 【看護の原理と基礎】全科目<br>精神看護学概論<br>精神看護活動論Ⅰ   | 精神看護活動論Ⅱ                          |
|                            |   |           |                |  |                                   |
| 統<br>合<br>科<br>目           | 看<br>護<br>の<br>統<br>合<br>と<br>実<br>践  | 在宅看護論実習   | 3前             | 【看護の原理と基礎】全科目<br>在宅看護概論<br>在宅看護活動論Ⅰ  | 在宅看護活動論Ⅱ                          |
|                            |   | 看護の統合実習   | 3後             | 【看護の原理と基礎】全科目<br>成人看護学実習Ⅱ<br>高齢者看護学実習Ⅱ<br>小児看護学実習<br>母性看護学実習<br>精神看護学実習<br>在宅看護論実習 | 総合判断育成演習                          |

※表中の【看護の原理と基礎】とは、「専門科目」の「健康生活を支えるための看護の原理と基礎」の科目を示す。

\*「健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動」の2年次後期にある実習については、2年次前期までの[専門基礎]科目すべてを単位履修済みであること。

## 7. 試験、成績評価及び単位の授与

### 1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者とします。

#### ① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

#### ② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

#### ③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

#### ④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

#### ⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は1回に限り再試験を行うことができます。

### 2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から1週間以内に追試験願を事務室に提出しなければなりません。

なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

### 3) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

### 4) 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は、写真の面を上にして通路側の机の上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は1,000円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机の上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後30分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後30分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

## 5) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第26条第2項)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可、失格の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

| 評価 | 前学期、後学期、期間外、及びレポート試験等 | 追試験      | 再試験      |
|----|-----------------------|----------|----------|
| 秀  | 100点～90点              | 100点～90点 | なし       |
| 優  | 89点～80点               | 89点～80点  | なし       |
| 良  | 79点～70点               | 79点～70点  | なし       |
| 可  | 69点～60点               | 69点～60点  | 100点～60点 |
| 不可 | 60点未満                 | 60点未満    | 60点未満    |
| 失格 | 受験資格なし                | —        | —        |

### <実習科目>

出席が当該実習科目の授業時間数の5/6以上を対象とし、成績評価は、秀、優、良、可、不可、失格とします。出席が当該実習科目の授業時間数の5/6に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

### <GPA> \*グレード・ポイント・アベレージ

GPAとは、「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1、「不可・失格」を0として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA算出方法] \*小数第三位四捨五入

$$\frac{([\text{秀}] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([\text{優}] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([\text{良}] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([\text{可}] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([\text{不可}] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}}$$

\*GPAには、各期のGPAと入学からその時点までの通算GPAがあり、各期の成績表には両方のGPAが掲載されます。

\*不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算GPAには算入されません。

\*GPAは履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

\*入学前既修得単位(単位認定科目)はGPA対象外です。

### <GPAに基づく個別指導、退学勧告>

成績不振の基準を、学期GPA1.5未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

- ① 学期GPAが1.5未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
- ② 2期連続GPAが1.5未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
- ③ 3期連続または通算4学期のGPAが1.5未満の場合は、学長が退学勧告できます。

## 6) 成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 Google Classroom にてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は Google Classroom にてお知らせします。

## 8. 単位について

### 1) 単位の計算方法

学則第24条により、次のように定めています。

第24条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 四 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

| 授業の種類    | 授業1時間当たりの換算時間 |
|----------|---------------|
| 講義       | 3時間           |
| 演習       | 1.5時間         |
| 実習・実験・実技 | 1時間           |

### 2) 単位の考え方

1) に記載されているように、1単位の学修時間を45時間としながら、実際の講義については15時間(30時間)で1単位としています。これは、45時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

## 9. 卒業要件、学位の授与及び国家試験

### 1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に3年以上在学し、本学学則の別表1に卒業要件として示す単位を修得しなければなりません。

### 2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、「短期大学士(看護学)」(英訳名: Associate of Science in Nursing)の学位が授与され、看護師国家試験の受験資格が得られます。

この国家試験は、厚生労働省により年1回実施されます。

<看護学科の卒業要件単位数> 令和3年度以前入学生に適用

| 区 分                             |        |                         | 必 修   | 選 択    | 合 計     |
|---------------------------------|--------|-------------------------|-------|--------|---------|
| 総<br>基<br>礎<br>教<br>育<br>科<br>目 | 教養教育科目 | 人間と科学                   | 2 単位  | 2 単位以上 | 4 単位以上  |
|                                 |        | 人間と社会                   | 2 単位  | 2 単位以上 | 4 単位以上  |
|                                 | 基礎教育科目 | コミュニケーション               | 3 単位  | —      | 3 単位    |
|                                 |        | 外国語                     | 1 単位  | 1 単位以上 | 2 単位以上  |
| 専<br>門<br>教<br>育<br>科<br>目      | 専門基礎科目 | 人体の理解                   | 6 単位  | —      | 6 単位    |
|                                 |        | 疾病の成り立ちと回復の促進           | 9 単位  | —      | 9 単位    |
|                                 |        | 社会の構造と環境                | 6 単位  | —      | 6 単位    |
|                                 | 専門科目   | 健康生活を支えるための看護の原理と基礎     | 13 単位 | —      | 13 単位   |
|                                 |        | 健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動 | 40 単位 | —      | 40 単位   |
|                                 | 統合科目   | 看護の統合と実践                | 12 単位 | —      | 12 単位   |
| 合計                              |        |                         | 94 単位 | 5 単位以上 | 99 単位以上 |

# カリキュラムマップ<看護学科> 2021年度以前入学生

## 建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づき、教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

## 教育目的

- ① 科学的根拠に基づいた看護実践の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ② 高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
- ③ 生命の尊厳と人間人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多職種と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④ 生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意思を持つ看護師

| 教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー   |   | 1年次   |   |   |   | 2年次  |  | 3年次  |   | 学習成果  | 全学方針  | 看護学科  |
|---|---|---|---|---|---|--|--|--|---|---|---|---|
| 全学方針  | 看護学科方針  | 人間と科学   | 前期  | 後期  | 前期  | 後期   | 前期   | 後期   | 前期  | 後期  |   |   |
| (1) 社会生活に求められ、身につけるべき専門知識、技術及び実践力を有する。全学に総合教育科目を配置する。               | (1) 豊かな人間性と教養を身に付け、看護倫理を通して、社会的責任感、良好な人間関係を築くこと、コミュニケーション能力、倫理人として求められること、専門知識、技術及び実践力を身に付けていく。 | 生物物理学<br>化学<br>人間工学<br>社会学<br>人間関係論<br>ボランティア論<br>基礎演習<br>文庫表現法<br>英語Ⅰ(教養英語)  | 情報科学<br>環境と人間<br>哲学<br>教育学<br>心理学<br>生命倫理学<br>コミュニケーション学<br>英語Ⅱ(日常英会話)<br>英語Ⅲ(専門英語)<br>ドイツ語<br>中国語  | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習                  | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論Ⅱ(発展)<br>高齢看護学概論Ⅱ(発展)<br>小児看護学概論Ⅱ(発展)<br>母性看護学概論Ⅱ(発展)<br>精神看護学概論Ⅱ(発展)<br>在宅看護学概論Ⅱ(発展) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論Ⅱ(発展)<br>高齢看護学概論Ⅱ(発展)<br>小児看護学概論Ⅱ(発展)<br>母性看護学概論Ⅱ(発展)<br>精神看護学概論Ⅱ(発展)<br>在宅看護学概論Ⅱ(発展) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論Ⅱ(発展)<br>高齢看護学概論Ⅱ(発展)<br>小児看護学概論Ⅱ(発展)<br>母性看護学概論Ⅱ(発展)<br>精神看護学概論Ⅱ(発展)<br>在宅看護学概論Ⅱ(発展) | (1) 豊かな人間性と教養を身に付け、看護倫理を通して、社会的責任感、良好な人間関係を築くこと、コミュニケーション能力、倫理人として求められること、専門知識、技術及び実践力を身に付けていく。 | (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身に付け、対象者を人間的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。       | (3) 看護の対象者及び医療チームメンバーと協働し、専門知識、技術及び実践力を身に付けていく。                     | (4) 生涯にわたって向上心と探求心をもち、継続して主体的に研鑽できる。                                |
| (2) 専門教育科目は、専門知識の習得と、実践力の養成を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。        | (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解、疾病の成り立ちと回復の促進、社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。                                  | 解剖学Ⅱ(解剖学総論・骨格・筋系等)<br>解剖学Ⅲ(循環・神経・内分泌・消化器等)<br>生化学<br>薬理学<br>微生物学  | 疾病心理学<br>看護心理学<br>看護倫理<br>看護学概論<br>看護学実習Ⅱ(基礎)<br>看護学実習Ⅲ(基礎)<br>看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習 | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解、疾病の成り立ちと回復の促進、社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。                                  | (2) 看護の専門基礎知識を修得する。   | (2) 看護の専門基礎知識を修得する。   | (2) 看護の専門基礎知識を修得する。   |
| (3) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 | (3) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。                             | 看護学概論<br>看護学実習Ⅱ(基礎)<br>看護学実習Ⅲ(基礎)<br>看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習 | 看護学概論<br>看護学実習Ⅱ(基礎)<br>看護学実習Ⅲ(基礎)<br>看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習                           | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | (3) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。                             | (3) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 | (3) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 | (3) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 |
| (4) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 | (4) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。                             | 看護学概論<br>看護学実習Ⅱ(基礎)<br>看護学実習Ⅲ(基礎)<br>看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習 | 看護学概論<br>看護学実習Ⅱ(基礎)<br>看護学実習Ⅲ(基礎)<br>看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習                           | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎) | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅲ(発展)<br>基礎看護学実習Ⅳ(基礎)<br>成人看護学概論<br>高齢看護学概論Ⅱ(基礎)<br>小児看護学概論Ⅱ(基礎)<br>母性看護学概論Ⅱ(基礎)<br>精神看護学概論Ⅱ(基礎)<br>在宅看護学概論Ⅱ(基礎)      | (4) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。                             | (4) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 | (4) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 | (4) 看護の領域ごとに、健康生活を営むための実践的知識・技術の習得を目的とし、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を配置する。 |

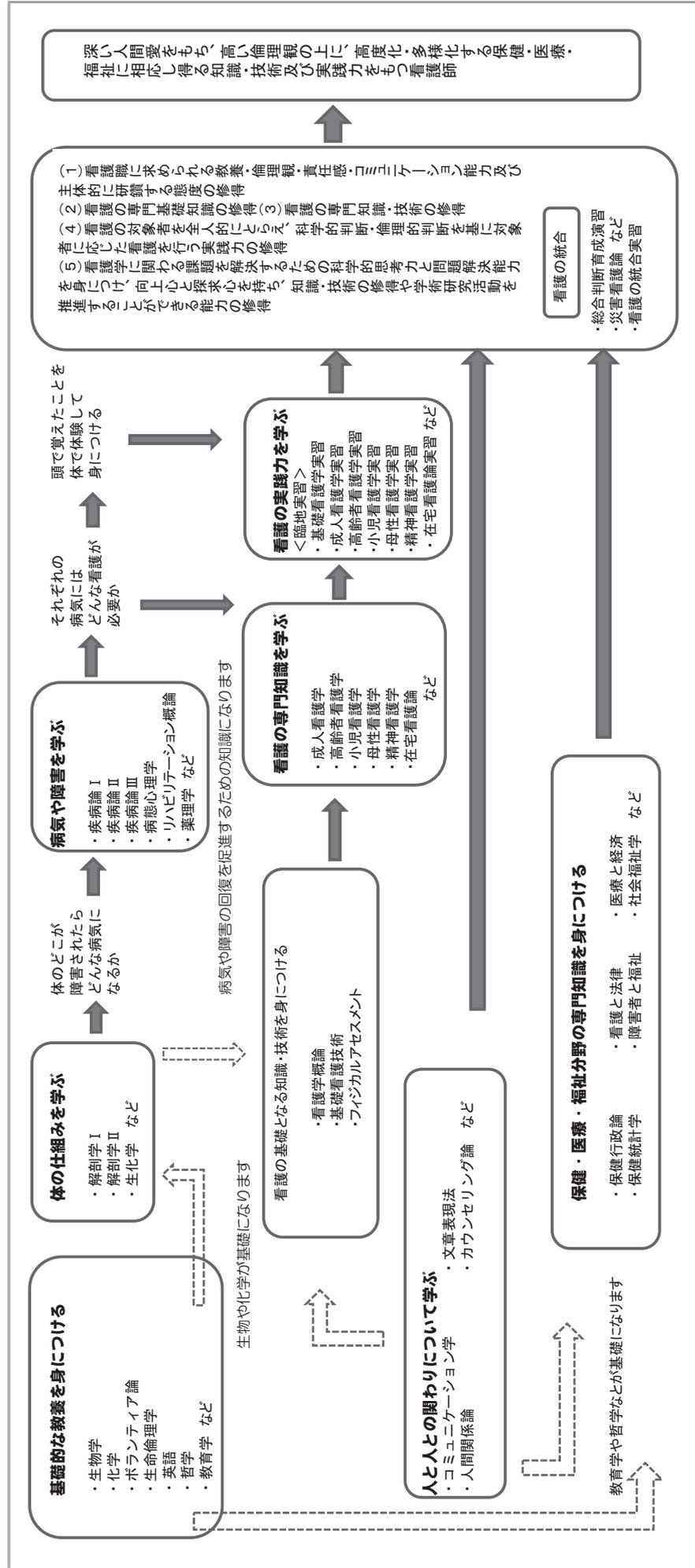
※ティプロマ・ポリシーの番号はPの該当番号

★成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)と成人看護学実習Ⅱ(手術・急性・終末期)は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

# 科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

## <看護学科> 2021年度以前入学生



## 到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

### <看護学科> 2021年度以前入学生

※学習成果の番号はカリキュラムマップ・関連図の該当番号

| 評価項目<br>学習成果   | 評価基準                  |                       |                       | 適用科目   | 学校としての学習成果の評価                        |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--|--------------------------------------|
|  | 3<br>(非常に優れている)       | 2<br>(優れている)          | 1<br>(基準に達している)       |  |                                      |
| (1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得  | 当該分野のGPA<br>2.50~4.00 | 当該分野のGPA<br>2.00~2.49 | 当該分野のGPA<br>1.00~1.99 | 生物学 物理学 化学<br>情報科学 人間工学 環境と人間<br>社会学 人間関係論 ボランティア論<br>哲学 教育学 心理学<br>生命倫理学<br>基礎演習 文章表現法<br>コミュニケーション学<br>英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話)<br>英語Ⅲ(専門英語)<br>ドイツ語 中国語   | 当該分野の学生のGPA平均値が左記1~3のいずれに該当するかにより評価。 |
| (2)看護の専門基礎知識の修得  | 当該分野のGPA<br>2.50~4.00 | 当該分野のGPA<br>2.00~2.49 | 当該分野のGPA<br>1.00~1.99 | 解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等)<br>解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等)<br>生化学<br>栄養学<br>微生物学<br>疾病論Ⅰ(神経・病理組織)<br>疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養)<br>疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚)<br>公衆衛生学<br>薬理学<br>リハビリテーション概論<br>社会福祉学<br>保健統計学<br>病態心理学<br>保健行政論<br>看護と法律<br>障害者と福祉<br>医療と経済<br>カウンセリング論  | 当該分野の学生のGPA平均値が左記1~3のいずれに該当するかにより評価。 |
| (1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得<br><br>(3)看護の専門知識・技術の修得<br><br>(4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得<br><br>(5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得 | 当該分野のGPA<br>2.50~4.00 | 当該分野のGPA<br>2.00~2.49 | 当該分野のGPA<br>1.00~1.99 | 看護学概論<br>基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)<br>基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)<br>基礎看護技術Ⅲ(診察・処置)<br>基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習)<br>フィジカルアセスメント<br>成人看護学概論<br>成人看護活動論Ⅰ(基礎)<br>成人看護活動論Ⅱ(発展)<br>高齢者看護学概論<br>高齢者看護活動論Ⅰ(基礎)<br>高齢者看護活動論Ⅱ(発展)<br>小児看護学概論<br>母性看護学概論<br>小児看護活動論Ⅰ(基礎)<br>小児看護活動論Ⅱ(発展)<br>母性看護活動論Ⅰ(基礎)<br>母性看護活動論Ⅱ(発展)<br>精神看護学概論<br>精神看護活動論Ⅰ(基礎)<br>精神看護活動論Ⅱ(発展)<br>在宅看護概論<br>在宅看護活動論Ⅰ(基礎)<br>在宅看護活動論Ⅱ(発展)<br>安全管理論<br>災害看護論<br>課題研究事前演習<br>課題研究<br>基礎看護学実習Ⅰ(基礎)<br>基礎看護学実習Ⅱ(発展)<br>成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期)<br>成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期)<br>高齢者看護学実習Ⅰ(基礎)<br>高齢者看護学実習Ⅱ(発展)<br>小児看護学実習<br>母性看護学実習<br>精神看護学実習<br>在宅看護論実習<br>総合判断育成演習<br>看護の統合実習 | 当該分野の学生のGPA平均値が左記1~3のいずれに該当するかにより評価。 |

# シラバス

看護学科

2021年度以前入学生



◎ 看護学科  
◆ 総合教育科目 ◆

| 科目区分   | 科目名       | 開講時期        | 授業担当教員名 | ページ                    |  |
|--------|-----------|-------------|---------|------------------------|--|
| 教養教育科目 | 人間と科学     | 生物学         | 1年次前学期  | 江村正一                   |  |
|        |           | 物理学         | 1年次前学期  | 中村 琢                   |  |
|        |           | 化学          | 1年次前学期  | 武藤吉徳                   |  |
|        |           | 情報科学        | 1年次後学期  | 福岡大輔                   |  |
|        |           | 人間工学        | 1年次前学期  | 山田宏尚                   |  |
|        |           | 環境と人間       | 1年次後学期  | 大藪千徳                   |  |
|        | 人間と社会     | 社会学         | 1年次前学期  | 伊原亮司                   |  |
|        |           | 人間関係論       | 1年次前学期  | 神戸博一                   |  |
|        |           | ボランティア論     | 1年次前学期  | 益川優子                   |  |
|        |           | 哲学          | 1年次後学期  | 竹内章郎                   |  |
|        |           | 教育学         | 1年次後学期  | 益川優子                   |  |
|        |           | 心理学         | 1年次後学期  | 大井修三                   |  |
|        |           | 生命倫理学       | 1年次後学期  | 塚田敬義、熊田ますみ             |  |
| 基礎教育科目 | コミュニケーション | 基礎演習(看護学科)  | 1年次前学期  | 松野ゆかり、古田弥生、長屋江見、加藤清人 他 |  |
|        |           | 文章表現法       | 1年次前学期  | 弓削 繁                   |  |
|        |           | コミュニケーション学  | 1年次後学期  | 近藤ひろえ                  |  |
|        | 外国語       | 英語Ⅰ(教養英語)   | 1年次前学期  | ジャマリ・マルジャン             |  |
|        |           | 英語Ⅱ(日常英会話)A | 1年次後学期  | ジャマリ・マルジャン             |  |
|        |           | 英語Ⅱ(日常英会話)B | 1年次後学期  | ミルボド・セイエド・モハマド         |  |
|        |           | 英語Ⅲ(専門英語)   | 1年次後学期  | ミルボド・セイエド・モハマド         |  |
|        |           | ドイツ語        | 1年次後学期  | 安藤彰浩                   |  |
|        |           | 中国語         | 1年次後学期  | 橋本永貢子                  |  |

◎ 看護学科  
◆ 専門教育科目 ◆

| 科目区分   | 科目名           | 開講時期                 | 授業担当教員名 | ページ                                       |    |
|--------|---------------|----------------------|---------|---|----|
| 専門基礎科目 | 人体の理解         | 解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等)   | 1年次前学期  | 佐竹裕孝                                      |    |
|        |               | 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) | 1年次前学期  | 佐竹裕孝                                      |    |
|        |               | 生化学                  | 1年次前学期  | 亀山泰永                                      |    |
|        |               | 栄養学                  | 1年次前学期  | 久保和弘                                      |    |
|        | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 疾病論Ⅰ(神経・病理組織)        | 1年次後学期  | 武内康雄、山本容正                                 |    |
|        |               | 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養)    | 1年次後学期  | 近藤直実、松井永子、山本容正                            |    |
|        |               | 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) | 1年次後学期  | 坂 義人、平野聡子、塩谷滝雄、大江直行、中山則之                  |    |
|        |               | 微生物学                 | 1年次前学期  | 林 将大                                      |    |
|        |               | 公衆衛生学                | 1年次後学期  | 和田恵子                                      |    |
|        |               | 薬理学                  | 1年次後学期  | 足立哲夫                                      |    |
|        |               | 病態心理学                | 2年次前学期  | 深尾 琢、大井一高、杉山俊介、藏満彩結実、武藤恭昌、野瀬早織、高井健太郎、川村清子 | 22 |
|        |               | リハビリテーション概論          | 1年次後学期  | 長谷部武久                                     |    |
|        |               | カウンセリング論             | 2年次前学期  | 山田日吉                                      | 24 |
|        | 社会の構造と環境      | 保健行政論                | 3年次後学期  | 小林美奈子、田中 耕、鷺崎典子                           | 26 |
|        |               | 保健統計学                | 3年次前学期  | 紀ノ定保臣                                     | 28 |
|        |               | 看護と法律                | 3年次後学期  | 鷺見高光                                      | 30 |
|        |               | 障害者と福祉               | 3年次後学期  | 加藤清人                                      | 32 |
|        |               | 医療と経済                | 3年次後学期  | 塩野美里                                      | 34 |
|        |               | 社会福祉学                | 1年次後学期  | 竹内章郎                                      |    |

◎ 看護学科  
◆ 専門教育科目 ◆

| 科目区分                | 科目名                     | 開講時期                | 授業担当教員名                   | ページ                                  |     |
|---------------------|-------------------------|---------------------|---------------------------|--------------------------------------|-----|
| 健康生活を支えるための看護の原理と基礎 | 看護学概論                   | 1年次前学期              | 眞田正世                      |                                      |     |
|                     | 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)          | 1年次前学期              | 眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子      |                                      |     |
|                     | 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄)       | 1年次後学期              | 長屋江見、眞田正世、佐々木智恵、坂本裕子      |                                      |     |
|                     | 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置)          | 2年次前学期              | 長屋江見、眞田正世、佐々木智恵、坂本裕子      | 36                                   |     |
|                     | 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習)   | 2年次前学期              | 眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子      | 39                                   |     |
|                     | フィジカルアセスメント             | 1年次後学期              | 眞田正世、河合克尚、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子 |                                      |     |
|                     | 基礎看護学実習Ⅰ(基礎)            | 1年次前学期              | 眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子 他    |                                      |     |
|                     | 基礎看護学実習Ⅱ(発展)            | 2年次前学期              | 眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子 他    | 41                                   |     |
| 専門科目                | 健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動 | 成人看護学概論             | 1年次後学期                    | 古田弥生                                 |     |
|                     |                         | 成人看護活動論Ⅰ(基礎)        | 2年次前学期                    | 古田弥生、森岡菜穂子、林宗典、飯沼温美、粥川誠至             | 43  |
|                     |                         | 成人看護活動論Ⅱ(発展)        | 2年次後学期                    | 古田弥生、森岡菜穂子、林宗典、片岡恵美                  | 47  |
|                     |                         | 成人看護学実習Ⅰ(慢性・回復期)    | 2年次後学期                    | 古田弥生、森岡菜穂子、林宗典                       | 50  |
|                     |                         | 成人看護学実習Ⅱ(手術・急性・終末期) | 2年次後学期                    | 古田弥生、森岡菜穂子、林宗典                       | 52  |
|                     |                         | 高齢者看護学概論            | 1年次後学期                    | 熊田ますみ                                |     |
|                     |                         | 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎)       | 2年次前学期                    | 熊田ますみ、二村美津子、加藤清人、山本容正、住若智子、中川幸代      | 54  |
|                     |                         | 高齢者看護活動論Ⅱ(発展)       | 2年次後学期                    | 熊田ますみ、二村美津子                          | 57  |
|                     |                         | 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎)       | 2年次後学期                    | 熊田ますみ、二村美津子 他                        | 59  |
|                     |                         | 高齢者看護学実習Ⅱ(発展)       | 3年次前学期                    | 熊田ますみ、二村美津子 他                        | 61  |
|                     |                         | 小児看護学概論             | 1年次後学期                    | 松野ゆかり                                |     |
|                     |                         | 小児看護活動論Ⅰ(基礎)        | 2年次前学期                    | 松野ゆかり、岩瀬桃子、近藤富雄、遠渡絹代、岡本朋美、白木大輔、中川みのり | 63  |
|                     | 小児看護活動論Ⅱ(発展)            | 2年次後学期              | 松野ゆかり、岩瀬桃子                | 66                                   |     |
|                     | 小児看護学実習                 | 2年次後学期              | 松野ゆかり、岩瀬桃子 他              | 68                                   |     |
|                     | 母性看護学概論                 | 1年次後学期              | 皮野さよみ                     |                                      |     |
|                     | 母性看護活動論Ⅰ(基礎)            | 2年次前学期              | 皮野さよみ、清水ゆかり、平野聡子、山内久美子    | 70                                   |     |
|                     | 母性看護活動論Ⅱ(発展)            | 2年次後学期              | 皮野さよみ、清水ゆかり               | 73                                   |     |
|                     | 母性看護学実習                 | 2年次後学期              | 皮野さよみ、清水ゆかり               | 75                                   |     |
|                     | 精神看護学概論                 | 2年次前学期              | 三品弘司                      | 77                                   |     |
|                     | 精神看護活動論Ⅰ(基礎)            | 2年次後学期              | 三品弘司、森敏幸、小森あゆみ            | 79                                   |     |
|                     | 精神看護活動論Ⅱ(発展)            | 3年次前学期              | 三品弘司                      | 82                                   |     |
|                     | 精神看護学実習                 | 3年次前学期              | 三品弘司 他                    | 84                                   |     |
|                     | 課題研究事前演習                | 3年次前学期              | 熊田ますみ 他                   | 86                                   |     |
| 課題研究                | 3年次後学期                  | 熊田ますみ 他             | 88                        |                                      |     |
| 統合科目                | 看護の統合と実践                | 在宅看護概論              | 2年次前学期                    | 小林和成                                 | 90  |
|                     |                         | 在宅看護活動論Ⅰ(基礎)        | 2年次後学期                    | 越納美和、堀 信宏、山田剛司、清水美智子、中川幸代            | 92  |
|                     |                         | 在宅看護活動論Ⅱ(発展)        | 3年次前学期                    | 越納美和                                 | 95  |
|                     |                         | 在宅看護論実習             | 3年次前学期                    | 越納美和、松野ゆかり 他                         | 97  |
|                     |                         | 安全管理論               | 1年次後学期                    | 眞田正世                                 |     |
|                     |                         | 災害看護論               | 3年次後学期                    | 松田好美、額綱朋弥、杉山清美、山下浩司                  | 99  |
|                     |                         | 総合判断育成演習            | 3年次後学期                    | 熊田ますみ、皮野さよみ、山内久美子 他                  | 101 |
|                     |                         | 看護の統合実習             | 3年次後学期                    | 熊田ますみ 他                              | 103 |

| 授業科目名   |              | 担当教員   |        |    |   |   |
|---|--------------|--|--------|----|---|---|
| 病態心理学   |              | 大井 一高・杉山 俊介・藏満 彩結実・武藤 恭昌・深尾 琢・野瀬 早織・高井 健太郎・川村 清子 (代表教員 大井 一高)            |        |    |   |   |
| 必修・選択   | 配当年次         | 単位数(時間数)   | 開講形態   |    |   |   |
| 必修  | 2年 前学期       | 1単位(30時間)  | 講義 小ゼミ |    |   |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |              | 実務家教員  |        |    |   |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。            |              | 深尾琢(医師)、大井一高(医師)、杉山俊介(医師)、藏満彩結実(医師)、武藤恭昌(医師)、野瀬早織(医師)、高井健太郎(医師)、川村清子(医師) |        |    |   |   |
| 授業概要  |              |  |        |    |   |   |
| プライマリ・ケアを含め、一般外来、入院など、どの場面でも遭遇するような精神疾患について、概念、症状、治療について学ぶ。 |              |  |        |    |   |   |
| 学修の到達目標   |              |  |        |    |   |   |
| ①心身に心理的ストレスがどのような影響を及ぼすかについて理解する。<br>②それぞれの問題への対処法の概略を理解する。 |              |  |        |    |   |   |
| 回   | 授業計画         | 到達目標   | 担当     | 形態 | 事前学習                                      | 事後学習                                      |
| 1   | 総論           | ①<br>②   | 深尾     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 2   | 心身症          | ①<br>②   | 杉山     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 3   | 神経症・ストレス関連障害 | ①<br>②   | 深尾     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 4   | 睡眠障害         | ①<br>②   | 藏満     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 5   | 摂食障害         | ①<br>②   | 藏満     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 6   | 気分障害         | ①<br>②   | 大井     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 7   | 統合失調症        | ①<br>②   | 武藤     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 8   | 脳の急性障害       | ①<br>②   | 杉山     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 9   | 脳の慢性障害       | ①<br>②   | 高井     | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |

| 回  | 授業計画                           | 到達目標   | 担当 | 形態 | 事前学習                                      | 事後学習                                      |
|--|--------------------------------|--------|----|----|---|---|
| 10   | アルコール・薬物関連障害                   | ①<br>② | 武藤 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 11   | 情緒と行動の障害                       | ①<br>② | 野瀬 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 12   | 発達障害, 精神遅滞                     | ①<br>② | 大井 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 13   | 性格のかたより                        | ①<br>② | 高井 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 14   | 精神保健福祉法                        | ①<br>② | 川村 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 15   | 司法精神医学                         | ①<br>② | 川村 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
|  | 定期試験 (筆記)                      |        |    |    |   |   |
| 評価基準・評価方法  |                                |        |    |    |   |   |
| 授業毎のレポート (60%) と筆記試験 (40%) にて、<目標>①②への理解度を評価する。                                |                                |        |    |    |   |   |
| 使用教科書  |                                |        |    |    |   |   |
| 精神医学ハンドブック - 医学・保健・福祉の基礎知識 / 山内 格.--第7版--日本評論社, 2010年, ISBN978-4-535-98333-5   |                                |        |    |    |   |   |
| 参考図書   |                                |        |    |    |   |   |
| 対話で学ぶ 精神医学入門—コメディカル・学生のために / 細川 大雅, 医療コミュニケーションセンター, 2017年, ISBN978-4909141002 |                                |        |    |    |   |   |
| 課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法  | 課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。 |        |    |    |   |   |
| 備考   | 積極的に考えたことを発言するよう求める。           |        |    |    |   |   |

| 授業科目名   |  | 担当教員          |      |    |                           |   |
|---|--|---------------|------|----|---------------------------|---|
| カウンセリング論  |  | 山田 日吉         |      |    |                           |   |
| 必修・選択   | 配当年次   | 単位数(時間数)      | 開講形態 |    |                           |   |
| 必修  | 2年 前学期   | 1単位(15時間)     | 講義   |    |                           |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |  | 実務家教員         |      |    |                           |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |  | 山田日吉(小・中学校教員) |      |    |                           |   |
| 授業概要  |  |               |      |    |                           |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>心と体の健康を考え、医療におけるカウンセリングについて理解を深める。</li> <li>心理療法の種類や概要を学び、理解を深める。</li> <li>カウンセリングの理論と技法を学ぶ。</li> </ul>  |  |               |      |    |                           |   |
| 学修の到達目標   |  |               |      |    |                           |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①看護活動に必要とされるカウンセリングの知識を学び、運用できる技法を身に付けることができる。</li> <li>②授業での演習活動を通して、カウンセリングの知識と技能を日常の活動に生かせるようにすることができる。</li> <li>③自己を適切に把握し、社会スキルの向上を図ることができる。</li> </ul> |  |               |      |    |                           |   |
| 回   | 授業計画   | 到達目標          | 担当   | 形態 | 事前学習                      | 事後学習  |
| 1   | カウンセリングとは;「カウンセリング」の概念、心理療法における位置づけを理解する                         | ①             |      |    |                           | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 2   | 「看護カウンセリングの特徴と心理療法」<br>・看護カウンセリングの特徴を理解する。<br>・様々な心理療法について理解する。  | ①<br>②        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 3   | 「カウンセリングの態度」その1<br>・一方通行と相互通行のコミュニケーションの違いを理解する。                 | ①<br>②        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 4   | 「カウンセリングの態度」その2<br>・傾聴的態度について演習を通して理解する。                         | ①<br>②        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 5   | 「カウンセリングの技法」その1<br>・カウンセリングの基本的援助技法(8の非言語コミュニケーションと9の援助技法)を理解する。 | ②<br>③        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 6   | 「カウンセリングの技法」その2<br>・要約と焦点化技法について演習を通して理解する。                      | ①<br>②        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 7   | 解決志向のカウンセリング;SFAの考え方と技法を理解する                                     | ①<br>②        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
| 8   | 「カウンセリング総合演習」<br>・総合演習(ミニカウンセリング)                                | ①<br>②        |      |    | 授業を振り返り、小テストの備えをする。(120分) | 授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。ファイルを用意し、学修録を保存する。(120分) |
|   |  |               |      |    |                           |   |

| 評価基準・評価方法  |  |
|--|--|
| 評価基準：看護活動において、患者や家族の精神面でのケアを担える知識、理解、思考、判断、実践力<br>評価方法：毎回の学修録 80% 授業態度20%                    |  |
| 使用教科書  |  |
| 特に利用しない。担当教員が資料を用意する   |  |
| 参考図書   |  |
| 看護カウンセリング（医学書院：広瀬寛子著）はじめての傾聴術（ナツメ社；小宮昇著）解決志向ブリーフセラピー（ほんの森出版；森俊夫黒沢幸子著）ピア・サポートの社会学（晃洋書房；伊藤智樹著） |  |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 毎時間ごとに課題レポート（学修録）を課すことで学習内容の定着を目指す                               |
| 備考   | 相談がある場合は、事前に連絡して場所と時間を設定。<br>個人的相談はメールにて対応可能（初回のみとし、2回目後は面談にて対応） |

| 授業科目名  |                                    | 担当教員                               |       |      |                                  |                       |
|--|------------------------------------|------------------------------------|-------|------|----------------------------------|-----------------------|
| 保健行政論  |                                    | 小林 美奈子・田中 耕・鷺崎 典子 (代表教員 小林 美奈子)    |       |      |                                  |                       |
| 必修・選択  | 配当年次                               | 単位数(時間数)                           | 開講形態  |      |                                  |                       |
| 必修   | 3年 後学期                             | 1単位(15時間)                          | 講義・演習 |      |                                  |                       |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                                    | 実務家教員                              |       |      |                                  |                       |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                                    | 小林美奈子(看護師・介護支援専門員)、鷺崎典子(看護師、社会福祉士) |       |      |                                  |                       |
| 授業概要   |                                    |                                    |       |      |                                  |                       |
| 保健行政論の学習では、我が国の人々の生活を支える様々な保健医療福祉制度の成り立ちを理解し、保健医療行政と社会保障制度の役割、意義及び展望について学習する。人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスの展開を学び、日々の看護活動に活かせるよう学習する。    |                                    |                                    |       |      |                                  |                       |
| 学修の到達目標  |                                    |                                    |       |      |                                  |                       |
| ①保険医療福祉行政のしくみや歴史について説明できる。<br>②福祉と社会保障の対象・領域と制度・サービスについて説明できる。<br>③人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスについて説明できる。<br>④社会保障制度と看護活動の関連について説明できる。 |                                    |                                    |       |      |                                  |                       |
| 回  | 授業計画                               | 到達目標                               | 担当    | 形態   | 事前学習                             | 事後学習                  |
| 1  | 保健医療福祉行政の変遷                        | ①<br>②                             | 田中耕   | 講義   | 教科書P12～19を読み重要用語を調べる(120分)       | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 2  | 保健医療福祉行政の制度                        | ①<br>②                             | 田中耕   | 講義   | 教科書P22～56を読み重要用語を調べる(120分)       | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 3  | 保健医療福祉の実践、社会資源の活用方法                | ②<br>③<br>④                        | 鷺崎典子  | 講義   | 教科書P58～78を読み重要用語を調べる(120分)       | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 4  | ライフサイクルと社会福祉－1 子ども・家庭と福祉及び障害児・者と福祉 | ②<br>③<br>④                        | 鷺崎典子  | 講義   | 教科書P80～110を読み重要用語を調べる(120分)      | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 5  | ライフサイクルと社会福祉－2 難病対策、高齢者と福祉         | ②<br>③<br>④                        | 小林    | 鷺崎典子 | 教科書P111～130を読み重要用語を調べる(120分)     | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 6  | ライフサイクルと社会福祉－3 公的扶助制度及び生活保護        | ②<br>③<br>④                        | 鷺崎典子  | 講義   | 教科書P136～160を読み、重要用語を調べる(120分)    | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 7  | 社会保障制度と看護活動                        | ②<br>③<br>④                        | 小林美奈子 | 講義演習 | 教科書P164～P209までを読み、重要用語を調べる(120分) | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
| 8  | 社会保障制度と看護活動まとめ 小テスト                | ②<br>③<br>④                        | 小林美奈子 | 講義演習 | 教科書P212～233を読み、重要用語を調べる(120分)    | 講義の学びと感想をレポートする(120分) |
|  | 試験：定期試験またはレポート                     |                                    |       |      |                                  |                       |

| 評価基準・評価方法   |  |
|---|--|
| 授業態度・課題40%、試験60%の結果から総合的に評価する。  |  |
| 使用教科書   |  |
| ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 第5版 / 増田雅暢・島田美喜・平野かよ子 編--メディカ出版, 2021, ISBN-10: 4840465142 |  |
| 参考図書  |  |
| 公衆衛生がみえる 療情報科学研究所   |  |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 提出された課題レポートは採点して返却します。レポートが不十分だった場合、コメントを付けて再提出を求めることもあります。学生レポートの模範例を紹介することもあります。課題に準じた重要事項や関連内容を教員がフィードバックとしての解説をします。また、課題が不十分な場合はコメントをして再提出を求めることもあります。 |
| 備考  |  |

| 授業科目名   |   | 担当教員        |      |    |                              |                              |
|---|---|-------------|------|----|------------------------------|------------------------------|
| 保健統計学   |   | 紀ノ定 保臣      |      |    |                              |                              |
| 必修・選択   | 配当年次  | 単位数(時間数)    | 開講形態 |    |                              |                              |
| 必修  | 3年 前学期  | 1単位(15時間)   | 講義   |    |                              |                              |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員       |      |    |                              |                              |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   |             |      |    |                              |                              |
| 授業概要  |   |             |      |    |                              |                              |
| 医療や看護の現場では、EBM/EBN（科学的根拠に基づく医療／看護の実践）が求められる。また、科学的根拠を示すためには、多くの診療・看護症例を対象にデータに基づいて統計学的に処理、分析、結果をまとめる能力が不可欠となる。本講義では、EBNの実践に必要な統計学の理解と活用について学び、理解を深める。また、診療・看護現場での活用を目標に、EXCELを用いたデータの収集・グラフ化・分析と仮説検定手法を講義する。  |   |             |      |    |                              |                              |
| 学修の到達目標   |   |             |      |    |                              |                              |
| 看護に関する統計データの取り扱いとEBNの実践に活用するための統計手法を理解する。<br>知識：①医療・看護現場で発生する種々のデータを収集・分析・処理・活用を実践できる能力を身につける。<br>技術：②医療・看護現場で発生するデータの分析結果を判断・検定し、データが示す意味を正しく理解し、報告書にまとめる能力を身につける。<br>態度：③医療・看護の現場で収集したデータは、医療従事者と患者が共に共有し、効果的な医療・看護の提供に貢献できるものでなければならない。患者が理解しやすい内容で説明できる姿勢に尽力する。 |   |             |      |    |                              |                              |
| 回   | 授業計画  | 到達目標        | 担当   | 形態 | 事前学習                         | 事後学習                         |
| 1   | EBM/EBNとはなにか、統計学を学ぶ必要性等について、事例を挙げて解説する。<br>統計学入門：統計学における基本的なものの考え方と活用手法を理解する。                     | ①<br>③      |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 2   | 統計データのまとめ方：データの種類の、統計データのまとめ方、表やグラフなどによる図示を理解する。<br>確率分布と推定：確率的な現象について、その現象を記述あるいは推定する手法について理解する。 | ②<br>③      |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 3   | 確率分布と推定：確率的な現象について、その現象を記述あるいは推定する手法の活用を理解する。<br>統計学的検定：帰無仮説、二種類の過誤、仮説検定を理解し、代表的な検定手法の利用方法を学ぶ。    | ①<br>②      |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 4   | 統計学的検定：帰無仮説、二種類の過誤、仮説検定を理解し、代表的な検定手法の活用方法を学ぶ。<br>回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法について理解する。       | ①<br>②      |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 5   | 回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法の活用方法を理解する。<br>疫学と統計学：科学的な根拠に基づいて実施される医療や看護を支える疫学と統計学の役割を理解する。   | ①<br>②<br>③ |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 6   | 感度・特異度の理解を深め、医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。<br>有意差検定の理解を深め、医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。                     | ①<br>②      |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 7   | 因果関係や相関関係にあるデータを用いて、効果的にレポートが作成できる能力を獲得する。<br>保健統計の実際：官公庁が公表する各種統計や健康指標がどのように使用されているかを理解する。       | ①<br>②      |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
| 8   | 医療・看護現場でのデータの収集、観察項目の整理、分析、評価、レポート作成の一連の行為を実践する。  | ①<br>②<br>③ |      |    | 教科書の内容を事前に理解しておくこと<br>(120分) | 配付資料を十分に理解することを求める<br>(120分) |
|   | 定期試験  |             |      |    |                              |                              |

| 評価基準・評価方法  |  |
|--|--|
| 基本的には試験を実施し、評価する（100%）。  |  |
| 使用教科書  |  |
| 系統看護学講座 基礎分野「統計学」第7版 / 高木晴良.--医学書院 2016年3月, ISBN978-4-260-02189-0                |  |
| 参考図書   |  |
| 特に指定しないが、EXCELの操作解説書に目を通しておくことが望ましい。また、より実践的な知識の習得を目指していることより、当日配布の資料を多用する予定である。 |  |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 基本はテストを実施し、その成績で評価する。また、成績が基準点に達しない場合には、追試験または、レポートの提出を求める。                                    |
| 備考   | 講義時間に比して、授業内容はボリュームがある。したがって、事前の予習が極めて重要となる。また、実践的な授業であるため、データの収集・分析・報告書作成能力やエクセルの活用スキルが求められる。 |

| 授業科目名   |                                 | 担当教員                        |      |    |                         |                 |
|---|---------------------------------|-----------------------------|------|----|-------------------------|-----------------|
| 看護と法律   |                                 | 鷺見 高光                       |      |    |                         |                 |
| 必修・選択   | 配当年次                            | 単位数(時間数)                    | 開講形態 |    |                         |                 |
| 必修  | 3年 後学期                          | 1単位(15時間)                   | 講義   |    |                         |                 |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |                                 | 実務家教員                       |      |    |                         |                 |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。                                  |                                 | 鷺見高光(医療法人・社会福祉法人勤務、介護支援専門員) |      |    |                         |                 |
| 授業概要  |                                 |                             |      |    |                         |                 |
| 法令に関する一般的事項を学んだ後、看護関係法令の基本及び厚生行政のしくみを学び、保健師助産師看護師法をはじめとする看護師業務に関係の深い関係法令を系統だてて学ぶ。 |                                 |                             |      |    |                         |                 |
| 学修の到達目標   |                                 |                             |      |    |                         |                 |
| ①看護師として必要な医療関係、福祉関係の法令について学び、理解を深める。<br>②患者さんを取り巻く法令を理解し支援する能力を身につけることができる。       |                                 |                             |      |    |                         |                 |
| 回   | 授業計画                            | 到達目標                        | 担当   | 形態 | 事前学習                    | 事後学習            |
| 1   | チーム医療と法の構造、理念と医療安全、保健師助産師看護師法   | ①<br>②                      |      |    | 保健師助産師看護師法を重点的に学習(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 2   | 医療専門職に関する法律、福祉専門職に関する法律         | ①<br>②                      |      |    | 医療専門職について学習(120分)       | 講義内容全般に学習(120分) |
| 3   | 物に関する法律、医療法等                    | ①<br>②                      |      |    | 医療法を重点的に学習(120分)        | 講義内容全般に学習(120分) |
| 4   | 医薬品医療機器総合機構法～高齢者医療確保法           | ①<br>②                      |      |    | 感染症法等を重点的に学習(120分)      | 講義内容全般に学習(120分) |
| 5   | 介護保険法～特定B型肝炎感染者給付規制法            | ①<br>②                      |      |    | 介護保険法を重点的に学習(120分)      | 講義内容全般に学習(120分) |
| 6   | 生活保護法～難病医療法                     | ①<br>②                      |      |    | 障害者関係の法を学習(120分)        | 講義内容全般に学習(120分) |
| 7   | 医療政策に関する法律～社会的弱者対策              | ①<br>②                      |      |    | 講義予定を全般的に学習(120分)       | 講義内容全般に学習(120分) |
| 8   | 労働政策に関する法律～医療過誤                 | ①<br>②                      |      |    | 医療過誤を重点的に学習(120分)       | 講義内容全般に学習(120分) |
|   | 到達目標は終了時に達成する。<br>試験：定期試験又はレポート |                             |      |    |                         |                 |

| 評価基準・評価方法   |   |
|---|---|
| 授業態度 20%、試験（定期試験又はレポート） 80%の結果から総合的に評価する。                               |   |
| 使用教科書   |   |
| ナースング・グラフィック健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 / 株式会社メディア出版, 2021年, 978-4-8404-6514-4 |   |
| 参考図書  |   |
|   |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 直後の講義にて問題点を説明、解説などする。最終試験にて指摘がある場合は、担当教官に依頼する場合もある。 |
| 備考  | 質問は講義時間中や終了後に受け付ける。                                 |

| 授業科目名  |                      | 担当教員        |    |      |                      |                          |
|--|----------------------|-------------|----|------|----------------------|--------------------------|
| 障害者と福祉   |                      | 加藤 清人       |    |      |                      |                          |
| 必修・選択  | 配当年次                 | 単位数(時間数)    |    | 開講形態 |                      |                          |
| 必修   | 3年 後学期               | 1単位(15時間)   |    | 講義   |                      |                          |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                      | 実務家教員       |    |      |                      |                          |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                      | 加藤清人(作業療法士) |    |      |                      |                          |
| 授業概要   |                      |             |    |      |                      |                          |
| 障害者と福祉の学習では、障害のある人が地域において人間的な自立生活が可能な福祉がどのようなものでなければならないかを学ぶ。具体的には、障害のある人の生活実態や法制度を学びながら福祉サービスの不足と障害のある人の潜在能力の不足の両側面の統一的視点に基づいて学習を進めていく。各講義において、それぞれの要点整理をする時間を設定し、学習理解を深める。 |                      |             |    |      |                      |                          |
| 学修の到達目標  |                      |             |    |      |                      |                          |
| ①障害福祉に関する基礎を学び、障害者を取り巻く地域環境について自己の考えも踏まえ説明することができる。<br>②これから必要とされる地域支援について自己の考えを述べるることができる。  |                      |             |    |      |                      |                          |
| 回  | 授業計画                 | 到達目標        | 担当 | 形態   | 事前学習                 | 事後学習                     |
| 1  | 障害者福祉の歴史             | ①           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 2  | 障害者福祉で用いられる思想        | ①           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 3  | 障害者福祉の制度体系           | ①           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 4  | 障害者の自立生活と自立生活支援      | ①           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 5  | ノーマライゼーションの保障と課題     | ②           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 6  | リハビリテーションの現状と課題      | ②           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 7  | 福祉領域におけるリハビリテーションの実際 | ②           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 8  | 障害者福祉の課題と展望          | ②           |    |      | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
|  | レポート課題               |             |    |      |                      |                          |

| 評価基準・評価方法                                      |   |
|--|---|
| レポート課題（100％）で評価する。文章構成や自己の考えを述べているかなども評価対象とする。 |   |
| 使用教科書  |   |
|  |   |
| 参考図書   |   |
| 講義の際に適宜ビデオと資料を活用する。                            |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法                      | 最終講義時に全体にむけてフィードバックを行う。                     |
| 備考   | 毎回、授業開始時に資料を配布する。<br>主体的に取り組むこと。質問は随時受け付ける。 |

| 授業科目名   |   | 担当教員      |      |    |                                  |                            |
|---|---|-----------|------|----|----------------------------------|----------------------------|
| 医療と経済   |   | 塩野 美里     |      |    |                                  |                            |
| 必修・選択   | 配当年次  | 単位数(時間数)  | 開講形態 |    |                                  |                            |
| 必修  | 3年 後学期  | 1単位(15時間) | 講義   |    |                                  |                            |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員     |      |    |                                  |                            |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   | 医療法人勤務    |      |    |                                  |                            |
| 授業概要  |   |           |      |    |                                  |                            |
| 経済学・行動経済学・経営学・医療サービス、TQM（総合的質経営）の観点から医療について考えることで、医療を多角的にとらえる視点を養い、医療経営や医療の質向上のための知識・スキルを習得する。  |   |           |      |    |                                  |                            |
| 学修の到達目標   |   |           |      |    |                                  |                            |
| ①日本の医療がおかれている現状と今後の展望について理解し、自分の言葉で説明できる。<br>②経済学・行動経済学・経営学の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。<br>③医療経営の質向上のための具体的な提案ができる。<br>④サービス業の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。<br>⑤医療の質向上のための具体的な提案ができる。 |   |           |      |    |                                  |                            |
| 回   | 授業計画  | 到達目標      | 担当   | 形態 | 事前学習                             | 事後学習                       |
| 1   | オリエンテーション、講義の進め方と成績評価の説明。日本の医療の現状について考える。           | ①         |      |    | 日本の医療の現状について考えてくる(120分)          | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 2   | 日本の医療のこれからについて考える。                                  | ②         |      |    | 日本の医療のこれからについて考えてくる(120分)        | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 3   | 経済学の観点から医療について考える。                                  | ②         |      |    | 経済学の観点から医療について考えてくる(120分)        | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 4   | 行動経済学の観点から医療について考える。                                | ②         |      |    | 行動経済学の観点から医療について考えてくる(120分)      | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 5   | 経営学の観点から医療について考える。                                  | ③         |      |    | 経営学の観点から医療について考えてくる(120分)        | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 6   | 医療組織の経営分析の手法を学び、経営の質向上のための取組みについて考える。               | ④         |      |    | 経営分析の観点から医療について考えてくる(120分)       | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 7   | サービス業として医療をとらえる意義や、患者満足度・職員満足度の重要性や満足度向上の取組みについて考える | ⑤         |      |    | サービス業の観点から医療について考えてくる(120分)      | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 8   | TQM（総合的質経営）の重要性や取組みについて考える                          | ⑤         |      |    | 医療サービスの質向上の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
|   | 定期試験 課題   |           |      |    |                                  |                            |

| 評価基準・評価方法                         |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 課題レポート（100％）を総合的に評価する。定期試験は実施しない。 |                                |
| 使用教科書                             |                                |
| なし                                |                                |
| 参考図書                              |                                |
| 適宜講義にて紹介する。                       |                                |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法         | 事前課題レポートについて、全体の総評コメントを講義にて行う。 |
| 備考                                |                                |

| 授業科目名   |   | 担当教員                                |              |             |   |   |
|---|---|-------------------------------------|--------------|-------------|---|---|
| 基礎看護技術Ⅲ（診察・処置）  |   | 長屋 江見・眞田 正世・佐々木 智恵・坂本 裕子（代表教員 長屋江見） |              |             |   |   |
| 必修・選択   | 配当年次                                    | 単位数(時間数)                            |              | 開講形態        |   |   |
| 必修  | 2年 前学期                                  | 2単位(90時間)                           |              | 講義・演習 オムニバス |   |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員                               |              |             |   |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   | 長屋江見・眞田正世・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）           |              |             |   |   |
| 授業概要  |   |                                     |              |             |   |   |
| 療養環境にある看護の対象が健康を回復するための診療時の援助技術について、具体的な援助方法（導尿、吸引、静脈血採血、薬物療法）を講義・演習を通して学ぶ。援助技術一つひとつの基礎となる諸要素と根拠を理解する。演習において対象者への援助を行う中で、侵襲に伴う負担や羞恥心に配慮した技術と態度を学ぶ。      |   |                                     |              |             |   |   |
| 学修の到達目標   |   |                                     |              |             |   |   |
| ① 看護者が実践する看護技術の基本が実施できる。<br>② 看護技術の実施にあたり、解剖生理を理解し、看護技術の根拠となる知識を説明できる。<br>③ 対象者への侵襲に伴う負担や羞恥心の配慮を考えた上で看護技術を実施できる。<br>④ 浣腸・導尿・吸引・静脈血採血・薬物療法についての技術を実施できる。 |   |                                     |              |             |   |   |
| 回   | 授業計画                                    | 到達目標                                | 担当           | 形態          | 事前学習  | 事後学習                                      |
| 1   | 診察・治療・処置に伴う看護の意義・目的<br>検査の目的・方法・看護 身体計測 | ①<br>②                              | 佐々木          | 講義          | 教科書基礎看護技術Ⅱ（診察・検査・処置における技術）を読み、疑問点を明確にしておく。配布資料に目を通す 30分 | 講義資料の内容を見直し、まとめる。60分                      |
| 2   | 検体検査（静脈血採血以外）                           | ①<br>②                              | 佐々木          | 講義          | 教科書基礎看護技術Ⅱ（検体検査）を読み、疑問点を明確にしておく。配布資料に目を通す 30分           | 講義資料の内容を見直し、まとめる。30分                      |
| 3   | 非経口栄養法（中心静脈栄養法）                         | ①<br>②                              | 長屋           | 講義          | 教科書を読み、経管栄養法の復習をする 60分                                  | 無料視聴教材を使用し、知識を深める 30分                     |
| 4   | 浣腸・摘便                                   | ①<br>②                              | 佐々木          | 講義          | 教科書基礎看護技術Ⅱ（排便を促す援助）を読み、内容を理解しておく。排泄に関わる解剖生理を理解しておく 60分  | 講義資料の内容を見直し、まとめる。無料視聴教材を使用し、知識を深める 30分    |
| 5   | 浣腸の実際                                   | ①<br>②<br>③<br>④                    | 佐々木・眞田・長屋・坂本 | 演習          | 演習手順書を作成する。指定の動画教材を視聴し、イメージする 120分                      |   |
| 6   | 浣腸の実際                                   | ①<br>②<br>③<br>④                    | 佐々木・眞田・長屋・坂本 | 演習          |   |   |
| 7   | 浣腸の実際                                   | ①<br>②<br>③<br>④                    | 佐々木・眞田・長屋・坂本 | 演習          |   | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る 60分                |
| 8   | 浣腸 技術試験                                 | ①<br>②<br>③<br>④                    | 佐々木・眞田・長屋・坂本 | 演習          |   |   |
| 9   | 導尿                                      | ①<br>②                              | 長屋           | 講義          | 教科書を読み、尿道～解剖生理、自然排泄の復習をしておく 30分                         | 解剖生理、留意点、看護の視点をまとめる。無料視聴教材を使用し、知識を深める 60分 |

| 回  | 授業計画                    | 到達目標             | 担当         | 形態 | 事前学習   | 事後学習   |
|----|-------------------------|------------------|------------|----|--|--|
| 10 | 導尿の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 | 教科書の動画や無料視聴教材を視聴し演習のイメージをしておく 60分                        |  |
| 11 | 導尿の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 |  | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る 60分                   |
| 12 | 吸引・酸素療法                 | ①<br>②           | 佐々木        | 講義 | 基礎看護技術Ⅱ（酸素療法、排痰ケア）を読み、内容を理解しておく。呼吸に関わる解剖生理を理解しておく 30分    | 講義資料の内容を見直し、まとめておく。無料視聴教材を使用し、知識を深める 30分     |
| 13 | 吸引の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 佐々木・田長・屋坂本 | 演習 | 演習手順書を作成する。指定の動画教材を視聴し、イメージする 60分                        |  |
| 14 | 吸引の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 佐々木・田長・屋坂本 | 演習 |  | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る 60分                   |
| 15 | 薬物療法における基礎知識            | ①<br>②           | 長屋         | 講義 | 薬理学の教科書を復習する。教科書をよく読み疑問点を明確にしておく 30分                     | 薬剤名を薬理学の教科書を使って調べる。無料視聴教材を使用し、知識を深める 60分     |
| 16 | 注射器の取り扱い、針刺し事故防止        | ①<br>②           | 長屋         | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にしておく 30分                                   | 無料視聴教材を使用し、知識を深める 30分                        |
| 17 | 静脈血採血の実施方法（血液検体の取り扱い）   | ①<br>②           | 長屋         | 講義 | 教科書を読み、血管の走行・神経などの解剖生理を理解しておく 30分                        | 解剖生理、留意点、根拠、看護の視点をまとめる。無料視聴教材を使用し、知識を深める 60分 |
| 18 | 静脈血採血の実際                | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 | 静脈血採血の援助が安全・安楽に実施できるよう教科書の動画や無料視聴教材を視聴しイメージトレーニングする 180分 |  |
| 19 | 静脈血採血の実際                | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 |  |  |
| 20 | 静脈血採血の実際                | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 |  |  |
| 21 | 静脈血採血の実際                | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 |  | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る 60分                   |
| 22 | 静脈血採血 技術試験              | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋眞・田佐々・坂本 | 演習 |  |  |
| 23 | 注射適用の援助（筋肉注射・皮下注射・皮内注射） | ①<br>②           | 長屋         | 講義 | 教科書を読み、神経の走行など解剖生理を理解しておく 60分                            |  |

| 回  | 授業計画                    | 到達目標             | 担当                    | 形態 | 事前学習  | 事後学習   |
|----|-------------------------|------------------|-----------------------|----|---|--|
| 24 | 注射適応の援助（筋肉注射・皮下注射・皮内注射） | ①<br>②           | 長屋                    | 講義 |   | 解剖生理、留意点、根拠、看護の視点をまとめる。無料視聴教材を使用し、知識を深める 60分 |
| 25 | 筋肉注射の実際                 | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋<br>佐々木<br>坂本       | 演習 | 注射の援助が安全・安楽に実施できるよう教科書の動画を視聴や無料視聴教材しイメージトレーニングする 120分 |  |
| 26 | 筋肉注射の実際                 | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋<br>眞田<br>佐々木<br>坂本 | 演習 |   |  |
| 27 | 筋肉注射の実際                 | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋<br>眞田<br>佐々木<br>坂本 | 演習 |   | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る 60分                   |
| 28 | 筋肉注射 技術試験               | ①<br>②<br>③<br>④ | 長屋<br>眞田<br>佐々木<br>坂本 | 演習 |   |  |
| 29 | 静脈内注射・点滴静脈内注射           | ①<br>②           | 長屋                    | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にしておく 60分                                |  |
| 30 | 静脈内注射・点滴静脈内注射           | ①<br>②           | 長屋                    | 講義 |   | 点滴滴下速度の計算問題。無料視聴教材を使用し、知識を深める 60分            |
|    | 試験（筆記）                  |                  |                       |    |   |  |

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：筆記試験50%  
精神運動・情意領域（技術・態度）：演習レポート 10% 技術試験 40%

使用教科書

系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ / 任 和子他. --第18版--医学書院, 2021年, 978-4-260-04212-3

参考図書

- ・岡庭豊：看護技術がみえるvol12臨床看護技術，メディックメディア
- ・竹内修二・松永保子編：解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠Q &A, 照林社

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法 | 各講義時にレポートに対する内容説明や、小テストの解答・説明を行っていく   |
| 備考                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。</li> <li>・レポート・演習に関して、講義・演習時に説明を行う。</li> <li>・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。</li> <li>・身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。</li> <li>・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。</li> <li>・自己練習を自主的に行うこと。</li> <li>・技術試験が不合格の者は再試験を行う。</li> <li>・講義や演習内容・担当者は変更することがある。</li> </ul> |

| 授業科目名  |                           | 担当教員                                |              |    |  |                           |
|--|---------------------------|-------------------------------------|--------------|----|--|---------------------------|
| 基礎看護技術Ⅳ（基礎看護実習Ⅱ事前演習）   |                           | 眞田 正世・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子（代表教員 眞田正世） |              |    |  |                           |
| 必修・選択  | 配当年次                      | 単位数(時間数)                            | 開講形態         |    |  |                           |
| 必修   | 2年 前学期                    | 1単位(30時間)                           | 講義・演習        |    |  |                           |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                           | 実務家教員                               |              |    |  |                           |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                           | 眞田正世・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）           |              |    |  |                           |
| 授業概要   |                           |                                     |              |    |  |                           |
| 事例を通じて看護の対象の健康段階や健康障害に応じた看護の展開方法（情報収集の方法、情報の分析・解釈、関連図の作成、看護計画立案・実施、看護計画の評価・修正）を学ぶ。看護計画の実施の演習に当たっては、安全・安楽・自立を考慮し、メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれるようにする。   |                           |                                     |              |    |  |                           |
| 学修の到達目標  |                           |                                     |              |    |  |                           |
| ① クリティカルシンキング・看護過程の意義・目的・方法を説明できる。<br>② 事例をもとに、科学的根拠に基づいて分析し、看護問題を抽出することができる。<br>③ 対象に応じた看護計画・日常生活の援助計画を立案できる。<br>④ 日常生活援助技術を対象に応じて安全・安楽に実施できる。<br>⑤ 実施した援助を振り返り評価・修正できる。<br>⑥ メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれる。 |                           |                                     |              |    |  |                           |
| 回  | 授業計画                      | 到達目標                                | 担当           | 形態 | 事前学習                                       | 事後学習                      |
| 1  | クリティカルシンキング、看護過程の意義       | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田           | 講義 | 事例患者の疾患について解剖生理・病態生理をまとめる<br>90分           | 事例の対象疾患や治療等の学習をする<br>90分  |
| 2  | 看護過程の構成要素<br>アセスメント（情報収集） | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田           | 講義 |  |                           |
| 3  | アセスメント（分析）①               | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田           | 講義 |  | 常在条件・病理的状態を記入する 30分       |
| 4  | アセスメント（分析）②               | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田           | 講義 |  | 常在条件・病理的状態を記入する 30分       |
| 5  | アセスメント 基本的欲求の状態           | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田           | 講義 | 常在条件・病理的状態を提出する                            | 基本的欲求の状態を記入する 60分         |
| 6  | 情報の分析と解釈の実際 ①             | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田・長屋・佐々木・坂本 | 演習 |  | 基本的欲求の状態を記入する 30分         |
| 7  | 情報の分析と解釈の実際 ②             | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田・長屋・佐々木・坂本 | 演習 |  | 基本的欲求の状態を修正する 30分         |
| 8  | 看護問題の抽出 ①                 | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田           | 講義 | 分析した結果から看護問題の抽出をする<br>30分<br>基本的欲求の状態を提出する | 分析した結果から看護問題の抽出をする<br>60分 |
| 9  | 看護問題の抽出 ②                 | ①<br>②<br>③<br>⑥                    | 眞田・長屋・佐々木・坂本 | 演習 |  | 看護問題を修正する<br>30分          |

| 回   | 授業計画   | 到達目標             | 担当                         | 形態 | 事前学習                       | 事後学習                           |
|---|--|------------------|----------------------------|----|----------------------------|--------------------------------|
| 10  | 看護計画立案 ①   | ①<br>②<br>③<br>⑥ | 眞田                         | 講義 | 看護計画を立案する<br>30分<br>看      | 看護計画を立案する<br>援助計画<br>を立案する 90分 |
| 11  | 看護計画立案 ②   | ①<br>②<br>③<br>⑥ | 眞田・長・<br>屋・々・<br>佐木・<br>坂本 | 演習 | 看護計画を提出する<br>援助計画を提<br>出する | 看護計画を修正する<br>援助計画<br>を修正する 60分 |
| 12  | 看護計画に沿った援助の実際（バイタルサインの観察） ①  | ①<br>④<br>⑤<br>⑥ | 眞田・長・<br>屋・々・<br>佐木・<br>坂本 | 演習 |                            | 看護計画の加筆・修<br>正をする 60分          |
| 13  | 看護計画に沿った援助の実際（バイタルサインの観察） ②  | ①<br>④<br>⑤<br>⑥ | 眞田・長・<br>屋・々・<br>佐木・<br>坂本 | 演習 |                            | 看護計画の加筆・修<br>正をする 60分          |
| 14  | 看護計画の評価と修正 ①   | ①<br>④<br>⑤<br>⑥ | 眞田                         | 講義 |                            | 看護計画の評価をす<br>る 60分             |
| 15  | 看護計画の評価と修正 ②<br>まとめ  | ①<br>④<br>⑤<br>⑥ | 眞田・長・<br>屋・々・<br>佐木・<br>坂本 | 演習 |                            | 看護計画の評価・修<br>正をする 60分          |
| 評価基準・評価方法   |  |                  |                            |    |                            |                                |
| 認知領域（知識）：課題レポート50%<br>精神運動・情意領域（技術・態度）：最終レポート50%  |  |                  |                            |    |                            |                                |
| 使用教科書   |  |                  |                            |    |                            |                                |
| 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 / 秋葉公子他. --第4版--ヌーヴェルヒロカワ, 2016年, 978-4-86174-056-5  |  |                  |                            |    |                            |                                |
| 参考図書  |  |                  |                            |    |                            |                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・香春知永・齋藤やよい編：基礎看護技術、南江堂</li> <li>・村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社</li> <li>・任 和子他：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院</li> </ul> |  |                  |                            |    |                            |                                |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | レポート・演習に関して、講義・演習時に説明を行う。<br>質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。  |                  |                            |    |                            |                                |
| 備考  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己練習を自主的に行うこと。</li> <li>・講義や演習内容・担当者は変更することがある。</li> </ul> |                  |                            |    |                            |                                |

| 授業科目名  |   | 担当教員                                  |      |    |      |      |
|--|---|---------------------------------------|------|----|------|------|
| 基礎看護学実習Ⅱ（発展）   |   | 眞田 正世・長屋 江見・佐々木 智恵・坂本 裕子・他（代表教員眞田 正世） |      |    |      |      |
| 必修・選択  | 配当年次  | 単位数(時間数)                              | 開講形態 |    |      |      |
| 必修   | 2年 前学期  | 2単位(90時間)                             | 実習   |    |      |      |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |   | 実務家教員                                 |      |    |      |      |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |   | 眞田正世・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子・他（看護師）           |      |    |      |      |
| 授業概要   |   |                                       |      |    |      |      |
| 対象の看護の過程が展開でき、看護学生としての実習に対する学習態度を学ぶ。   |   |                                       |      |    |      |      |
| 学修の到達目標  |   |                                       |      |    |      |      |
| ① 対象の全体像を把握するための情報を収集することができる。<br>② 科学的根拠に基づいた情報の分析・解釈から看護問題を抽出することができる。<br>③ 対象の個別性を考慮した看護計画を立案することができる。<br>④ 看護計画に基づいた援助を実施することができる。<br>⑤ 看護計画の評価・修正ができる。<br>⑥ 援助計画を立案し、実施・評価できる。<br>⑦ 看護学生として必要な責任ある行動ができ周囲との関係を築くことができる。 |   |                                       |      |    |      |      |
| 回  | 授業計画  | 到達目標                                  | 担当   | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|  | I. 実習施設   |                                       |      |    |      |      |
|  | 平野総合病院・岐阜清流病院・関中央病院・岩砂病院 岩砂マタニティ・各務原リハビリテーション病院・山内ホスピタル |                                       |      |    |      |      |
|  | II. 実習方法  |                                       |      |    |      |      |
|  | 1. 学生を1グループ2～6名に編成し、2週間臨地実習を行う                          |                                       |      |    |      |      |
|  | 2. 1グループ1～2名の教員が担当する                                    |                                       |      |    |      |      |
|  | 3. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う             |                                       |      |    |      |      |
|  | 4. 学生1～2名で対象者1名を受け持ちとし看護過程を展開する                         |                                       |      |    |      |      |
|  | 5. 実習前に対象者の健康段階や治療状況、機能障害の状況等の情報を受け、事前学習に活用する           |                                       |      |    |      |      |
|  | 6. 実習中は教員、実習指導者のアドバイスを受けながら看護問題を抽出し、計画立案、実践する           |                                       |      |    |      |      |

| 回   | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
|   | 7. 毎日カンファレンスを計画・実施し、1日の振り返りおよび翌日の計画について検討する  |      |    |    |      |      |
|   | 8. 学生は、実習目標に対する達成状況や学びを実習記録にまとめ提出する  |      |    |    |      |      |
|   | 9. 学生は、看護学生であることを自覚した言動と態度、謙虚な姿勢を学ぶ  |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法                                     |  |      |    |    |      |      |
| 目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 |  |      |    |    |      |      |
| 使用教科書   |  |      |    |    |      |      |
| 参考図書  |  |      |    |    |      |      |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法                     | 実習記録の添削と指導および技術の指導に含める。  |      |    |    |      |      |
| 備考  | 履修前提条件：1年次の専門基礎科目全て、看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰを単位修得済みであること。基礎看護技術Ⅲ・Ⅳ、フィジカルアセスメントを履修中であること。 |      |    |    |      |      |

| 授業科目名  |  | 担当教員   |            |    |  |   |
|--|--|--|------------|----|--|---|
| 成人看護活動論Ⅰ（基礎）   |  | 古田 弥生・林 宗典・森岡 菜穂子・飯沼 温美・粥川 誠至（代表教員 古田 弥生）            |            |    |  |   |
| 必修・選択  | 配当年次                                   | 単位数(時間数)   | 開講形態       |    |  |   |
| 必修   | 2年 前学期                                 | 3単位(135時間)   | 講義・演習 オムバス |    |  |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員  |            |    |  |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 古田弥生（看護師） 森岡菜穂子（看護師） 林宗典（看護師）<br>飯沼温美（看護師） 粥川誠至（看護師） |            |    |  |   |
| 授業概要   |  |  |            |    |  |   |
| 慢性的経過をたどり、生涯に渡って生活のコントロールを必要とする対象者とその家族への看護を学習する。慢性疾患の特徴や、セルフケア能力を高める看護援助について学習する。成人期における健康障害の特徴を踏まえ、終末期を迎える対象者やその家族への看護援助について学習する。ライフスタイルにおける主な慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し分かりやすく学習を行う。また、グループワークを活用し学びを深めていく。患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習がしやすいように進める。 |  |  |            |    |  |   |
| 学修の到達目標  |  |  |            |    |  |   |
| ①慢性的経過をたどる対象および家族の特徴を知り看護について説明できる。<br>②日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けた看護の教育的役割を説明できる。<br>③終末期における対象及び家族への看護についてを説明できる。<br>④慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。  |  |  |            |    |  |   |
| 回  | 授業計画                                   | 到達目標   | 担当         | 形態 | 事前学習   | 事後学習  |
| 1  | 慢性期看護とは                                | ①<br>②<br>④  | 古田         | 講義 | 教科書「慢性期」P.2～38を精読し、慢性期看護についてまとめる（45分）                          | 慢性疾患の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）                |
| 2  | 慢性期患者の特徴                               | ①<br>②<br>④  | 古田         | 講義 | 教科書「慢性期」P.42～68を精読し、慢性期患者の特徴をまとめる（45分）                         | 慢性期患者の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）               |
| 3  | 慢性疾患患者の看護的支援                           | ①<br>②<br>④  | 古田         | 講義 | 教科書「慢性期」P.25～29・175～180・367～373を精読し、慢性期における看護支援をまとめる（45分）      | 理論やセルフマネジメントについて教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）           |
| 4  | 高血圧患者の看護/疾患の理解/高血圧の基準・分類・種類とその身体に及ぼす影響 | ①<br>②<br>④  | 林          | 講義 | 教科書「循環器」P.165～175、P.336～338を精読し、高血圧の病態生理を学習する（45分）             | 高血圧患者の看護について、高血圧の病態生理を理解し、教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分） |
| 5  | 虚血性心疾患患者の看護/疾患の理解と疾患に応じた治療・看護          | ①<br>②<br>④  | 林          | 講義 | 教科書「循環器」P.122～151・P.312～323を精読し、循環器の解剖生理・虚血性心疾患の病態生理を学習する（45分） | 虚血性心疾患の病態生理を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）               |
| 6  | 虚血性心疾患患者の看護/疾患の理解と疾患に応じた治療・看護          | ①<br>②<br>④  | 林          | 講義 | 教科書「循環器」P.122～151・P.312～322を精読し、虚血性心疾患患者の看護を学習する（45分）          | 虚血性心疾患患者の看護を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）               |
| 7  | 循環器看護に必要な心電図                           | ①<br>②<br>④  | 林          | 講義 | 教科書「循環器」P.52～60・P.175～176・P.264～267を精読し、心電図が必要な患者の看護を学習する（45分） | 循環器看護に必要な心電図を、教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）             |
| 8  | 心不全患者の看護/疾患の理解/病態とその分類/治療・看護           | ①<br>②<br>④  | 林          | 講義 | 教科書「循環器」P.152～164・323～335を精読し、心不全の病態生理を学習する（45分）               | 心不全の病態生理を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）                  |
| 9  | 心不全患者の看護/疾患の理解/病態とその分類/治療・看護           | ①<br>②<br>④  | 林          | 講義 | 教科書「循環器」P.152～164・323～335を精読し、心不全患者の看護を学習する（45分）               | 心不全患者の看護を教科書・資料を基に講義内容を復習する（45分）                  |

| 回  | 授業計画                                  | 到達目標        | 担当 | 形態 | 事前学習  | 事後学習   |
|----|---------------------------------------|-------------|----|----|---|--|
| 10 | 脳梗塞のある人の看護                            | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「脳神経」<br>P. 23～50・<br>133～143を精読し、<br>脳の解剖生理・脳梗<br>塞について復習する                     | 脳梗塞の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）              |
| 11 | 脳出血のある人の看護                            | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「脳神経」<br>P. 122～132を精読し、<br>脳の解剖生理・脳出血<br>・クモ膜下出血につ<br>いて復習する（45分）               | 脳出血の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に復習する（45分）                       |
| 12 | HIV感染/AIDSのある人の看護                     | ①<br>②<br>④ | 古田 | 講義 | 教科書「感染症」<br>P. 333～337・<br>375～380を精読し、<br>免疫機能・<br>HIV/AIDSについて復                   | HIV/AIDSの看護につ<br>いて教科書・資料を<br>基に講義内容を復習<br>する（45分）         |
| 13 | 前立腺がんのある人の看護                          | ①<br>②<br>④ | 林  | 講義 | 教科書「腎・泌尿器」<br>P. 163～165・181～183・<br>278～282を精読し、泌尿<br>器系の解剖生理について復<br>習する（45分）     | 前立腺がんの看護に<br>ついて教科書・資料<br>を基に講義内容を復<br>習する（45分）            |
| 14 | 関節リウマチのある人の看護                         | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「膠原病」<br>P. 130～134・<br>150～156を精読し、<br>関節リウマチにつ<br>いて復習する（45分）                  | 関節リウマチの看護<br>について教科書・資<br>料を基に講義内容を<br>復習する（45分）           |
| 15 | 全身性エリテマトーデスのある人の看護                    | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「膠原病」<br>P. 156～161を精読し、<br>免疫異常・全身性エ<br>リテマトーデスにつ<br>いて復習する（45分）                | 全身性エリテマトー<br>デスの看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）  |
| 16 | 甲状腺機能亢進症/低下症のある人の看護                   | ①<br>②<br>④ | 古田 | 講義 | 教科書「内分泌」<br>P. 25～28・97～108・<br>210～218を精読し、内分<br>泌機能・甲状腺機能亢<br>進/低下症について復<br>習する   | 甲状腺機能亢進/低<br>下症の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）  |
| 17 | 慢性腎不全（慢性腎臓病）患者の看護/疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | ①<br>②<br>④ | 林  | 講義 | 教科書「腎・泌尿器」<br>P. 18～32・40～45・<br>55～60・115～123を精読し<br>、腎臓の構造と機能・疾患<br>について学習する（45分） | 慢性腎不全（慢性腎<br>臓病）の病態生理を<br>、教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分） |
| 18 | 慢性腎不全（慢性腎臓病）患者の看護/疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | ①<br>②<br>④ | 林  | 講義 | 教科書「腎・泌尿器」<br>P. 247～252を精読し<br>、腎疾患・看護に<br>ついて学習する<br>（45分）                        | 慢性腎不全（慢性腎<br>臓病）患者の看護を<br>、教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分） |
| 19 | 人工透析を受ける人の看護                          | ①<br>②<br>④ | 粥川 | 講義 | 教科書「慢性期」<br>P. 140～150を精読し<br>、血液浄化療法につ<br>いてまとめる（45分）                              | 血液浄化療法時の看<br>護について教科書・<br>資料を基に講義内容<br>を復習する（45分）          |
| 20 | 慢性肝炎/肝硬変のある人の看護                       | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「消化器」<br>P. 31～36・210～242を精読<br>し、肝臓の解剖生理・慢性<br>肝炎・肝硬変について復<br>習する（45分）          | 慢性肝炎/肝硬変の<br>看護について教科書<br>・資料を基に講義内<br>容を復習する（45分<br>）     |
| 21 | 肝がんのある人の看護                            | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「消化器」<br>P. 243～247を精読し<br>、肝臓の解剖生理・<br>肝臓について復習す<br>る（45分）                      | 肝臓の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）               |
| 22 | 胃/十二指腸潰瘍のある人の看護                       | ①<br>②<br>④ | 古田 | 講義 | 教科書「消化器」<br>P. 19～24・156～164・<br>354～358を精読し、胃・十<br>二指腸の解剖生理・消化<br>管潰瘍について復習す<br>る  | 消化管潰瘍の看護に<br>ついて教科書・資料<br>を基に講義内容を復<br>習する（45分）            |
| 23 | 潰瘍性大腸炎/クローン病のある人の看護                   | ①<br>②<br>④ | 森岡 | 講義 | 教科書「消化器」<br>P. 315～327を精読し、消化<br>管の解剖生理・潰瘍性大<br>腸炎/クローン病につ<br>いて復習する（45分）           | 潰瘍性大腸炎/クロ<br>ーン病の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分） |

| 回  | 授業計画              | 到達目標        | 担当            | 形態 | 事前学習  | 事後学習  |
|----|-------------------|-------------|---------------|----|---|---|
| 24 | 肺炎のある人の看護         | ①<br>②<br>④ | 古田            | 講義 | 教科書「呼吸器」<br>P. 20～39・141～152・<br>305～307を精読し、肺<br>の解剖生理・肺炎につ<br>いて復習する（45分）   | 肺炎の看護について<br>教科書・資料を基に<br>講義内容を復習する<br>（45分）            |
| 25 | 慢性閉塞性肺疾患のある人の看護   | ①<br>②<br>④ | 古田            | 講義 | 教科書「呼吸器」<br>P. 183～187・<br>226～230・323～337を<br>精読し、慢性閉塞性肺<br>疾患について復習する       | 慢性閉塞性肺疾患の<br>看護について教科書<br>・資料を基に講義内<br>容を復習する（45分<br>）  |
| 26 | 肺がんのある人の看護        | ①<br>②<br>④ | 古田            | 講義 | 教科書「呼吸器」<br>P. 199～212・<br>231～234・<br>345～354を精読し、<br>肺がんについて復習              | 肺がんの看護につい<br>て教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）           |
| 27 | 肺がんに対する化学療法の看護    | ①<br>②<br>④ | 古田            | 講義 | 教科書「呼吸器」<br>P. 199～212・<br>231～234・<br>345～355を精読し、<br>化学療法についてま              | 肺がんの看護につい<br>て教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）           |
| 28 | 白血病のある人の看護        | ①<br>②<br>④ | 森岡            | 講義 | 教科書「血液・造血器」<br>P. 18～24・72～74・<br>97～119を精読し、血液・<br>免疫系の解剖生理につ<br>いて復習する（45分） | 白血病の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）           |
| 29 | 白血病のある人の看護        | ①<br>②<br>④ | 森岡            | 講義 | 教科書「血液・造血器」<br>P. 18～24・72～74・<br>97～119を精読し、血液・<br>免疫系の解剖生理につ<br>いて復習する（45分） | 白血病の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）           |
| 30 | 糖尿病のある人の看護        | ①<br>②<br>④ | 林             | 講義 | 教科書「内分泌」<br>P. 132～164を精読し<br>、代謝障害・糖尿病<br>について復習する<br>（45分）                  | 糖尿病の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）           |
| 31 | 糖尿病のある人の看護        | ①<br>②<br>④ | 林             | 講義 | 教科書「内分泌」<br>P. 243～286を精読し<br>、代謝疾患糖尿病患<br>者の看護について学<br>習する（45分）              | 糖尿病の看護につ<br>いて教科書・資料を基<br>に講義内容を復習す<br>る（45分）           |
| 32 | 緩和ケア 死生観 身体の苦痛の緩和 | ③           | 飯沼            | 講義 | 死生観とは何かを調<br>べまとめる（45分）   | 死生観・苦痛の緩和<br>について教科書・資<br>料を基に講義内容を<br>復習する（45分）        |
| 33 | 緩和ケア 緩和ケアの考え方     | ③           | 飯沼            | 講義 | 緩和ケアとは何かを<br>調べまとめる（45分<br>）  | 緩和ケアについて教<br>科書・資料を基に講<br>義内容を復習する<br>（45分）             |
| 34 | 緩和ケア 緩和ケアにおける薬物療法 | ③           | 飯沼            | 講義 | 緩和ケアにおける薬<br>物療法について調べ<br>まとめる（45分）   | 緩和ケアにおける薬<br>物療法について教科<br>書・資料を基に講義<br>内容を復習する<br>（45分） |
| 35 | 食事療法・運動療法の実際 計画   | ①<br>②<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | その都度提示した演<br>習事前課題を実施す<br>る（50分）  | 演習課題を実施する<br>（50分）                                      |
| 36 | 食事療法・運動療法の実際 実施   | ①<br>②<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | その都度提示した演<br>習事前課題を実施す<br>る（50分）  | 演習課題を実施する<br>（50分）                                      |
| 37 | 食事療法・運動療法の実際 実施   | ①<br>②<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | その都度提示した演<br>習事前課題を実施す<br>る（50分）  | 演習課題を実施する<br>（50分）                                      |

| 回  | 授業計画                                     | 到達目標        | 担当            | 形態 | 事前学習                      | 事後学習            |
|--|--|-------------|---------------|----|---------------------------|-----------------|
| 38   | 食事療法・運動療法の実際 発表・まとめ                      | ①<br>②<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | その都度提示した演習事前課題を実施する (50分) | 演習課題を実施する (50分) |
|  | 定期試験 (筆記)                                |             |               |    |                           |                 |
| 評価基準・評価方法  |  |             |               |    |                           |                 |
| 定期試験 (80%)、演習課題 (20%) を参考に総合評価する。  |  |             |               |    |                           |                 |
| 使用教科書  |  |             |               |    |                           |                 |
| 成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美他.--改訂第3版--南江堂, 2019年, 978-4-524-24198-9<br>成人看護学 急性期看護<1>概論・周手術期看護 / 林直子他.--改訂第3版--南江堂, 2019年, 978-4-524-24163-7<br>ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア / 宮下光合他.--第3版--メディカ出版, 2022年, 978-4-8404-7540-2<br>系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 2呼吸器、3循環器、4血液・造血器、5消化器、6内分泌・代謝、7脳・神経、8腎・泌尿器、11アレルギー・膠原病・感染症 / 第15版--医学書院, 2021年, |  |             |               |    |                           |                 |
| 参考図書   |  |             |               |    |                           |                 |
| 必要に応じて紹介する。  |  |             |               |    |                           |                 |
| 課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法  | オムニバス形式のため各担当教員の最後の講義時、課題の振り返りを行う。       |             |               |    |                           |                 |
| 備考   | 教員が解剖生理、疾病、看護について学生の質問にその都度応じながら指導をしていく。 |             |               |    |                           |                 |

| 授業科目名   |                 | 担当教員   |    |            |  |  |
|---|-----------------|--|----|------------|--|--|
| 成人看護活動論Ⅱ（発展）  |                 | 古田 弥生・林 宗典・森岡 菜穂子・片岡 恵美（代表教員 古田 弥生）            |    |            |  |  |
| 必修・選択   | 配当年次            | 単位数(時間数)                                       |    | 開講形態       |  |  |
| 必修  | 2年 後学期          | 2単位(90時間)                                      |    | 講義・演習 オムバス |  |  |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |                 | 実務家教員  |    |            |  |  |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |                 | 古田 弥生(看護師) 森岡 菜穂子(看護師) 林 宗典(看護師)<br>片岡 恵美(看護師) |    |            |  |  |
| 授業概要  |                 |  |    |            |  |  |
| <p>周手術期および生命危機状態にある患者とその家族への看護の知識と技術を学習する。急性期の特徴や、手術侵襲によって引き起こされる身体メカニズムの中から必要な看護について学び理解を深める。主な手術を必要とする疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し学びを深めていく。演習では患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習がしやすいように進める。</p> |                 |  |    |            |  |  |
| 学修の到達目標   |                 |  |    |            |  |  |
| <p>①手術を受ける患者・家族の反応とそれに対する看護について説明できる。<br/>         ②手術の侵襲によって引き起こされる生命反応を説明できる。<br/>         ③術後合併症の発生リスクを理解し、予防的な看護を説明できる。<br/>         ④術後の患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。</p>   |                 |  |    |            |  |  |
| 回   | 授業計画            | 到達目標   | 担当 | 形態         | 事前学習   | 事後学習                                       |
| 1   | 急性期看護の考え方       | ①<br>②   | 森岡 | 講義         | 教科書「急性期」P.2～31を精読し、急性期の定義について学習する(75分)                               | 急性期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)           |
| 2   | 周手術期看護          | ①<br>②   | 古田 | 講義         | 教科書「急性期」P.36～45を精読し、手術侵襲について学習する(75分)                                | 周手術期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)          |
| 3   | 術後看護            | ①<br>②<br>③<br>④                               | 古田 | 講義         | 教科書「急性期」P.94～134を精読し、各表題の正常な機能を学習する(75分)                             | 術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)            |
| 4   | 術後の合併症と観察       | ①<br>②<br>③<br>④                               | 古田 | 講義         | 教科書「急性期」P.94～135を精読し、各表題の正常な機能を学習する(75分)                             | 術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)            |
| 5   | 術前看護            | ①<br>②<br>③<br>④                               | 古田 | 講義         | 教科書「急性期」P.48～66を精読し、術前看護に必要なことをレポートにまとめる(75分)                        | 術前看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)            |
| 6   | 術中看護            | ①<br>②<br>③<br>④                               | 古田 | 講義         | 教科書「急性期」P.68～91を精読し、術中看護に必要なことをレポートにまとめる(75分)                        | 術中看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)            |
| 7   | 直腸切除術を受ける人の看護   | ①<br>②<br>③<br>④                               | 林  | 講義         | 教科書「消化器」P.201～207・389～396を精読し、大腸の解剖生理について復習する(75分)                   | 大腸・直腸除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)      |
| 8   | 胃切除術を受ける人の看護    | ①<br>②<br>③<br>④                               | 古田 | 講義         | 教科書「消化器」P.19～24・165～172・358～367を精読し、事前課題の資料を基に胃の解剖生理・胃癌について復習する(75分) | 胃癌・胃切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分)      |
| 9   | 急性心筋梗塞を発症した人の看護 | ①<br>②<br>③<br>④                               | 片岡 | 講義         | 教科書「循環器」P.92～115を精読し、循環器疾患における治療について学習する(75分)                        | 循環器における外科的手術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(75分) |

| 回  | 授業計画                  | 到達目標             | 担当            | 形態 | 事前学習   | 事後学習  |
|----|-----------------------|------------------|---------------|----|--|---|
| 10 | 心臓カテーテル治療を受ける人の看護     | ①<br>②<br>③<br>④ | 片岡            | 講義 | 教科書「循環器」P. 68～78を精読し、心臓カテーテル法について学習する (75分)                        | 心臓カテーテル治療の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (75分)      |
| 11 | 乳房切除術を受ける人の看護         | ①<br>②<br>③<br>④ | 森岡            | 講義 | 教科書「女性生殖器」P. 21～22・147～166を精読し、事前課題の資料を基に乳房の解剖生理・乳癌について復習する (75分)  | 乳癌・乳房切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (75分)       |
| 12 | 子宮摘出術を受ける人の看護         | ①<br>②<br>③<br>④ | 森岡            | 講義 | 教科書「女性生殖器」P. 22～25・116～127を精読し、事前課題の資料を基に子宮の解剖生理・子宮癌について復習する (75分) | 子宮癌・子宮摘出術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (75分)      |
| 13 | 胆嚢切除術を受ける人の看護         | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田            | 講義 | 教科書「消化器」P. 248～252・419～422を精読し、胆嚢の解剖生理・胆石症について復習する                 | 胆嚢切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (75分)          |
| 14 | 開頭術を受ける患者の看護 (脳腫瘍)    | ①<br>②<br>③<br>④ | 林             | 講義 | 教科書「脳神経」P. 147～153・303～311を精読し、脳腫瘍の疾患理解と開頭術を受ける患者の看護を学習する (75分)    | 開頭術 (脳腫瘍) を受ける患者の看護を、教科書・資料を基に講義内容を復習する (75分) |
| 15 | 術直後の観察                | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | 演習課題を実施する (75分)  | 演習の振り返りレポートを作成する<br>配信動画を視聴する (75分)           |
| 16 | 術直後の観察                | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | 演習課題を実施する (75分)  | 演習の振り返りレポートを作成する<br>配信動画を視聴する (75分)           |
| 17 | 直腸切除術を受ける人の看護 (事例・演習) | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | 演習事前課題を実施する (75分)  | 演習課題を実施する (75分)                               |
| 18 | 直腸切除術を受ける人の看護 (事例・演習) | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | 演習事前課題を実施する (75分)  | 演習課題を実施する (75分)                               |
| 19 | 直腸切除術を受ける人の看護 (事例・演習) | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | 演習事前課題を実施する (75分)  | 演習課題を実施する (75分)                               |
| 20 | 直腸切除術を受ける人の看護 (事例・演習) | ①<br>②<br>③<br>④ | 古田<br>森岡<br>林 | 演習 | 演習事前課題を実施する (75分)  | 演習課題を実施する (75分)                               |
|    | 定期試験 (筆記)             |                  |               |    |  |   |

評価基準・評価方法

定期試験 (80%)、演習課題 (10%)、事例課題 (10%) を参考に総合評価する。

使用教科書

成人看護学急性期看護<1> 概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集。--改訂第3版 --南江堂、2019年、978-4-524-24163-7  
 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (3) 循環器 / 松田直樹他。--第15版--医学書院、2020年、978-4-260-03557-6  
 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (5) 消化器 / 南川 雅子他。--第15版--医学書院、2020年、978-4-260-03562-0  
 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (7) 脳・神経 / 井手 隆文他。--第15版--医学書院、2020年、978-4-260-03561-3  
 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (9) 女性生殖器 / 末岡 浩他。--第15版--医学書院、2020年、978-4-260-03567-5

参考図書

必要に応じて紹介する。

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法 | オムニバス形式のため各担当教員の最後の講義時、課題の振り返りを行う。       |
| 備考                        | 教員が解剖生理、疾病、看護について学生の質問にその都度応じながら指導をしていく。 |

| 授業科目名  |   | 担当教員                             |      |    |   |   |
|--|---|----------------------------------|------|----|---|---|
| 成人看護学実習Ⅰ（慢性、回復期）   |   | 古田 弥生・林 宗典・森岡 菜穂子（代表教員 古田 弥生）    |      |    |   |   |
| 必修・選択  | 配当年次  | 単位数(時間数)                         | 開講形態 |    |   |   |
| 必修   | 2年 後学期  | 3単位(135時間)                       | 実習   |    |   |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |   | 実務家教員                            |      |    |   |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |   | 古田 弥生(看護師) 森岡 菜穂子(看護師) 林 宗典(看護師) |      |    |   |   |
| 授業概要   |   |                                  |      |    |   |   |
| 慢性に経過する疾患と共に、成人期における対象及び健康障害の特性と、健康レベルに応じた患者とその家族の持つ健康問題を総合的に理解し、科学的でかつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を身に付ける。  |   |                                  |      |    |   |   |
| 学修の到達目標  |   |                                  |      |    |   |   |
| ①疾患から生じる健康問題を抱え慢性に経過する患者および家族の特徴を多面的に説明できる。<br>②慢性疾患患者が日常生活の規制の中で自己管理と社会生活の適応ができるよう、科学的根拠に基づき看護の問題解決のプロセスを理解し、問題解決を図り実施できる。<br>③患者の生活を中心とした医療チームの役割と社会資源について説明できる。<br>④看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。 |   |                                  |      |    |   |   |
| 回  | 授業計画  | 到達目標                             | 担当   | 形態 | 事前学習  | 事後学習  |
|  | I. 実習施設   |                                  |      |    |   |   |
|  | 平野総合病院  |                                  |      |    |   |   |
|  | II. 実習方法  |                                  |      |    |   |   |
|  | ・学生80名を1グループ5～6名の20グループに編成し、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。 |                                  |      |    | 慢性期とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。                              | ・看護過程の展開をする中で慢性期の特徴を活用する。                   |
|  | ・実習前オリエンテーションを行う。<br>・平野総合病院の病棟一箇所で行う。<br>・一人の患者を受け持ち看護の実践を行う。                        |                                  |      |    | 慢性期を支える看護として、セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、症状マネジメント、学習支援等について学習する。              | ・看護過程の展開をする中で慢性期の特徴を活用する。                   |
|  | ・事前学習は病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、治療、看護の学習を行う。                                      |                                  |      |    | ・実習病院の概要に記載してある、疾患および検査・治療とその看護について事前学習を行う。                             | ・受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など追加学習を行う。          |
|  | ・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。                                      |                                  |      |    | ・看護過程の展開とはどのようなことか、情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画、評価について学習し、サイクルになっていることを再確認する。 | ・看護過程の展開を行いながら看護を実践する。また、その振り返りを毎日行う。       |
|  | ・一日は血液浄化センターの見学を行う。   |                                  |      |    | ・血液浄化療法について学習する。  | ・血液浄化センターでの学びを考察し、レポートにする。                  |
|  | ・学内実習は、病態の理解を深めたり記録の整理を行う。<br>・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深めよう。               |                                  |      |    | ・根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助(技術)を身に付ける。                                       | ・日々の記録の振り返りを行い、援助(技術)での今後の課題点について把握し、練習を行う。 |

| 回   | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習                               | 事後学習                           |
|---|--|------|----|----|------------------------------------|--------------------------------|
|   | ・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。  |      |    |    | ・自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。 | ・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。 |
|   |  |      |    |    |                                    |                                |
|   |  |      |    |    |                                    |                                |
|   |  |      |    |    |                                    |                                |
| 評価基準・評価方法   |  |      |    |    |                                    |                                |
| 目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。  |  |      |    |    |                                    |                                |
| 使用教科書   |  |      |    |    |                                    |                                |
| 成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美編集.--改訂第3版--南江堂, 2019年, ISBN978-4-524-24198-9<br>ナーシング・グラフィカ 成人看護学 (6) 緩和ケア / 宮下光令編集.--第2版--MCメディカ出版, 2016年, ISBN978-4-8404-5378-3 |  |      |    |    |                                    |                                |
| 参考図書  |  |      |    |    |                                    |                                |
| 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (2) ~ (15)   |  |      |    |    |                                    |                                |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 実習初日に口頭試問を行い学習状況の確認を行い必要な課題を示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるよう指導します。   |      |    |    |                                    |                                |
| 備考  | 実習中、疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。慢性期の特徴や看護、各疾患について必要な知識を持ち、実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。成人看護活動論Ⅱについては履修済であること。 |      |    |    |                                    |                                |

| 授業科目名  |   | 担当教員                             |    |      |   |   |
|--|---|----------------------------------|----|------|---|---|
| 成人看護学実習Ⅱ（手術、急性、終末期）  |   | 古田 弥生・林 宗典・森岡 菜穂子（代表教員 古田 弥生）    |    |      |   |   |
| 必修・選択  | 配当年次  | 単位数(時間数)                         |    | 開講形態 |   |   |
| 必修   | 2年 後学期  | 3単位(135時間)                       |    | 実習   |   |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |   | 実務家教員                            |    |      |   |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |   | 古田 弥生(看護師) 森岡 菜穂子(看護師) 林 宗典(看護師) |    |      |   |   |
| 授業概要   |   |                                  |    |      |   |   |
| 周手術期及び急性期にある成人期の患者および家族を総合的に理解し、生命の危機的状態をとらえ、回復促進および社会生活への適応ができるよう、科学的でかつ論理的に実践するための基礎的能力を身に付ける。   |   |                                  |    |      |   |   |
| 学修の到達目標  |   |                                  |    |      |   |   |
| ①周手術期または急性期における生命の危機的状況にある患者および家族の特徴を多面的に説明できる。<br>②急性状態による侵襲からリスクを予測し生命維持・回復促進ができるよう、科学的根拠に基づき看護の問題解決のプロセスを理解し、問題解決を図り実施できる。<br>③患者の生活を中心とした医療チームの役割と社会資源について説明できる。<br>④看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付けられる。 |   |                                  |    |      |   |   |
| 回  | 授業計画  | 到達目標                             | 担当 | 形態   | 事前学習  | 事後学習  |
|  | I. 実習施設   |                                  |    |      |   |   |
|  | 岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、羽島市民病院、揖斐厚生病院、岐阜赤十字病院、松波総合病院、岐阜清流病院   |                                  |    |      |   |   |
|  | II. 実習方法  |                                  |    |      |   |   |
|  | ・学生80名を1グループ5～6名の20グループに編成し、高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。                                 |                                  |    |      | ・周手術期（急性期）とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。                       | ・看護過程の展開をする中で周手術期（急性期）の特徴を活用する。             |
|  | ・実習前オリエンテーションを行う<br>・岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、羽島市民病院、揖斐厚生病院、岐阜赤十字病院、松波総合病院、岐阜清流病院の病棟のいずれか一箇所で行う。<br>・一人の患者を受け持ち看護の実践を行う。 |                                  |    |      | ・周手術期を支える看護として、術前・術中・術後の看護について学習する。特に、術後合併症については根拠をもとに理解できるように学習する。     | ・看護過程の展開をする中で周手術期（急性期）の特徴を活用する。             |
|  | ・事前学習は、病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、看護の学習を行う。  |                                  |    |      | ・実習病院の概要に記載してある、疾患および検査・治療とその看護について事前学習を行う。                             | ・受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など追加学習を行う。          |
|  | ・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。  |                                  |    |      | ・看護過程の展開とはどのようなことか、情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画、評価について学習し、サイクルになっていることを再確認する。 | ・日々の援助記録の振り返りを行い、技術での今後の課題点について把握し、練習を行う。   |
|  | ・受け持ち患者の手術日には手術室の入室から退室までの一連の看護について見学する。<br>・実習期間中に手術室見学を一度は行い、手術室における清潔操作、手術室での患者の管理方法、手術室看護の概要を見学する。（施設により多少異なる）    |                                  |    |      | ・手術室入室から退室までの看護について学習する。また、手術室環境や他職種との連携について学習する。                       | ・手術室見学での学びを考察し、レポートにまとめる。                   |
|  | ・学内実習は、病態の理解を深めたり記録の整理を行う。<br>・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し看護の方向性の検討や学びを深める。   |                                  |    |      | ・根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助（技術）を身に付ける。                                       | ・日々の記録の振り返りを行い、援助（技術）での今後の課題点について把握し、練習を行う。 |

| 回   | 授業計画  | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習                               | 事後学習                           |
|---|---|------|----|----|------------------------------------|--------------------------------|
|   | ・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。   |      |    |    | ・自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。 | ・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。 |
|   |   |      |    |    |                                    |                                |
|   |   |      |    |    |                                    |                                |
|   |   |      |    |    |                                    |                                |
|   |   |      |    |    |                                    |                                |
| 評価基準・評価方法   |   |      |    |    |                                    |                                |
| 目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。                            |   |      |    |    |                                    |                                |
| 使用教科書   |   |      |    |    |                                    |                                |
| 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集。--改訂第3版--南江堂，2019年，ISBN978-4-524-24163-7 |   |      |    |    |                                    |                                |
| 参考図書  |   |      |    |    |                                    |                                |
| 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 (2) ～ (15)   |   |      |    |    |                                    |                                |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 実習初日に口頭試問を行い学習状況の確認を行い必要な課題を示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるよう指導します。  |      |    |    |                                    |                                |
| 備考  | 実習中、疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。急性期の特徴や術後観察の視点・看護、各疾患について必要な知識を持ち、実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。<br>専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰの単位を修得済であること。成人看護活動論Ⅱについては履修済であること。 |      |    |    |                                    |                                |

| 授業科目名  |                                       | 担当教員   |          |            |   |  |
|--|---------------------------------------|--|----------|------------|---|--|
| 高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）  |                                       | 熊田 ますみ・二村 美津子・加藤 清人・山本 容正・川崎 葉子・中川 幸代（代表教員 熊田 ますみ）           |          |            |   |  |
| 必修・選択  | 配当年次                                  | 単位数(時間数)   |          | 開講形態       |   |  |
| 必修   | 2年 前学期                                | 2単位(90時間)  |          | 講義・演習 オムバス |   |  |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                                       | 実務家教員  |          |            |   |  |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                                       | 熊田ますみ(看護師) 二村美津子(看護師) 加藤清人(作業療法士)<br>川崎葉子(認定看護師) 中川幸代(認定看護師) |          |            |   |  |
| 授業概要   |                                       |  |          |            |   |  |
| 加齢変化や老年期特有の健康障害に対して、解決もしくは生活への影響を最小にするための基礎的な知識と看護方法を学ぶ。<br>高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。双方向システムを活用し学びを深めていく。  |                                       |  |          |            |   |  |
| 学修の到達目標  |                                       |  |          |            |   |  |
| ①老年看護の基盤となる考え方や加齢変化に伴う課題が説明できる。<br>②高齢者への日常生活援助について、意義や方法などを説明できる。<br>③高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について説明できる。<br>④残存機能を活用し、自立支援という視点から援助の方向性が説明できる。<br>⑤認知症を有する高齢者への看護について理解し、コミュニケーションスキルを身につける。<br>⑥代表的な疾患を有する高齢者に対し、具体的な看護方法を説明できる。<br>⑦高齢者の疑似体験をすることで、高齢者の身体的な不自由さや心理面が説明できる。 |                                       |  |          |            |   |  |
| 回  | 授業計画                                  | 到達目標   | 担当       | 形態         | 事前学習                                      | 事後学習                                   |
| 1  | 高齢者の生活機能を整える看護 清潔                     | ②<br>④   | 二村       | 講義         | 皮膚の加齢変化についてまとめる30分                        | 清潔に関する健康課題と清潔のアセスメント、清潔の援助についてまとめる30分  |
| 2  | 高齢者の生活機能を整える看護 食事（摂食嚥下障害）             | ②<br>④   | 中川       | 講義         | 食事に関する加齢変化をまとめる30分                        | 摂食嚥下障害の5期モデルのそれぞれの状態、観察ポイントをまとめる30分    |
| 3  | 高齢者の生活機能を整える看護 食事（栄養状態の変調・食生活のアセスメント） | ②<br>④   | 二村       | 講義         | 摂食嚥下能力のアセスメント、サルコペニア、肥満とサルコペニアについてまとめる30分 | 課題プリント：高齢者の事例を活用して、栄養状態をアセスメントし提出する30分 |
| 4  | 高齢者の疑似体験                              | ⑦  | 二村<br>熊田 | 演習         | 高齢者の感覚器・運動機能の加齢変化についてまとめる30分              | 課題プリントをまとめ提出する30分                      |
| 5  | 高齢者の疑似体験                              | ⑦  | 二村<br>熊田 | 演習         | 高齢者の感覚器・運動機能の加齢変化についてまとめる30分              | 課題レポートをまとめ提出する30分                      |
| 6  | 高齢者の生活機能を整える看護 転倒・廃用症候群               | ②<br>④   | 熊田       | 講義         | 高齢者の活動・運動機能についてまとめる30分                    | 転倒予防・廃用症候群の看護についてまとめる30分               |
| 7  | 高齢者の生活機能を整える看護 排泄                     | ②<br>④   | 二村       | 講義         | 排泄に関する加齢変化をまとめる30分                        | 課題プリント：高齢者の事例を活用して排泄のアセスメントする30分       |
| 8  | 高齢者の生活機能を整える看護 排泄（おむつ交換・陰部洗浄）         | ②<br>④   | 二村<br>熊田 | 演習         | おむつ交換・陰部洗浄の手順書に、事例に対する留意点をまとめる30分         | 手順書に追加・修正する30分                         |
| 9  | 高齢者の生活機能を整える看護 排泄（おむつ交換・陰部洗浄）         | ②<br>④   | 二村<br>熊田 | 演習         | おむつ交換・陰部洗浄の手順書に、事例に対する留意点をまとめる30分         | 演習の振り返りをまとめ提出する30分                     |

| 回  | 授業計画                             | 到達目標   | 担当       | 形態 | 事前学習                                 | 事後学習                               |
|----|----------------------------------|--------|----------|----|--------------------------------------|------------------------------------|
| 10 | 高齢者の生活機能を整える看護 生活リズム・セクシュアリティ    | ②<br>④ | 熊田       | 講義 | 睡眠における加齢変化をまとめる30分                   | 生活リズムを整える援助をまとめる30分                |
| 11 | 高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション         | ②<br>④ | 二村       | 講義 | コミュニケーションに作用する加齢変化をまとめる30分           | 事例におけるコミュニケーション方法をまとめる30分          |
| 12 | 高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション         | ②<br>④ | 二村<br>熊田 | 演習 | 事例におけるコミュニケーション方法を思考する30分            | 事例におけるコミュニケーション方法をまとめる30分          |
| 13 | 高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション         | ②<br>④ | 二村<br>熊田 | 演習 | 事例におけるコミュニケーション方法を思考する330分           | 事例におけるコミュニケーション方法をまとめる330分         |
| 14 | 認知機能の障害に対する看護（うつ・せん妄）            | ⑤      | 二村       | 講義 | うつ・せん妄の違いについてまとめる30分                 | うつ・せん妄の看護をまとめる30分                  |
| 15 | 認知機能の障害に対する看護（認知症）               | ⑤      | 熊田       | 講義 | 加齢による「もの忘れ」と「認知症の記憶障害についてまとめる30分     | 四大認知症の病態と評価方法についてまとめる30分           |
| 16 | 認知機能の障害に対する看護（認知症）               | ⑤      | 熊田       | 講義 | 認知症高齢者に対するコミュニケーション方法の要点をまとめる30分     | 国家試験問題：認知症高齢者看護に対する問題30分           |
| 17 | 認知機能の障害に対する看護（認知症看護の実践）          | ⑤      | 川崎       | 講義 | 認知症高齢者の個人の尊厳を守ることにについて、自己の考えをまとめる30分 | 認知症高齢者の看護をまとめる30分                  |
| 18 | 認知機能の障害に対する看護（非薬物療法・レクリエーションの実際） | ⑤      | 加藤       | 講義 | 認知症の非薬物療法についてまとめる30分                 | 臨床で展開されている認知症高齢者への非薬物療法についてまとめる30分 |
| 19 | 高齢者にみられる身体症状のアセスメント（発熱・痛み・脱水）    | ③      | 熊田       | 講義 | 高齢者に多い脱水の原因とリスクについてまとめる30分           | 発熱・痛み・脱水時の看護についてまとめる30分            |
| 20 | 高齢者にみられる身体症状のアセスメント（嘔吐・浮腫・倦怠感等）  | ③      | 熊田       | 講義 | 高齢者に多い嘔吐・浮腫の原因についてまとめる30分            | 嘔吐・浮腫・倦怠感の看護についてまとめる20分            |
| 21 | 疾患を持つ高齢者への看護（心不全①）               | ⑥      | 二村       | 講義 | 心不全の病態関連図を書く40分                      | 病態関連図の追加・修正をすすめる20分                |
| 22 | 疾患を持つ高齢者への看護（心不全②事例）             | ⑥      | 二村<br>熊田 | 演習 | 事例の状態をアセスメントする20分                    | 心不全の関連図・アセスメント・看護の要点をまとめ提出する40分    |
| 23 | 疾患を持つ高齢者への看護（骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折）       | ⑥      | 熊田       | 講義 | 運動系の加齢変化についてまとめる20分                  | 大腿骨頸部骨折の事例における患者のアセスメントをする40分      |

| 回  | 授業計画                                  | 到達目標   | 担当   | 形態 | 事前学習                        | 事後学習                      |
|--|---------------------------------------|--------|------|----|-----------------------------|---------------------------|
| 24   | 疾患を持つ高齢者への看護（大腿骨頸部骨折の事例展開）            | ⑥      | 熊田二村 | 演習 | 大腿骨頸部骨折の事例における看護問題を抽出するの30分 | 事例の看護計画を追加・修正し提出する30分     |
| 25   | 疾患を持つ高齢者への看護（感染と感染症対策）                | ⑥      | 山本   | 講義 | 加齢に伴う免疫力の低下についてまとめる30分      | 高齢者の感染症の予防方法についてまとめる30分   |
| 26   | 疾患を持つ高齢者への看護（褥瘡・スキンテア）                | ③      | 二村   | 講義 | 皮膚の加齢変化についてまとめる20分          | 褥瘡発症のリスク要因及び看護についてまとめる40分 |
| 27   | 疾患をもつ高齢者への看護の実際（褥瘡・スキンテア）             | ③      | 熊田二村 | 演習 | 演習課題を行う20分                  | 課題レポートをまとめ提出する40分         |
| 28   | 疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例）                   | ⑤<br>⑥ | 熊田二村 | 演習 | 患者設定から必要な情報・観察方法をまとめる30分    | 課題の振り返りをして提出する30分         |
| 29   | 疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例）                   | ⑤<br>⑥ | 熊田二村 | 演習 | 患者設定から必要な情報・観察方法をまとめる30分    | 事例の振り返りをして提出する30分         |
| 30   | 疾患をもつ高齢者への看護の実際（事例）                   | ⑤<br>⑥ | 熊田二村 | 演習 | 患者設定から必要な情報・観察方法をまとめる30分    | 事例の振り返りをして提出する30分         |
|  | 定期試験                                  |        |      |    |                             |                           |
| 評価基準・評価方法  |                                       |        |      |    |                             |                           |
| 定期試験（70％）、課題レポート（30％）  |                                       |        |      |    |                             |                           |
| 使用教科書  |                                       |        |      |    |                             |                           |
| 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか.--第9版--医学書院, 2021年, ISBN978-4-260-03186-8 |                                       |        |      |    |                             |                           |
| 参考図書   |                                       |        |      |    |                             |                           |
| ・根拠と事故防止からみた老年看護技術（医学書院）   |                                       |        |      |    |                             |                           |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法  | 事前学習や課題は講義に反映させる。課題は、講義終了後返却し各自で振り返る。 |        |      |    |                             |                           |
| 備考   | 質問等については、講義終了時または次回の講義時にフィードバックします。   |        |      |    |                             |                           |

| 授業科目名  |   | 担当教員                       |          |    |                           |   |
|--|---|----------------------------|----------|----|---------------------------|---|
| 高齢者看護活動論Ⅱ（発展）  |   | 熊田 ますみ・二村 美津子（代表教員 熊田 ますみ） |          |    |                           |   |
| 必修・選択  | 配当年次  | 単位数(時間数)                   | 開講形態     |    |                           |   |
| 必修   | 2年 後学期  | 1単位(45時間)                  | 講義・演習    |    |                           |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |   | 実務家教員                      |          |    |                           |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |   | 熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師）      |          |    |                           |   |
| 授業概要   |   |                            |          |    |                           |   |
| 高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出、それに応じた看護計画の立案方法を学ぶ。講義では、グループワークや双方向システムを活用し学びを深めていく。   |   |                            |          |    |                           |   |
| 学修の到達目標  |   |                            |          |    |                           |   |
| ①検査に伴うインフォームドコンセントと検査時の看護について説明できる。<br>②高齢者の薬物療法時の注意点と服薬管理に向けた支援方法が説明できる。<br>③手術を受ける高齢者の特徴がわかり術前・術後の支援方法が説明できる。<br>④高齢者のリハビリテーションの特徴がわかり支援方法が説明できる。<br>⑤生活・療養の場における看護の方法が説明できる。<br>⑥エンドオブライフケアの基本的な考え方を説明できる。<br>⑦老年期に特有な疾患をもつ患者の事例を用い看護の展開が説明できる。<br>⑧高齢者に特有なリスクが分かり対処方法が説明できる。 |   |                            |          |    |                           |   |
| 回  | 授業計画  | 到達目標                       | 担当       | 形態 | 事前学習                      | 事後学習  |
| 1  | 看護過程の考え方（ICFモデル・生活機能アセスメントとは）                     | ⑦                          | 熊田       | 講義 | ICFモデルについてまとめる20分         | アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折の病態生理・看護についてまとめる40分                |
| 2  | 検査・治療を受ける高齢者への看護                                  | ①                          | 熊田       | 講義 | 高齢者の疾患の特徴をまとめる20分         | 検査・入院が高齢者に及ぼす要因と看護についてまとめる30分                         |
| 3  | 薬物療法を受ける高齢者の看護・手術を受ける高齢者の看護                       | ②<br>③                     | 熊田       | 講義 | 加齢に伴う薬物動態についてまとめる20分      | 術後合併症の予防ケアの看護についてまとめる40分                              |
| 4  | リハビリテーションを受ける高齢者の看護                               | ④                          | 熊田       | 講義 | リハビリテーションの意義についてまとめる20分   | リハビリテーションを受ける高齢者の看護についてまとめる40分                        |
| 5  | 生活・療養の場における看護                                     | ⑤                          | 二村       | 講義 | 介護保険施設の機能についてまとめる20分      | 介護保険施設の看護師の役割をまとめる40分                                 |
| 6  | 終末期における看護①  | ⑥                          | 二村       | 講義 | 高齢者のスピリチュアリティについてまとめる20分  | エンドオブライフケアの基本的な考え方をまとめる40分                            |
| 7  | 終末期における看護②（事例をもとに「患者・家族の意思決定支援としての看護」についてグループワーク） | ⑥                          | 二村<br>熊田 | 演習 | 事例の課題をまとめる20分             | 課題レポートを作成し提出する40分                                     |
| 8  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）     | ⑥                          | 二村<br>熊田 | 演習 | 事例の常在条件、病理的状態をアセスメントする40分 | 事例の病理的状態を追加・修正する20分                                   |
| 9  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）     | ⑥                          | 二村<br>熊田 | 演習 | 事例の常在条件、病理的状態をアセスメントする40分 | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから常在条件、病理的状態のアセスメントを追加する20分 |

| 回   | 授業計画  | 到達目標 | 担当   | 形態 | 事前学習                                   | 事後学習   |
|---|---|------|------|----|--|--|
| 10  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）   | ⑥    | 二村熊田 | 演習 | 事例の生活機能の状況を（活動・休息）をアセスメントする40分         | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（活動・休息）のアセスメントを追加する20分         |
| 11  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）   | ⑥    | 二村熊田 | 演習 | 事例の生活機能の状況を（食事・排泄）をアセスメントする40分         | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（食事・排泄）のアセスメントを追加する20分         |
| 12  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）   | ⑥    | 二村熊田 | 演習 | 事例の生活機能の状況を（身じたく・コミニケーション）をアセスメントする40分 | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから（身じたく・コミニケーション）のアセスメントを追加する20分 |
| 13  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）   | ⑥    | 二村熊田 | 演習 | 看護問題の抽出40分                             | グループワーク・教員による補足講義の学びから看護問題を見直す20分                          |
| 14  | 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における事例展開（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）   | ⑦    | 二村熊田 | 講義 | 看護計画の作成30分                             | 事例展開の追加・修正をする。看護過程を全て提出する30分                               |
| 15  | 高齢者のリスクマネジメント（高齢者と医療安全、高齢者と救命救急・災害）   | ⑦    | 熊田   | 講義 | 事故・災害等における高齢者の脆弱性をまとめる20分              | 緊急時・災害時の看護師の対応をまとめる40分                                     |
|   | 定期試験  |      |      |    |  |  |
| 評価基準・評価方法   |   |      |      |    |  |  |
| 定期試験（50％）、課題レポート（50％）   |   |      |      |    |  |  |
| 使用教科書   |   |      |      |    |  |  |
| 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか、--第9版--医学書院、2021年、ISBN978-4-260-03186-8  |   |      |      |    |  |  |
| 参考図書  |   |      |      |    |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活機能からみた老年看護過程（医学書院）</li> <li>・症状別看護ケア関連図（中央法規）</li> <li>・疾患別看護ケア関連図（中央法規）</li> </ul> |   |      |      |    |  |  |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法   | 事例展開の課題は、講義時の初めに学習内容を確認します。その後グループワークを進めていきます。講義終了時、重要ポイントをフィードバックします。  |      |      |    |  |  |
| 備考  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された課題は提出日を守って必ず学習する。</li> <li>・グループワークには、積極的に参加すること。講義進行によって、担当者・講義内容を変更することがあります。</li> </ul> |      |      |    |  |  |

| 授業科目名  |  | 担当教員                         |      |    |      |      |
|--|--|------------------------------|------|----|------|------|
| 高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）  |  | 熊田 ますみ・二村 美津子・他（代表教員 熊田 ますみ） |      |    |      |      |
| 必修・選択  | 配当年次   | 単位数(時間数)                     | 開講形態 |    |      |      |
| 必修   | 2年 後学期   | 2単位(90時間)                    | 実習   |    |      |      |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員                        |      |    |      |      |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師） 他      |      |    |      |      |
| 授業概要   |  |                              |      |    |      |      |
| 老人施設等で生活している高齢者を理解し、QOL向上の看護について、科学的かつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を養う。  |  |                              |      |    |      |      |
| 学修の到達目標  |  |                              |      |    |      |      |
| ①施設で療養する高齢者の生活環境を説明できる。<br>②対象の加齢による変化とADL能力を説明できる。<br>③対象のQOL向上に必要な日常生活の援助方法を説明できる。<br>④介護保険施設における看護のあり方と多職種連携および支援体制を説明できる。<br>⑤高齢者を一人の個人として捉え、尊重した態度で接することができる。<br>⑥看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。 |  |                              |      |    |      |      |
| 回  | 授業計画   | 到達目標                         | 担当   | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|  | I. 実習施設  |                              |      |    |      |      |
|  | 介護老人保健施設 岐阜リハビリテーションホーム、<br>介護老人保健施設 寺田ガーデン、<br>介護老人保健施設 サワダケアセンター |                              |      |    |      |      |
|  | 特別養護老人ホーム やすらぎの里川部苑、<br>特別養護老人ホーム 黒野あそか苑、                          |                              |      |    |      |      |
|  | 特別養護老人ホーム ナーシングケア寺田  |                              |      |    |      |      |
|  | II. 実習方法   |                              |      |    |      |      |
|  | 1. 学生80名を1グループ4～6名で編成し、成人看護学実習、小児看護学実習、母性                          |                              |      |    |      |      |
|  | 看護学実習とともにローテーションで行う。<br>いずれかの実習施設で2週間実習を行う。                        |                              |      |    |      |      |
|  | 2. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う。                       |                              |      |    |      |      |
|  | 3. 学生は対象者1名を受け持ち、学生は利用者とともに毎日の日課に参加しながら、                           |                              |      |    |      |      |

| 回   | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
|   | 利用者への関わりを学び実践する。   |      |    |    |      |      |
|   | 4. 施設で生活する高齢者の特徴や日常生活上の問題、あるいは高齢者の生き甲斐や                                      |      |    |    |      |      |
|   | 活動の場について理解を深める。老年期にある対象のこれまで生きてきた生活史・  |      |    |    |      |      |
|   | 価値観を理解し、対象を尊重した態度での接し方を身につける。施設における保健  |      |    |    |      |      |
|   | 医療福祉チームの一員としての役割と連携、社会資源活用方法について学習する。  |      |    |    |      |      |
|   | 5. 学生は、適時カンファレンスを実施する。教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方について検討する。                        |      |    |    |      |      |
|   | 6. 実習終了時、学生は教員、実習指導者とともに実習状況の反省会を、実習場所で実施する。                                 |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法   |  |      |    |    |      |      |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価をする。  |  |      |    |    |      |      |
| 使用教科書   |  |      |    |    |      |      |
| 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子ほか. --第9版--医学書院, 2021年, ISBN978-4-260-03186-8                                       |  |      |    |    |      |      |
| 参考図書  |  |      |    |    |      |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院)</li> <li>・ 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院)</li> </ul> |  |      |    |    |      |      |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 実習記録は添削し指導する。  |      |    |    |      |      |
| 備考  | 履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱを履修中であること。<br>【看護の原理と基礎】全科目、高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。 |      |    |    |      |      |

| 授業科目名  |  | 担当教員                         |      |    |      |      |
|--|--|------------------------------|------|----|------|------|
| 高齢者看護学実習Ⅱ（発展）  |  | 熊田 ますみ・二村 美津子・他（代表教員 熊田 ますみ） |      |    |      |      |
| 必修・選択  | 配当年次   | 単位数(時間数)                     | 開講形態 |    |      |      |
| 必修   | 3年 前学期   | 2単位(90時間)                    | 実習   |    |      |      |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員                        |      |    |      |      |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 熊田ますみ（看護師） 二村美津子（看護師）        |      |    |      |      |
| 授業概要   |  |                              |      |    |      |      |
| 健康障害をもつ高齢者の個別性を理解し、QOL向上に向けた看護について、科学的かつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を養う。  |  |                              |      |    |      |      |
| 学修の到達目標  |  |                              |      |    |      |      |
| ①対象の生活史を把握し入院生活や機能障害が身体的・精神的・社会的機能に影響を及ぼしていることを説明できる。<br>②老年期の健康上の問題を把握し、QOL向上を目指した看護の必要性を説明できる。<br>③対象個々の老年期の特徴、健康上の問題に応じQOL向上を目指した援助を実施する。<br>④対象の退院を支える多職種連携を説明できる。<br>⑤看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。 |  |                              |      |    |      |      |
| 回  | 授業計画   | 到達目標                         | 担当   | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|  | I. 実習施設  |                              |      |    |      |      |
|  | 平野総合病院、岐阜清流病院、山内ホスピタル                          |                              |      |    |      |      |
|  | II. 実習方法                                       |                              |      |    |      |      |
|  | 1. 学生80名を1グループ4～6名で編成し、成人看護学実習、精神看護学実習、在宅看護    |                              |      |    |      |      |
|  | 論実習とともにローテーションで行う。                             |                              |      |    |      |      |
|  | 2. 実習前オリエンテーション行う。                             |                              |      |    |      |      |
|  | 3. 事前学習は、基本的看護技術の練習と、実習病棟に即した事前課題を行う。          |                              |      |    |      |      |
|  | 4. 平野総合病院、岐阜清流病院、山内ホスピタルの病棟のいずれか一箇所まで2週間実習を行う。 |                              |      |    |      |      |
|  | 5. 原則として一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。                   |                              |      |    |      |      |

| 回   | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
|   | 6. 実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。 |      |    |    |      |      |
|   | 7. 病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。         |      |    |    |      |      |
|   | 8. 第2週の木曜日は、実習施設で教員・臨床指導者とともに反省会を行う。               |      |    |    |      |      |
|   | 9. 実習最終日に学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に                 |      |    |    |      |      |
|   | 対する達成状況や学びを共有する。                                   |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法   |  |      |    |    |      |      |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。   |  |      |    |    |      |      |
| 使用教科書   |  |      |    |    |      |      |
| 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 / 北川公子他. --第9版--医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-03186-8  |  |      |    |    |      |      |
| 参考図書  |  |      |    |    |      |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根拠と事故防止からみた老年看護技術 (医学書院)</li> <li>・ 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院)</li> <li>・ 症状別看護ケア関連図 (中央法規)</li> <li>・ 疾患別看護ケア関連図 (中央法規)</li> </ul> |  |      |    |    |      |      |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 実習記録は添削し指導する。                                      |      |    |    |      |      |
| 備考  | 履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰの単位を修得済みであること。           |      |    |    |      |      |

| 授業科目名   |  | 担当教員   |            |    |  |   |
|---|--|--|------------|----|--|---|
| 小児看護活動論Ⅰ（基礎）  |  | 松野 ゆかり・岩瀬 桃子・近藤 富雄・遠渡 絹代・岡本 知美・白木 大輔・中川 みのり（代表教員 松野 ゆかり）                     |            |    |  |   |
| 必修・選択   | 配当年次   | 単位数(時間数)   | 開講形態       |    |  |   |
| 必修  | 2年 前学期                                       | 2単位(90時間)  | 講義・演習 オムバス |    |  |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |  | 実務家教員  |            |    |  |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |  | 松野ゆかり(看護師) 岩瀬桃子(看護師) 近藤富雄(医師) 遠渡絹代(専門看護師) 岡本知美(認定看護師) 白木大輔(認定看護師) 中川みのり(看護師) |            |    |  |   |
| 授業概要  |  |  |            |    |  |   |
| 小児特有疾患の病態・治療について基礎的知識を学習したうえで、小児各期の発達段階や状況・疾病経過に応じた具体的援助方法を学習する。健康を障害された小児及び家族が持つ健康問題について学習する。さらに疾病予防といった小児保健の諸問題にも触れながら、小児看護の役割を学ぶ。  |  |  |            |    |  |   |
| 学修の到達目標   |  |  |            |    |  |   |
| ①病気・障害による子どもと家族への影響を理解し必要な支援について説明できる。<br>②様々な状況における子どもと家族を理解し、必要な援助について説明できる。<br>③小児に発症しうる疾患の発生機序、症状など疾患概念について説明できる。<br>④疾患について学び、アセスメントの視点がわかり、根拠をもった看護について説明できる。<br>⑤障害のある子どもと家族について学習し、必要な支援について説明できる。<br>⑥虐待について知り、事故との見極めの判断ができる。虐待を受けている、又は可能性のある子どもと家族の支援について説明できる。 |  |  |            |    |  |   |
| 回   | 授業計画   | 到達目標   | 担当         | 形態 | 事前学習   | 事後学習  |
| 1   | 病気・障害を持つ小児と家族の看護<br>病気や障害が子どもと家族に与える影響       | ①  | 松野         | 講義 |  | *小テストで確認<br>各発達段階の子どもに現れやすい反応と必要な看護について<br>(120分)     |
| 2   | 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護<br>外来における子どもと家族への看護 | ②  | 松野         | 講義 | 認知発達段階について復習 講義内で確認<br>(60分)                                       | *小テストで確認<br>(60分)                                     |
| 3   | 小児の在宅療養者への看護                                 | ②  | 中川         | 講義 | 教科書<br>1. p 229～p 239を読み内容を講義内で確認<br>(60分)                         | *小テストで確認<br>(60分)                                     |
| 4   | 小児における疾病の経過と看護(1)慢性期                         | ②  | 岩瀬         | 講義 | 小児慢性特定疾患の子どもに関する新聞記事、手記またはブログを読んで、内容と自分の感想をレポート用紙1枚にまとめる。<br>(60分) | 講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる<br>(60分) |
| 5   | 染色体異常・先天異常と看護、新生児の看護                         | ③<br>④   | 岡本         | 講義 | 教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認<br>(60分)                                     | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ<br>(60分)                          |
| 6   | 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ疾患<br>(気管支喘息、食物アレルギー)      | ③<br>④   | 近藤         | 講義 | 教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認<br>(60分)                                     | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ<br>(60分)                          |
| 7   | 代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護<br>(1型糖尿病)                 | ③<br>④   | 岩瀬         | 講義 | 正常な代謝機能と内分泌の機能について、解剖生理の面から学習する。講義内で確認<br>(60分)                    | 講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる<br>(60分) |
| 8   | 感染症 (ウイルス感染症 細菌感染症)                          | ③<br>④   | 近藤         | 講義 | 教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認<br>(60分)                                     | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ<br>(60分)                          |
| 9   | 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護<br>(ネフローゼ症候群)               | ③<br>④   | 近藤         | 講義 | 正常な腎・泌尿器の解剖生理について学習する。講義内で確認<br>(60分)                              | 講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる<br>(60分) |

| 回  | 授業計画   | 到達目標        | 担当       | 形態       | 事前学習  | 事後学習  |
|----|--|-------------|----------|----------|---|---|
| 10 | 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習<br>慢性疾患患児の指導 (学童)                                  | ①<br>②<br>④ | 松野<br>岩瀬 | 講義       | 事例について指導計画提出 発表準備 (60分)                                 | 演習後レポート (30分)                                       |
| 11 | 血液・造血器疾患と看護、悪性新生物と看護<br>(血小板減少性・血管性紫斑病)                                | ③<br>④      | 岩瀬       | 講義       | 正常な血液、造血器の解剖生理について学習する。講義内で確認 (60分)                     | 講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)  |
| 12 | 小児における疾病の経過と看護 (2) 終末期   | ②           | 岩瀬       | 講義       | こどもの終末期に関する新聞記事、手記、またはブログを読んで、内容と感想をレポート用紙1枚にまとめる。(60分) | 講義中に示した関連する過去問題について解き、答え合わせをしてわからなかったところを調べる (60分)  |
| 13 | 急性期にある子どもと家族への看護<br>子どもの手術の特徴、計画・緊急手術、術前術後の看護                          | ③<br>④      | 松野       | 講義       | 慢性期と急性期の看護の違いについて学習 講義内で確認 (60分)                        | *小テストで確認<br>*周手術期の看護について、発達段階別の観察ポイントについてまとめる (60分) |
| 14 | 循環器疾患と看護 (先天性心疾患、川崎病)  | ③<br>④      | 松野       | 講義       | 正常な循環器の解剖生理について学習。講義内で発問 (60分)                          | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ (60分)                           |
| 15 | 消化器疾患と看護 (口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシユスプルング病、鎖肛、腸重積症、臍・臍帯・外鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症、ロタウィルス) | ③<br>④      | 松野       | 講義       | 正常な消化器の解剖生理について学習。講義内で発問 (60分)                          | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ (60分)                           |
| 16 | 呼吸器疾患 (肺炎、気管支炎)  | ③<br>④      | 近藤       | 講義       | 教科書2. 該当する内容を読み講義内で確認 (60分)                             | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ (60分)                           |
| 17 | 運動器疾患と看護 (先天性股関節脱臼、骨折、先天性内反足、先天性筋性斜頸)                                  | ③<br>④      | 松野       | 講義       | 正常な運動器の解剖生理について学習。講義内で確認 (60分)                          | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ (60分)                           |
| 18 | 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習<br>手術オリエンテーション (幼児)                                | ①<br>②<br>④ | 松野<br>岩瀬 | 講義       | 事例についてオリエンテーション計画 発表準備 (60分)                            | 演習後レポート (30分)                                       |
| 19 | 障害のある子どもと家族の看護 (障害受容、重症心身障害児)  | ⑤           | 遠渡       | 講義       | 教科書 p 480~492を読み疑問を一つ調べる (60分)                          | *小テストで確認<br>重症心身障害児とは (60分)                         |
| 20 | 子どもの虐待と看護  | ⑥           | 遠渡       | 講義       | 教科書 p 494~510を読み疑問を一つ調べる (60分)                          | *小テストで確認<br>虐待の定義、種類、統計、看護 (60分)                    |
| 21 | 神経疾患と看護 (てんかん、熱性けいれん、二分脊椎、脳性麻痺)  | ③<br>④      | 松野<br>岩瀬 | 講義       | 原始反射、正常な神経系の解剖生理について学習。講義内で確認 (60分)                     | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ (60分)                           |
| 22 | 事故・外傷と看護   | ①<br>②<br>③ | 白木       | 講義       | 該当内容の統計について調べる 講義内で確認 (60分)                             | *小テストで確認<br>各疾患のまとめ (60分)                           |
| 23 | 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習<br>家族が示す反応に対する看護                                   | ①<br>②<br>④ | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 | 事例の看護について考え、発表準備 (60分)                                  | 演習後レポート (30分)                                       |

| 回  | 授業計画  | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|------|------|
|  | 定期試験（筆記）  |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法  |   |      |    |    |      |      |
| 課題・レポート（30%）、最終筆記試験（70%）   |   |      |    |    |      |      |
| 使用教科書  |   |      |    |    |      |      |
| 系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2021年, ISBN978-4-260-03860-7<br>系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2021年, ISBN978-4-260-03866-9 |   |      |    |    |      |      |
| 参考図書   |   |      |    |    |      |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版</li> <li>・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版</li> </ul>   |   |      |    |    |      |      |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。小テストを実施することで知識の定着を図る。   |      |    |    |      |      |
| 備考   | 開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。<br>欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。<br>質問は振り返りカードに記入、または直接声をかけてください。カードに対する回答は随時行います。 |      |    |    |      |      |

| 授業科目名   |   | 担当教員                      |          |          |   |                     |
|---|---|---------------------------|----------|----------|---|---------------------|
| 小児看護活動論Ⅱ（発展）  |   | 松野 ゆかり・岩瀬 桃子（代表教員 松野 ゆかり） |          |          |   |                     |
| 必修・選択   | 配当年次  | 単位数(時間数)                  | 開講形態     |          |   |                     |
| 必修  | 2年 後学期  | 1単位(45時間)                 | 講義・演習    |          |   |                     |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員                     |          |          |   |                     |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   | 松野ゆかり（看護師） 岩瀬桃子（看護師）      |          |          |   |                     |
| 授業概要  |   |                           |          |          |   |                     |
| 事例に沿って、小児特有の代表的な症状のメカニズム、経過、症状緩和技術を学ぶ。また、子どもが検査や処置を受ける際の子どもと家族の影響を最小限にするための知識、小児看護技術を学び、具体的な援助方法を理解する。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出を行い、小児とその家族の全体像を観る視点を修得する。      |   |                           |          |          |   |                     |
| 学修の到達目標   |   |                           |          |          |   |                     |
| ①事例を通して、子どもの状態を適確にアセスメントする視点と必要な看護を結びつけることができる。<br>②事例を通して、検査・処置に関する基礎的知識を理解し、小児看護技術を身につけ、得られた結果についてアセスメントすることができる。<br>③事例を用いて看護展開を行い、グループワークにより不足している視点を取り入れることができる。 |   |                           |          |          |   |                     |
| 回   | 授業計画  | 到達目標                      | 担当       | 形態       | 事前学習  | 事後学習                |
| 1   | 症状を示す小児の看護（1） 発熱 脱水 呼吸困難                            | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 | 事例について調べる<br>症状出現のアセスメント<br>講義内で確認<br>(60分) |                     |
| 2   | 症状を示す小児の看護（1） 嘔吐 下痢<br>発熱 脱水                        | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 |   | 演習後レポート 提出<br>(60分) |
| 3   | 症状を示す小児の看護（1） 検査・処置<br>身体測定 バイタルサイン 臀部浴 持続<br>点滴 採血 | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 | 援助計画<br>講義内で確認<br>(60分)                     |                     |
| 4   | 症状を示す小児の看護（1） 検査、処置                                 | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 |   | 演習後レポート提出<br>(60分)  |
| 5   | 症状を示す小児の看護（2） 発熱 呼吸困難<br>痙攣                         | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 | 事例について調べる<br>症状出現のアセスメント<br>講義内で確認 (60分)    |                     |
| 6   | 症状を示す小児の看護（2） 発熱 呼吸困難<br>痙攣                         | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 |   | 演習後レポート 提出<br>(60分) |
| 7   | 症状を示す小児の看護（2） 検査・処置<br>与薬、検体採取、吸入吸引、清潔 救命処置         | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 | 援助計画<br>講義内で確認<br>(60分)                     |                     |
| 8   | 症状を示す小児の看護（2） 検査・処置                                 | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 |   | 演習後レポート 提出<br>(60分) |
| 9   | 症状を示す小児の看護（3） アセスメント技術<br>(演習)                      | ①<br>②                    | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 | 援助計画提出<br>バイタルサイン、身体計測について<br>(30分)         | 演習後レポート 提出<br>(30分) |

| 回  | 授業計画  | 到達目標   | 担当       | 形態       | 事前学習                           | 事後学習                     |
|--|---|--------|----------|----------|--------------------------------|--------------------------|
| 10   | 症状を示す小児の看護<br>(演習)      アセスメント技術  | ①<br>② | 松野<br>岩瀬 | 講義<br>演習 |                                | 演習後レポート 提出<br>(60分)      |
| 11   | 看護過程  | ③      | 松野<br>岩瀬 | 演習       | 対象事例の疾患について学習 講義内で確認 (30分)     | 情報整理提出 (30分)             |
| 12   | 看護過程  | ③      | 松野<br>岩瀬 | 演習       | 情報整理、アセスメント提出 (30分)            | 情報、アセスメント見直し、関連図提出 (30分) |
| 13   | 看護過程  | ③      | 松野<br>岩瀬 | 演習       | 情報整理、アセスメント提出 (30分)            | 関連図見直し、提出 (30分)          |
| 14   | 看護過程  | ③      | 松野<br>岩瀬 | 演習       | 事例について再学習グループワーク活用 (30分)       | 看護過程見直し (30分)            |
| 15   | 看護過程  | ③      | 松野<br>岩瀬 | 演習       | 他の関連図について疑問や意見をグループワーク活用 (30分) | 看護過程見直し (最終提出) (30分)     |
|  | 定期試験 (筆記)   |        |          |          |                                |                          |
| 評価基準・評価方法  |   |        |          |          |                                |                          |
| 認知領域 (知識) : 筆記試験 (60%)<br>精神運動・情意領域 (技術・態度) : レポート課題 (20%)    看護過程の演習内容 (20%)  |   |        |          |          |                                |                          |
| 使用教科書  |   |        |          |          |                                |                          |
| 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03860-9<br>系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03860-7 |   |        |          |          |                                |                          |
| 参考図書   |   |        |          |          |                                |                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野 綾美: 小児看護学 小児看護技術、メディカ出版</li> <li>・中野 綾美: 小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版</li> </ul>                                       |   |        |          |          |                                |                          |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。  |        |          |          |                                |                          |
| 備考   | 開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。<br>質問は振り返りカードに記入または直接声をかけてください。カードに対する回答は随時行います。<br>予定は変更する場合がありますが前もってお知らせします。 |        |          |          |                                |                          |

| 授業科目名  |  | 担当教員                         |      |    |  |                 |
|--|--|------------------------------|------|----|--|-----------------|
| 小児看護学実習  |  | 松野 ゆかり・岩瀬 桃子・他 (代表教員 松野 ゆかり) |      |    |  |                 |
| 必修・選択  | 配当年次   | 単位数(時間数)                     | 開講形態 |    |  |                 |
| 必修   | 2年 後学期   | 2単位(90時間)                    | 実習   |    |  |                 |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員                        |      |    |  |                 |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 松野ゆかり(看護師) 岩瀬桃子(看護師) 他       |      |    |  |                 |
| 授業概要   |  |                              |      |    |  |                 |
| 子どもの成長発達段階および子どもを取り巻く環境を理解し、子どもに応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。   |  |                              |      |    |  |                 |
| 学修の到達目標  |  |                              |      |    |  |                 |
| <small>           保育施設：①子どもの成長発達の特徴について記述できる。<br/>           ②発達段階に応じた対応が可能である。<br/>           ③基本的生活習慣の確立に自らの役割について説明できる。<br/>           ④子どもにとっての遊びの重要性について記述できる。<br/>           ⑤子どもに寄りかかるといふ態度を示すことができる。<br/>           ⑥事前的反及び後援の役割が説明できる。<br/>           ⑦子どもの発達段階の理解の必要性について説明できる。<br/>           ⑧子どもに関わる看護職の役割について記述できる。<br/>           ⑨時間や決まりを守り、看護者として責任ある行動をとることができる。(提出物の扱いを含む)<br/>           ⑩時間、場、人を考慮した言葉使いと態度をとることができる。         </small> <small>           病院施設：①子どもの成長発達段階について情報分析できる。<br/>           ②病状、人際や治療の影響や家庭にどのように影響しているかを考えることができる。<br/>           ③看護を計画された子どもの状態を説明できる。<br/>           ④看護を計画された原因について説明できる。<br/>           ⑤子どもの成長発達に合わせた説明ができる。<br/>           ⑥子どもと家族に必要段階の説明ができる。<br/>           ⑦子どもと家族に合わせた看護計画を立案することができる。<br/>           ⑧子どもの安全確保について説明できる。<br/>           ⑨子どもと家族や介護者に対して説明できる。<br/>           ⑩看護を計画された子どもと家族に対してどのようなサービスがあるかを説明できる。<br/>           ⑪子どもと家族を支援する看護職の役割について説明できる。<br/>           ⑫時間や決まりを守り、看護者として責任ある行動をとることができる。(提出物の扱いを含む)<br/>           ⑬時間、場、人を考慮した言葉使いと態度をとることができる。<br/>           ⑭授業内容を踏まえて必要な学習ができる。<br/>           ⑮オンラインシステムに積極的に参加し、メンバーの意見を聞き入れたり自分の意見を述べたりすることができる。         </small> |  |                              |      |    |  |                 |
| 回  | 授業計画   | 到達目標                         | 担当   | 形態 | 事前学習   | 事後学習            |
|  | I. 実習施設  |                              |      |    |  |                 |
|  | ①保育施設、児童養護施設   | ①<br>～<br>⑩                  |      |    | <保育施設共通課題><br>*乳幼児の成長発達<br>・乳幼児<br>形態的特徴・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能・情緒社会的機能・栄養<br>養育および看護(日常生活、遊び、事故防止、育児支援)<br>・成長発達評価                         | 実習記録に準じて毎日記録する。 |
|  | ②羽島市民病院、希望が丘子ども医療福祉センター、岐阜市民病院、福富医院、長良医療センター                     | ①<br>～<br>⑮                  |      |    | <病院施設(共通)><br>・学童期・思春期の特徴と看護<br>・病状・障害を持つ子どもと家族の看護<br>・小児の入院および外来における看護<br><その他><br>・上記以外、小児看護学実習に必要な考える内容、または興味のある内容についての学習をノートページ以上追加する。 | 実習記録に準じて毎日記録する。 |
|  | II. 実習方法   |                              |      |    |  |                 |
|  | 1. 実習期間2週間のうち、1週間は保育施設実習、1週間は病院及び施設実習とする。                        |                              |      |    |  |                 |
|  | 2. 小児実習の特徴的内容の事前学習を行う。   |                              |      |    |  |                 |
|  | 3. 保育施設では、子どもとの関りを通して、成長発達と養護について学び、看護への視点を学ぶ。実習施設ごとの学びを学内で共有する。 |                              |      |    |  |                 |
|  | 病院および施設では、原則患児一人受け持ち、対象にあった看護を理解する。                              |                              |      |    |  |                 |
|  | 4. 実習病院または施設にてオリエンテーションを受け、療養中の小児の特徴や環境を理解する。                    |                              |      |    |  |                 |

| 回 | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習   | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|--|------|
|   | 5.カンファレンスで、対象児の全体像を把握する為に自分の疑問や意見を述べる。また、最終日には、小児看護学実習の学びと課題を明らかにする。 |      |    |    |  |      |
|   |  |      |    |    | 事前学習<br><羽島市民病院><br>・病氣・障害をもつ小児と家族の看護<br>・小児の入院及び外来における看護<br>・疾患及び症状看護：喘息、アレルギー、肺炎、気管支炎、川崎病、胃腸炎、ネフローゼなど<br>・VS、吸入、遊び、点滴固定・管理など。  |      |
|   |  |      |    |    | <岐阜市民病院><br>病氣・障害をもつ小児と家族の看護<br>小児の入院及び外来における看護<br>疾患及び症状看護：血液・悪性腫瘍疾患（白血病）、化学療法、肺炎、喘息<br>バイタルサイン測定、吸入、遊び、輸血、点滴固定、骨髄穿刺、腰椎穿刺など   |      |
|   |  |      |    |    | <福富医院><br>症状看護（発熱、咳、鼻汁、嘔吐、下痢、脱水など）、感染症（水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎）、喘息<br>VS、吸入、点滴固定など、外来看護<br>障害児の福祉施策、法律、児童福祉施設   |      |
|   |  |      |    |    | <希望が丘こども医療福祉センター><br>・病氣障害をもつ小児と家族の看護<br>・障害のある小児と家族の看護<br>・主な受け持ち対象の疾患と看護<br>脳性麻痺、てんかん、精神運動発達遅延部、先天性聴覚聴覚障害、ヘルペス病、大脳障害（てんかん）、多発性関節拘縮症、筋ジストロフィー<br>・障害を持つ子どもの看護<br>・障害児の福祉施策、法律、児童福祉施設  |      |
|   |  |      |    |    | <長良医療センター><br>病氣・障害をもつ小児と家族の看護<br>小児の入院及び外来における看護<br>疾患及び症状看護：喘息、気管支炎、肺炎、胃腸炎をはじめとした急性期疾患、川崎病、ヘルペスウイルス感染症、外傷性ヘルペス、特異的アレルギーなどの特異的アレルギー<br>吸入、遊び、点滴固定・管理、点滴など<br>アレルギー負荷試験、減感作療法、異種卵白負荷試験 |      |

評価基準・評価方法

目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書

系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2021年, 978-4-260-03860-7  
系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 / 奈良間美保.--第14版--医学書院, 2021年, 978-4-260-03866-9

参考図書

- ・石黒彩子：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院
- ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院
- ・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版
- ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法 | 実習記録を添削し指導する。   |
| 備考                        | 履修前提条件：小児看護概論、小児看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。<br>感染症（水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎）の抗体価が陽性でない場合は予防接種を受けていること。<br>インフルエンザについても該当時期に予防接種を受けていること。<br>保育施設実習前に検便を実施し、細菌検査結果陰性である事。 |

| 授業科目名   |                                       | 担当教員  |            |    |      |                                  |
|---|---------------------------------------|---|------------|----|------|----------------------------------|
| 母性看護活動論Ⅰ（基礎）  |                                       | 皮野 さよみ・清水 ゆかり・平野 聡子・山内 久美子（代表教員<br>皮野 さよみ）            |            |    |      |                                  |
| 必修・選択   | 配当年次                                  | 単位数(時間数)  | 開講形態       |    |      |                                  |
| 必修  | 2年 前学期                                | 2単位(90時間)   | 講義・演習 オムバス |    |      |                                  |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |                                       | 実務家教員   |            |    |      |                                  |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |                                       | 皮野さよみ(助産師・看護師)、清水ゆかり(助産師・看護師)、平野聡子(医師)、山内久美子(助産師・看護師) |            |    |      |                                  |
| 授業概要  |                                       |   |            |    |      |                                  |
| 女性のライフサイクルにおける妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある人と家族の健康を支えるために必要な看護を学ぶ。  |                                       |   |            |    |      |                                  |
| 学修の到達目標   |                                       |   |            |    |      |                                  |
| ①妊娠期の看護について説明できる。<br>②分娩期の看護について説明できる。<br>③産褥期の看護について説明できる。<br>④新生児期の看護について説明できる。<br>⑤母子関係・親子関係・家族関係をはぐくむための支援を説明できる。<br>⑥正常から逸脱した対象の看護を説明できる。<br>⑦正常経過をたどる母子の看護過程展開を通して科学的な思考ができる。 |                                       |   |            |    |      |                                  |
| 回   | 授業計画                                  | 到達目標  | 担当         | 形態 | 事前学習 | 事後学習                             |
| 1   | 妊娠期の看護：妊娠の定義，妊娠の成立，妊娠の生理              | ①   | 皮野         | 講義 |      | 妊娠のプロセスの課題作成・提出 60分              |
| 2   | 妊娠期の看護：妊娠各期の特徴と変化・妊婦の心理・社会的変化，妊娠各期の看護 | ①   | 皮野         | 講義 |      | 妊娠カレンダー・胎児の生理の課題作成・提出 60分        |
| 3   | 妊娠期の看護：出産準備教育，妊娠期のマイナートラブル            | ①   | 皮野         | 講義 |      | 妊娠期のマイナートラブルと看護の課題作成・提出 60分      |
| 4   | 分娩期の看護：分娩期の定義，分娩の経過，産婦の特徴             | ②   | 清水         | 講義 |      | 妊娠期・分娩期の国家試験問題解答・解説提出60分         |
| 5   | 分娩期の看護：分娩各期の母児のアセスメント                 | ②   | 清水         | 講義 |      |                                  |
| 6   | 分娩期の看護：分娩各期の母児のアセスメントに基づいた看護計画        | ②   | 清水         | 講義 |      | 分娩期の母児のアセスメントと看護に関するまとめ作成 60分    |
| 7   | 分娩期の看護                                | ②   | 山内         | 講義 |      | 分娩期の看護に関する前年度国家試験問題の解説修正・提出 120分 |
| 8   | 産褥期の看護：産褥期の定義，褥婦と家族の特徴                | ③<br>⑤  | 清水         | 講義 |      | 褥婦と家族の特徴のまとめ 60分                 |
| 9   | 産褥期の看護：褥婦と家族のアセスメント                   | ③<br>⑤  | 清水         | 講義 |      | 褥婦と家族のアセスメントの要点まとめ 60分           |

| 回  | 授業計画                                | 到達目標   | 担当       | 形態 | 事前学習                | 事後学習                                    |
|----|-------------------------------------|--------|----------|----|---------------------|---|
| 10 | 産褥期の看護：褥婦の看護：入院中・退院後の育児を伴う生活にむけての看護 | ③<br>⑤ | 清水       | 講義 |                     | 褥婦の看護の要点の作成 60分                         |
| 11 | 産褥期の看護：褥婦の看護                        | ③<br>⑤ | 清水       | 講義 |                     | 産褥期の国家試験問題解説学習・提出 60分                   |
| 12 | 新生児の看護：新生児の定義，新生児の特徴                | ④<br>⑤ | 皮野       | 講義 |                     | 新生児の特徴のまとめ作成 30分                        |
| 13 | 新生児の看護：新生児の観察と計測                    | ④<br>⑤ | 皮野       | 講義 |                     | 新生児のバイタルサインの観察の要点作成・提出 60分              |
| 14 | 新生児の看護：新生児のアセスメント                   | ④<br>⑤ | 皮野       | 講義 |                     | 新生児のアセスメント要点のまとめ作成 60分                  |
| 15 | 新生児の看護：新生児の看護の評価                    | ④<br>⑤ | 皮野       | 講義 |                     | 新生児の国家試験問題解説学習・提出 90分                   |
| 16 | 妊娠期・分娩期の正常から逸脱した対象の特徴・検査・治療         | ⑥      | 平野       | 講義 |                     | 妊娠期・分娩期の異常に関するテキストを用いての復習 60分           |
| 17 | 産褥期・新生児期の正常から逸脱した対象の特徴・検査・治療        | ⑥      | 平野       | 講義 |                     | 産褥期・新生児期の異常に関するテキストを用いての復習 60分          |
| 18 | 妊娠期・分娩期の正常から逸脱した対象の看護               | ⑥      | 皮野       | 講義 |                     | 妊娠期・分娩期の正常から逸脱した妊婦の看護：国家試験問題解説作成・提出 60分 |
| 19 | 産褥期・新生児期の正常から逸脱した対象の看護              | ⑥      | 清水       | 講義 |                     | 産褥期・新生児期の正常から逸脱した対象の看護：国家試験問題解説作成・提出    |
| 20 | ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程の概要              | ⑦      | 皮野       | 講義 |                     | ウェルネス看護診断と他の看護診断の違いに関する自己の意見のまとめ 60分    |
| 21 | 根拠に基づいた母性看護過程の展開の考え方・方法，事例紹介        | ⑦      | 皮野       | 講義 |                     | 事例の重点内容の読み込み・内容確認 60分                   |
| 22 | 褥婦と新生児の看護過程の展開<br>(妊娠期のアセスメント)      | ⑦      | 皮野<br>清水 | 演習 |                     | 妊娠期の母児のアセスメント作成 60分                     |
| 23 | 褥婦と新生児の看護過程の展開<br>(分娩期のアセスメント)      | ⑦      | 皮野<br>清水 | 演習 | 分娩期の母児のアセスメント作成 30分 | 分娩期の母児のアセスメント修正 30分                     |

| 回  | 授業計画  | 到達目標 | 担当       | 形態 | 事前学習                         | 事後学習  |
|--|---|------|----------|----|------------------------------|---|
| 24   | 褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥1日目）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 | 産褥1日目の母児の<br>アセスメント作成<br>30分 | 産褥1日目の母児の<br>アセスメント修正・<br>看護計画作成 30分              |
| 25   | 褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥2日目）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 | 産褥2日目の母児の<br>アセスメント作成<br>30分 | 産褥2日目の母児の<br>アセスメント修正・<br>看護計画作成 30分              |
| 26   | 褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥3日目）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 | 産褥3日目の母児の<br>アセスメント作成<br>30分 | 産褥3日目の母児の<br>アセスメント修正・<br>看護計画作成 30分              |
| 27   | 褥婦と新生児の看護過程の展開<br>（産褥1～3日目のまとめ）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 |                              | 産褥1～3日目の母児の<br>アセスメント・看護<br>計画修正 60分              |
| 28   | 褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥4日目）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 | 産褥4日目の母児の<br>アセスメント作成<br>30分 | 産褥4日目の母児の<br>アセスメント・看護<br>計画修正 30分                |
| 29   | 褥婦と新生児の看護過程の展開（産褥5日目）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 | 産褥5日目の母児の<br>アセスメント作成<br>30分 | 産褥5日目の母児の<br>アセスメント・看護<br>計画修正 30分                |
| 30   | 褥婦と新生児の看護過程の展開<br>（産褥4～5日目のまとめ）   | ⑦    | 皮野<br>清水 | 演習 |                              | 産褥期の母児のアセ<br>スメント・看護計画<br>等の看護過程全体記<br>録修正・提出 60分 |
|  | 試験（筆記）  |      | 皮野<br>清水 |    |                              |   |
| 評価基準・評価方法  |   |      |          |    |                              |   |
| レポート・国家試験解説課題（25%），看護過程記録（25%），筆記試験（50%）   |   |      |          |    |                              |   |
| 使用教科書  |   |      |          |    |                              |   |
| 母性看護学各論（母性看護学2） / 森恵美ほか.--第13版--医学書院, 2020年, ISBN978-4-260-04223-9<br>根拠がわかる母性看護過程 / 中村幸代ほか.--第1版--南江堂, 2020年, ISBN978-4-524-25513-9   |   |      |          |    |                              |   |
| 参考図書   |   |      |          |    |                              |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田操編：ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程，第3番，医歯薬出版，2017年，ISBN978-4-263-23687-1</li> <li>・医療情報科学研究所編：病気が見える（産科），第4版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7</li> <li>・平澤美恵子他：写真でわかる母性看護技術，インターメディアカ，2008年，ISBN978-4-89996-187-1</li> </ul> |   |      |          |    |                              |   |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法  | 事前課題の援助計画については、授業中の説明等を参照してください。事後学習のレポート・看護過程記録については評価し、必要により解説します。            |      |          |    |                              |   |
| 備考   | 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。<br>講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。 |      |          |    |                              |   |

| 授業科目名  |  | 担当教員                          |          |    |  |                                  |
|--|--|-------------------------------|----------|----|--|----------------------------------|
| 母性看護活動論Ⅱ（発展）   |  | 皮野 さよみ・清水 ゆかり（代表教員 皮野 さよみ）    |          |    |  |                                  |
| 必修・選択  | 配当年次   | 単位数(時間数)                      | 開講形態     |    |  |                                  |
| 必修   | 2年 後学期   | 1単位(45時間)                     | 演習 小ハス   |    |  |                                  |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員                         |          |    |  |                                  |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 皮野さよみ（助産師・看護師）、清水ゆかり（助産師・看護師） |          |    |  |                                  |
| 授業概要   |  |                               |          |    |  |                                  |
| 母性看護の対象に応じた看護を実践するための観察・援助技術の習得について学習する。また、母性看護の対象の看護実践を行うための「科学的な思考」について異常経過をたどる褥婦と新生児の事例の展開を通して学習する。 |  |                               |          |    |  |                                  |
| 学修の到達目標  |  |                               |          |    |  |                                  |
| ①母性看護の実践に必要な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護技術を習得する。<br>②帝王切開を受けた褥婦と新生児の看護過程の展開をとらえて科学的な思考ができる。                     |  |                               |          |    |  |                                  |
| 回  | 授業計画   | 到達目標                          | 担当       | 形態 | 事前学習   | 事後学習                             |
| 1  | 妊婦の観察とアセスメント：レオポルド触診法，子宮底・腹囲測定                 | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | レオポルド触診法の援助計画作成 30分                            | レオポルド触診法の援助計画修正・提出 30分           |
| 2  | 妊婦・産婦の観察とアセスメント：胎児心音聴取，分娩監視装置（NST）の装着と観察       | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | NSTの装着と観察（胎児心音聴含む）の援助計画作成 30分                  | NSTの装着と観察（胎児心音聴含む）の援助計画修正・提出 30分 |
| 3  | 産婦の観察とアセスメント：産痛緩和（呼吸法・圧迫法・マッサージ法・リラクセス法），児頭の回旋 | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | 産婦の観察とアセスメント：産痛緩和（呼吸法・圧迫法・マッサージ法・リラクセス法），児頭の回旋 |                                  |
| 4  | 産婦の観察とアセスメント：胎盤計測                              | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | 胎盤計測の援助計画作成 30分                                | 胎盤計測の援助計画作成 30分                  |
| 5  | 褥婦の観察とアセスメント：子宮復古・悪露の観察                        | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | 褥婦の退行性変化の観察の援助計画作成 30分                         | 褥婦の退行性変化の観察の援助計画修正・提出 30分        |
| 6  | 褥婦の観察とアセスメント：乳房・乳汁の性質・分泌量等の観察                  | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | 褥婦の看護の動画視聴 60分                                 |                                  |
| 7  | 褥婦の観察と看護：授乳時のポジショニング・ラッチオン                     | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | ポジショニング・ラッチオンの観察・援助計画作成 30分                    | ポジショニング・ラッチオンの観察・援助計画修正・提出 30分   |
| 8  | 新生児の観察とアセスメント：バイタルサイン観察，計測（身長・体重・児頭・胸部他）       | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | 新生児のバイタルサイン観察の援助計画作成 30分                       | 新生児のバイタルサイン観察の援助計画修正・提出 30分      |
| 9  | 新生児の観察とアセスメント：生理的体重減少・生理的黄疸・便他の観察              | ①                             | 皮野<br>清水 | 演習 | 新生児の観察の動画視聴 30分                                | メモノート修正 30分                      |

| 回  | 授業計画  | 到達目標 | 担当       | 形態 | 事前学習                                | 事後学習                              |
|--|---|------|----------|----|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 10   | 新生児の観察とアセスメント：フィジカルアセスメント   | ①    | 皮野<br>清水 | 演習 | 新生児のフィジカルアセスメントの動画視聴 30分            | メモノート修正<br>30分                    |
| 11   | 新生児の育児技術：先天性代謝異常検査，聴覚検査，ビタミンK 2投与，光線療法時の看護                                      | ①    | 皮野<br>清水 | 演習 | 新生児の育児技術の動画視聴 30分                   | メモノート修正<br>30分                    |
| 12   | 新生児の育児技術：①抱き方・寝かせ方，②おむつ交換・寝衣交換  | ①    | 皮野<br>清水 | 演習 | ①抱き方・寝かせ方，②おむつ交換・寝衣交換の援助計画作成 30分    | ①抱き方・寝かせ方，②おむつ交換・寝衣交換の援助計画作成 30分  |
| 13   | 新生児の育児技術：沐浴・ドライテクニク   | ①    | 皮野<br>清水 | 演習 | 沐浴の援助計画作成<br>30分                    | 沐浴の援助計画修正<br>30分                  |
| 14   | 母児の看護過程の展開（帝王切開を受けた褥婦と新生児のアセスメント）   | ②    | 皮野<br>清水 | 演習 | 帝王切開を受けた褥婦の（当日・1日目）のアセスメント作成・提出 30分 | 帝王切開を受けた褥婦の（当日・1日目）の援助計画作成・提出 30分 |
| 15   | 母児の看護過程の展開（帝王切開を受けた褥婦と新生児の看護計画）   | ②    | 皮野<br>清水 | 演習 | 帝王切開を受けた新生児の（3～5日目）のアセスメント作成・提出 30分 | 帝王切開を受けた新生児の（3～5日目）の援助計画修正・提出 30分 |
| 評価基準・評価方法  |   |      |          |    |                                     |                                   |
| 母性看護技術援助計画書（35%），メモノート（30%），異常のある母児の看護過程レポート（20%），母性看護技術（沐浴）試験（15%）  |   |      |          |    |                                     |                                   |
| 使用教科書  |   |      |          |    |                                     |                                   |
| 母性看護学各論（母性看護学2） / 森 恵美ほか.--第13版--医学書院，2020年，ISBN978-4-260-02179-1  |   |      |          |    |                                     |                                   |
| 参考図書   |   |      |          |    |                                     |                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中村幸代ほか：根拠がわかる母性看護過程，第1版，南江堂，2020年，ISBN978-4-524-25513-9</li> <li>・平澤美恵子他：写真でわかる助産技術，インターメディカ，2012年，ISBN978-4-89996-294-6</li> <li>・平澤美恵子他：写真でわかる母性看護技術，インターメディカ，2008年，ISBN978-4-89996-187-1</li> <li>・島田信宏：胎児心拍モニタリング，改定第4版，東京医学社，2006年，ISBN978-4-88563-162-7</li> </ul> |   |      |          |    |                                     |                                   |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法  | 事前・事後課題については、授業（演習）開始時に説明等を行い、提出されたレポート・援助計画の評価を行い、必要時解説します。                    |      |          |    |                                     |                                   |
| 備考   | 質問等については、次の講義等に説明し、フィードバックします。<br>講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。 |      |          |    |                                     |                                   |

| 授業科目名  |  | 担当教員                          |      |    |      |      |
|--|--|-------------------------------|------|----|------|------|
| 母性看護学実習  |  | 皮野 さよみ・清水 ゆかり (代表教員 皮野 さよみ)   |      |    |      |      |
| 必修・選択  | 配当年次   | 単位数(時間数)                      | 開講形態 |    |      |      |
| 必修   | 2年 後学期   | 2単位(90時間)                     | 実習   |    |      |      |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員                         |      |    |      |      |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 皮野さよみ(助産師・看護師)、清水ゆかり(助産師・看護師) |      |    |      |      |
| 授業概要   |  |                               |      |    |      |      |
| 母子及びその家族の健康を支えるために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。  |  |                               |      |    |      |      |
| 学修の到達目標  |  |                               |      |    |      |      |
| ①妊婦・産婦・褥婦・新生児と家族の健康を支えるために必要な看護を説明し、一部実施できる。<br>②生命の尊厳・母子と家族の人権・プライバシーに配慮した行動をとることができる。<br>③母子と家族を支える多職種の連携・協働を理解し、看護チームの一員として必要な行動ができる。 |  |                               |      |    |      |      |
| 回  | 授業計画   | 到達目標                          | 担当   | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|  | 1. 褥婦と新生児を受け持ち、退行性変化・進行性変化促進、母親役割適応過程及び児の胎外生活適応のアセスメント・看護計画の立案・看護計画に基づいて受け持ち褥婦の退行性変化・進行性変化を促進する看護を指導者と共に実施・評価すると共に・新生児の観察・環境調整・沐浴等の看護計画を立案し、指導者と共に実施・評価する。 | ①<br>②<br>③<br>④<br>⑤<br>⑥    |      |    |      |      |
|  | 2. 妊娠期から育児期の保健指導(母親学級・退院指導・沐浴指導、各種相談)の見学と見学記録における考察を行う。  | ①<br>②<br>③<br>④<br>⑤<br>⑥    |      |    |      |      |
|  | 3. NICUでは、長期・短期に医療依存度の高い子どもと家族に対する看護・治療に伴うストレスを軽減し、子どもの成長・発達を促進する環境づくりのための看護を見学し考察する。  | ④<br>⑤<br>⑥                   |      |    |      |      |
|  | 4. 母子と家族に関わる医師・助産師・外来看護職員・地域の保健師・小児科など多職種の連携・協働の見学・説明を受ける看護の役割を考察する。   | ⑤                             |      |    |      |      |
|  | 5. 実習全体をとおして生命の尊厳への認識を深めカンファレンスの発言・レポートに表現する。  | ⑥                             |      |    |      |      |
|  |  |                               |      |    |      |      |
|  |  |                               |      |    |      |      |
|  |  |                               |      |    |      |      |
|  |  |                               |      |    |      |      |
|  |  |                               |      |    |      |      |

| 回   | 授業計画  | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|------|------|
|   |   |      |    |    |      |      |
|   |   |      |    |    |      |      |
|   |   |      |    |    |      |      |
|   |   |      |    |    |      |      |
|   |   |      |    |    |      |      |
|   |   |      |    |    |      |      |
|   |   |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法   |   |      |    |    |      |      |
| 「母性看護学実習評価表」に基づき評価する  |   |      |    |    |      |      |
| 使用教科書   |   |      |    |    |      |      |
| 母性看護学各論（母性看護学2） / 森恵美ほか.--第13版--医学書院，2020年，ISBN978-4-260-02179-1<br>根拠がわかる母性看護過程 / 中村幸代ほか.--第1版--南江堂，2020年，ISBN978-4-524-25513-9  |   |      |    |    |      |      |
| 参考図書  |   |      |    |    |      |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報科学研究所編：病が見える（産科），第4版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7</li> <li>・平澤美恵子他：写真でわかる母性看護技術，インターメディカ，2008年，ISBN978-4-89996-187-1</li> <li>・平澤美恵子他：写真でわかる助産技術，インターメディカ，2012年，ISBN978-4-89996-294-6</li> <li>・島田信宏：胎児心拍モニタリング，改定第4版，東京医学社，2006年，ISBN978-4-88563-162-7</li> </ul> |   |      |    |    |      |      |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法   | 実習中及び学内日に説明・実施等の指導を行う。  |      |    |    |      |      |
| 備考  | 履修前提条件<br>・2年次前期までの専門基礎科目全て及び【看護の原理と基礎】全科目、母性看護学概論・母性看護活動論Ⅰの単位が修得済みであること。また、母性看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。<br>・感染症の抗体検査済みで、抗体陰性の場合は予防接種を受けていること。 |      |    |    |      |      |

| 授業科目名  |  | 担当教員      |      |    |  |  |
|--|--|-----------|------|----|--|--|
| 精神看護学概論  |  | 三品 弘司     |      |    |  |  |
| 必修・選択  | 配当年次                                     | 単位数(時間数)  | 開講形態 |    |  |  |
| 必修   | 2年 前学期                                   | 1単位(15時間) | 講義   |    |  |  |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員     |      |    |  |  |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 三品弘司(看護師) |      |    |  |  |
| 授業概要   |  |           |      |    |  |  |
| 精神看護学概論では、対象の個性を捉えられるように、各ライフステージにおける成長・発達課題の理解を深め、自我の防衛機能とストレスコーピングの考え方、また患者の自己対処能力について学習する。そして、より健康な社会生活を営むため、或いは精神の不健康状態からの回復を支えるための看護について、その意義、目的、方法等について学習する。   |  |           |      |    |  |  |
| 学修の到達目標  |  |           |      |    |  |  |
| ①対象の個性を捉えられるように、パーソナリティの発達過程と各ライフステージにおける成長・発達課題を理解し、自我の防衛機能とストレス・コーピングの考え方、患者の自己対処能力について説明できる。<br>②対象を取り巻く環境として、精神保健の動向や現代のストレス社会の理解と現行の精神保健福祉法の目指す目的が説明できる。<br>③精神障害を持つ対象への看護のアプローチに基本的な考え方を身に付けることができる。 |  |           |      |    |  |  |
| 回  | 授業計画                                     | 到達目標      | 担当   | 形態 | 事前学習   | 事後学習   |
| 1  | 精神的健康の定義 脳の構造と認知機能                       | ①         | 三品   | 講義 |  | 精神的健康の定義を理解すること<br>精神看護と精神科看護の違いを理解すること(120分)            |
| 2  | 精神力動と防衛機制                                | ②         | 三品   | 講義 | 意識・前意識・無意識の違いを調べること<br>防衛機制「合理化」「同一視」「昇華」「転換」について調べてくること(180分) | 講義で扱った防衛機制すべてを理解すること<br>「イド」「エゴ」「スーパーエゴ」の関係を理解すること(120分) |
| 3  | 精神医療の変遷 精神看護の変遷                          | ②         | 三品   | 講義 | 科書を参考に課題プリントの( )を埋めてくること。(120分)                                | 精神医療の変遷の概要を理解すること。(120分)                                 |
| 4  | 精神保健と法律 精神保健法について                        | ③         | 三品   | 講義 | 入院形態(任意・医療保護・措置・緊急措置・応急)の違いについて調べてくること(120分)                   | 精神保健福祉法について理解すること(180分)                                  |
| 5  | ライフサイクルにおける心の発達(フロイトの理論、マラーの理論、エリクソンの理論) | ①         | 三品   | 講義 |  | 各理論を理解すること(180分)   |
| 6  | 危機的状況にある人の理解(ストレスと危機)                    | ③         | 三品   | 講義 | 「バーンアウト」「アパシー」「青い鳥症候群」「空の巣症候群」について調べてくること(120分)                | 各用語について覚えること<br>ストレスマネジメントの考え方を理解すること(120分)              |
| 7  | 精神障害の理解 治療的環境の理解                         | ③         | 三品   | 講義 | 閉鎖病棟・解放病棟の特徴について調べること(60分)                                     | 精神医療の治療的環境について理解すること(120分)                               |
| 8  | 精神医療の現状と課題                               | ②         | 三品   | 講義 | 教科書記載の統計等の資料を見ること(120分)  | 日本の精神医療について理解すること(120分)                                  |
|  | 筆記試験                                     |           |      |    |  |  |

| 評価基準・評価方法   |   |
|---|---|
| 小テスト (20%)、筆記試験 (80%)   |   |
| 使用教科書   |   |
| 新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3389-1<br>新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3390-7                   |   |
| 参考図書  |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・武井麻子：精神看護学ノート 第2版, 医学書院, 2005年.</li> <li>・舟島なをみ他：看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2017年.</li> <li>・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年.</li> </ul> |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらえ。質問の内容は次回の授業で説明する。</li> <li>・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。</li> <li>・小テストを計2回実施する。(第1回：入院形態と精神保健福祉法第2回：防衛機制と発達理論(フロイト/エリクソン))</li> <li>・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。</li> </ul> |
| 備考  | 授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。   |

| 授業科目名   |                        | 担当教員                          |            |    |  |   |
|---|------------------------|-------------------------------|------------|----|--|---|
| 精神看護活動論Ⅰ（基礎）  |                        | 三品 弘司・小森 あゆみ・森 敏幸（代表教員 三品 弘司） |            |    |  |   |
| 必修・選択   | 配当年次                   | 単位数(時間数)                      | 開講形態       |    |  |   |
| 必修  | 2年 後学期                 | 2単位(90時間)                     | 講義・演習 オムバス |    |  |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |                        | 実務家教員                         |            |    |  |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |                        | 三品弘司(看護師) 小森あゆみ(音楽療法士)        |            |    |  |   |
| 授業概要  |                        |                               |            |    |  |   |
| 精神看護活動論Ⅰでは、講義や演習を通し、精神疾患の理解と精神看護の基礎的技術を習得する。講義では、まず精神疾患あるいは状態ごとの症状の表れ方を理解し、問題解決に向けた具体的な援助方法について学習する。次いで、精神障害者と家族をとりまく環境を理解し、社会への適応、自立に向けた支援の方法について学習する。演習では、コミュニケーションの演習や精神科におけるリハビリテーション療法の演習を通し精神看護に必要な技術を学習する。   |                        |                               |            |    |  |   |
| 学修の到達目標   |                        |                               |            |    |  |   |
| ①主な精神疾患とその治療および看護について説明できる。<br>②精神看護における観察の意義および視点を説明できる。<br>③精神障害をもちながらもその人らしく生きることについてリカバリーの視点から考えることができる。<br>④看護師－患者関係の意義について説明できる。<br>⑤精神障害者の退院支援および地域生活を支える精神保健医療福祉の実践について説明できる。<br>⑥精神医療に携わる専門職の役割と多職種連携における看護師の役割について説明できる。<br>⑦関わりの方場の再構成を通して、そこで何が起きているのかを表現できる。(自己洞察の重要性が理解できる) |                        |                               |            |    |  |   |
| 回   | 授業計画                   | 到達目標                          | 担当         | 形態 | 事前学習   | 事後学習  |
| 1   | 統合失調症の理解と看護(1)         | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p72-79を読み、統合失調症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(90分)              | 教科書②p274-288を読み、統合失調症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(90分)       |
| 2   | 統合失調症の理解と看護(2)         | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | なし   | 第1回の事前・事後学習や授業で教授した内容を国試過去問題を利用して復習すること。(150分)                  |
| 3   | 気分障害の理解と看護             | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p77-88を読み、気分障害の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分)               | 教科書②p288-304を読み、気分障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること(90分)         |
| 4   | 不安障害・強迫性障害・心的外傷の理解と看護  | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p88-104までを読み、不安障害、強迫性障害、心的外傷の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書②p328-333を読み、強迫性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(90分)       |
| 5   | 解離性障害・身体症状症の理解と看護      | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p104-112を読み、解離性障害、身体症状症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分)      | 教科書②p322-328を読み、注意欠如・多動性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(90分)  |
| 6   | 摂食障害・睡眠覚醒障害の理解と看護      | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p112-122を読み、摂食障害、睡眠覚醒障害の病因、症状、治療等を理解すること。(60分)         | 教科書②p333-337を読み、摂食障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(90分)        |
| 7   | 物質関連障害(薬物・アルコール)の理解と看護 | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p122-129を読み、物質関連障害の病因、症状、治療等を理解すること。(60分)              | 教科書②p305-310を読み、アルコール依存症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(90分)    |
| 8   | パーソナリティ障害・神経発達障害の理解と看護 | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p130-149を読み、パーソナリティ障害とてんかんの病因、症状、治療等を理解すること。(60分)      | 教科書②p316-322を読み、自閉症スペクトラム障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(90分) |
| 9   | 精神障害をもつ人への治療(1)～薬物療法～  | ①<br>②                        | 三品         | 講義 | 教科書②p152-170を読み、薬物療法と電気けいれん療法について理解すること。(90分)              | 講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。(120分)                             |

| 回  | 授業計画                                | 到達目標   | 担当      | 形態 | 事前学習   | 事後学習  |
|----|-------------------------------------|--------|---------|----|--|---|
| 10 | 精神障害をもつ人への治療（2）～リハビリテーション療法、精神療法 他～ | ①<br>② | 三品      | 講義 | 教科書②p171-190を読み、リハビリテーション療法と精神療法について理解すること。（120分）                | 講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）               |
| 11 | 精神障害をもつ人への治療（3）～ 芸術療法（音楽療法）～        | ③      | 小森      | 演習 | なし   | レポート（120分）  |
| 12 | 精神障害をもつ人のリカバリー                      | ③      | 三品      | 講義 | 教科書①p15-18, 同②p10-15, 19, 171, 196を読み、リカバリーの理念や支援のあり方を整理する。（60分） | 予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）          |
| 13 | 精神看護における患者－看護師関係                    | ④      | 三品      | 講義 | 教科書②p194-206を読み、精神看護における患者－看護師の関係を築くうえで必要なことを考える。（60分）           | 予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）          |
| 14 | 精神障害をもつ人とのコミュニケーション                 | ④      | 三品      | 講義 | 教科書②p205-215を読み、精神障害をもつ人とのコミュニケーションで大切なことについて考えてくる。（90分）         | 授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）                 |
| 15 | 精神医療における長期入院患者の退院支援                 | ④<br>⑤ | 三品      | 講義 | 教科書p386-396を読み、精神医療における長期入院の現状とその患者への支援のあり方を考える。（90分）            | 授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）                 |
| 16 | 精神障害をもつ人の地域における生活への支援               | ⑤      | 三品      | 講義 | 教科書②p356-386を読み、精神障害をもつ人の地域における生活への支援を理解する。（120分）                | 予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）          |
| 17 | リエゾン精神看護 精神医療における多職種連携              | ⑥      | 三品      | 講義 | 教科書②p428-442を読み、リエゾン精神看護専門看護師の具体的な活動内容について理解する。（60分）             | 予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（120分）          |
| 18 | プロセスレコードの書き方（1）                     | ⑦      | 三品      | 演習 | 教科書②p215-223を読み、プロセスレコードについて目を通す。（90分）                           | プロセスレコードの加筆修正する。（120分）                            |
| 19 | プロセスレコードの書き方（2）                     | ⑦      | 三品      | 演習 | なし   | プロセスレコードの加筆修正する。（120分）                            |
| 20 | 当事者との交流会                            | ③      | 三品<br>森 | 演習 | 教科書②p371-374「当事者の力量を活かす相互作用」を読み、ピアについて理解する。（120分）                | ピア活動の目的と意義、地域でのピア活動の実際等、指定課題をレポートにまとめて提出する。（150分） |
|    | 定期試験（筆記）                            |        |         |    |  |   |

評価基準・評価方法

認知領域（知識）： 最終試験で評価する。（70%）

精神運動・情意領域（技術・態度）：「演習参加状況」「レポート」で評価（20%）、小テスト（10%）

使用教科書

新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3363-1  
 新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3390-7  
 精神医学ハンドブックー医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格.--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4-5359-8333-5

| 参考図書   |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・上島国利：最新図解 やさしくわかる最新医学, ナツメ社, 2017年, 978-4816362682.</li> <li>・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年, 978-4260021852. ※他の図書は授業内で紹介する。</li> </ul> |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらおう。質問の内容は次回の授業で説明する。</li> <li>・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。</li> </ul>   |
| 備考   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認は、パトグラと「レスポンスカード」にて行う。出席カードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。</li> <li>・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。</li> <li>・小テストを計2回実施する。(第1回：統合失調症に関する内容、第2回：精神障害をもつ人の地域における生活への支援)</li> <li>・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。</li> </ul> |

| 授業科目名  |  | 担当教員             |       |      |  |   |
|--|--|------------------|-------|------|--|---|
| 精神看護活動論Ⅱ（発展）   |  | 三品 弘司            |       |      |  |   |
| 必修・選択  | 配当年次                                     | 単位数(時間数)         | 開講形態  |      |  |   |
| 必修   | 3年 前学期                                   | 1単位(45時間)        | 講義・演習 |      |  |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員            |       |      |  |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 三品 弘司(看護師)       |       |      |  |   |
| 授業概要   |  |                  |       |      |  |   |
| <p>精神看護活動論Ⅱでは、精神科看護における看護過程の展開方法についてオレム・アンダーウッド理論とストレングスモデルを用いながら事例を実際に展開し、対象を理解するためのアセスメント、患者の夢や希望、そしてストレングスを用いた看護援助計画の立案を行う能力を習得する。</p> <p>また、精神の健康障害をもつ人との治療的関係を築くための必要な援助を修得し、その人らしく地域で生活するためのリカバリーを大切にされた支援の在り方について理解する。</p>  |  |                  |       |      |  |   |
| 学修の到達目標  |  |                  |       |      |  |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階を踏まえた対象者のアセスメントができる。</li> <li>2. 精神症状が日常生活に与える影響についてアセスメントができる。</li> <li>3. オレム・アンダーウッド理論に基づいた看護展開が説明できる。</li> <li>4. 精神科におけるリカバリーのあり方について説明できる。</li> <li>5. 精神疾患およびその疾患を有する患者への看護について説明できる。</li> <li>6. プロセスレコードを通して自分の言動を考察し、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。</li> </ol> |  |                  |       |      |  |   |
| 回  | 授業計画                                     | 到達目標             | 担当    | 形態   | 事前学習   | 事後学習  |
| 1  | オレム・アンダーウッド理論 / 普遍的セルフケア要素の視点とアセスメントの考え方 | ③                | 三品    | 講義   | 教科書②p234-243を読み、オレム・アンダーウッドモデルと普遍的セルフケア要素を理解すること。(60分)   | オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素について復習すること。(教科書②p234-243、授業資料)(120分) |
| 2  | リカバリーのためのストレングスモデル                       | ④                | 三品    | 講義   | 精神看護活動論Ⅰのリカバリーに関連する資料および教科書を読み復習すること。(60分)               | 講義で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。(120分)                       |
| 3  | 統合失調症 シミュレーション演習                         | ⑤                | 三品    | 講義演習 | 統合失調症に関連する内容(教科書②p71-76)を読み、復習すること。(60分)                 | 講義で教授した統合失調症の看護について復習すること。(60分)                           |
| 4  | プロセスレコードを用いた自己分析(1)                      | ⑥                | 三品    | 演習   | 教科書②p212-219、精神看護活動論Ⅰ授業資料を用いてプロセスレコードの書き方を理解しておくこと。(60分) | 授業で作成したプロセスレコードを完成させること。(30分)                             |
| 5  | プロセスレコードを用いた自己分析(2)                      | ⑥                | 三品    | 演習   | なし   | 授業で作成したプロセスレコードを完成させて提出する。(30分)                           |
| 6  | 統合失調症患者の看護過程展開(1) 発達の特性についての解説           | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品    | 講義演習 | 発達の特性についての分析をしてもらうこと。(120分)                              | レポートの加筆修正(60分)  |
| 7  | 統合失調症患者の看護過程展開(2) 疾病の特性についての解説           | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品    | 講義演習 | 疾患の特性についての分析をしてもらうこと。(120分)                              | レポートの加筆修正(60分)  |
| 8  | 統合失調症患者の看護過程展開(3) セルフケア要素 各項目の解説①        | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品    | 講義演習 | オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしてもらうこと。(120分)                  | レポートの加筆修正(60分)  |
| 9  | 統合失調症患者の看護過程展開(4) セルフケア要素 各項目の解説②        | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品    | 講義演習 | オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしてもらうこと。(120分)                  | レポートの加筆修正(60分)  |

| 回   | 授業計画   | 到達目標             | 担当 | 形態       | 事前学習   | 事後学習               |
|---|--|------------------|----|----------|--|--------------------|
| 10  | 統合失調症患者の看護過程展開（5）<br>ストレングモデルを用いた看護展開の解説   | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品 | 講義<br>演習 | ストレングモデルを用いて普遍的セルフケア要素の査定と情報の統合、看護計画を立案してくること。<br>(120分) | レポートの加筆修正<br>(60分) |
|   | 定期試験（筆記）   |                  |    |          |  |                    |
| 評価基準・評価方法   |  |                  |    |          |  |                    |
| 認知領域（知識）： 最終試験で評価する。（60%）<br>精神運動・情意領域（技術・態度）： レポート・態度で評価する。（40%）   |  |                  |    |          |  |                    |
| 使用教科書   |  |                  |    |          |  |                    |
| 新体系 看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233631<br>新体系 看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233648<br>精神医学ハンドブック-医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格.--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335 |  |                  |    |          |  |                    |
| 参考図書  |  |                  |    |          |  |                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・萱間真美：リハビリ・退院支援・地域連携のためのストレングモデル活用術, 医学書院, 2016年, 978-4260027984.</li> <li>・萱間真美：パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版, 照林社, 2015年, 978-4796523417.</li> </ul> ※他の図書は授業内で紹介する。                                |  |                  |    |          |  |                    |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらおう。質問の内容は次回の授業で説明する。</li> </ul>  |                  |    |          |  |                    |
| 備考  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認は、「レスポンスカード」にて行う。レスポンスカードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。</li> <li>・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。</li> </ul> |                  |    |          |  |                    |

| 授業科目名   |   | 担当教員                 |    |      |  |             |
|---|---|----------------------|----|------|--|-------------|
| 精神看護学実習   |   | 三品 弘司・他 (代表教員 三品 弘司) |    |      |  |             |
| 必修・選択   | 配当年次  | 単位数(時間数)             |    | 開講形態 |  |             |
| 必修  | 3年 前学期  | 2単位(90時間)            |    | 実習   |  |             |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員                |    |      |  |             |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   | 三品弘司(看護師)            |    |      |  |             |
| 授業概要  |   |                      |    |      |  |             |
| 精神疾患によって、日常生活や対人関係に困難をきたしている対象を受け持ち、オレム・アンダーウッド理論を用いて看護過程を展開していく。対象者との関わりを通して対象・自己理解を深め、その人らしい生活が送れるための援助方法や社会復帰に向けての働きかけについて学び、精神看護の役割および機能を理解する。  |   |                      |    |      |  |             |
| 学修の到達目標   |   |                      |    |      |  |             |
| ①精神健康上の問題が、対象の身体・行動・対人関係にどのように表れているのか状況理解を深める。その理解に基づいて、対象者の抱えている課題や問題の解決に向けた個別性のある看護を実践することができる。<br>②精神に障害を持つ人への治療の実際と治療上必要な看護の実際を説明できる。<br>③対象者への関わりを通して、自己の関わりを振り返り、援助技術としてのコミュニケーションのあり方を述べることができる。<br>④地域における精神障害者の生活の自立や社会参加を支援するための方法について学び、看護職に求められる役割と援助方法について説明できる。 |   |                      |    |      |  |             |
| 回   | 授業計画  | 到達目標                 | 担当 | 形態   | 事前学習   | 事後学習        |
|   | I. 実習施設   |                      |    |      | (1) 以下の疾患の理解<br>①統合失調症(急性期、慢性期)              | 実習記録をまとめること |
|   | 岐阜大学医学部附属病院、黒野病院、のぞみの丘ホスピタル   |                      |    |      | ②気分〔感情〕障害(双極性障害〔躁うつ病〕、単極性障害〔うつ病])            | カンファレンスの準備  |
|   | II. 実習方法  |                      |    |      | ③摂食障害(神経性やせ症、神経性過食症) ④境界性パーソナリティ障害           |             |
|   | 1. 学生40名を1グループ3~4名で編成し、3医療機関のいずれかの精神科病棟で2週間実習を行う。                     | ①<br>②<br>③<br>④     | 三品 | 実習   | (2) 電気けいれん療法(ECT)<br>※修正型電気けいれん療法(m-ECT)も調べる |             |
|   | 2. 実習についてオリエンテーション(施設などの概要、諸注意、事前学習等)を受ける。                            | ①<br>②<br>③<br>④     | 三品 | 実習   | (3) 精神保健福祉法(①入院形態、②精神保健指定医、③特定医師、④隔離・身体拘束、   |             |
|   | 3. 事前学習は、①精神障害と法制度、②主な精神疾患の治療と看護、③地域で精神障害者を支援するための制度について紙面にて課題の提示を行う。 | ①<br>②<br>③<br>④     | 三品 | 実習   | ⑤精神障害者保健福祉手帳制度、⑥通信・面会の自由、                    |             |
|   | 4. 対象者を学生1~2名で受け持ち、対象者の現在の心理状態や日常生活について関心を持ち、                         |                      |    |      | ⑦守秘義務、⑧退院請求と処遇改善を求める権利                       |             |
|   | 対象者と関わる中で捉えた事柄について、実習指導者や教員の助言を受けながら、対象者の症状やリカバリー、ストレスを理解する。          | ①<br>②<br>③<br>④     | 三品 | 実習   | (4) 精神科デイケア                                  |             |
|   | 5. 学生は、実習病棟の特徴を理解し、対象者のニーズに即した看護過程(ケアプランに基づく)の展開やレクリエーション活動を実施する。     | ①<br>②<br>③<br>④     | 三品 | 実習   | (5) 障害者総合支援法のサービス事業<br>①地域活動支援センター           |             |

| 回   | 授業計画  | 到達目標             | 担当 | 形態 | 事前学習                   | 事後学習 |
|---|---|------------------|----|----|------------------------|------|
|   | 6. 対象者への関わりを通して、自己の関わりをプロセスレコードを使用しながら振り返る。                                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品 | 実習 | ②自立訓練（生活訓練）の「宿泊型」「通所型」 |      |
|   | 7. 精神障害者が社会復帰するための社会資源や看護の役割・援助を実際に見学し、理解する。                                  | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品 | 実習 |                        |      |
|   | 8. 学生は、適時、各実習場所でカンファレンスを行う。内容は、教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方などについて行う。                | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品 | 実習 |                        |      |
|   | 9. 臨地実習最終日は、実習指導者、教員とともにまとめの会で2週間の実習の学びについて振り返る。                              | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品 | 実習 |                        |      |
|   | 10. 学生は、学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有し、レポートにまとめ、提出する。                | ①<br>②<br>③<br>④ | 三品 | 実習 |                        |      |
|   | 詳細は、実習オリエンテーションで説明します   |                  |    |    |                        |      |
| 評価基準・評価方法   |   |                  |    |    |                        |      |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。   |   |                  |    |    |                        |      |
| 使用教科書   |   |                  |    |    |                        |      |
| 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 / 岩崎弥生他.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233631<br>体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生他.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233648<br>精神医学ハンドブックー医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格.--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335  |   |                  |    |    |                        |      |
| 参考図書  |   |                  |    |    |                        |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・萱間真美：精神看護第2版（パーフェクト臨床実習ガイド），照林社，2015年。</li> <li>・長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコードープロセスレコードが書ける、読める、評価できる本第2版，日総研，2017年。</li> <li>・田中美恵子編著：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版，医歯薬出版株式会社，2015年。</li> <li>・山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 第2版，メヂカルフレンド社，2015年。</li> </ul> |   |                  |    |    |                        |      |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法   | 分からないことがあれば、担当教員もしくは臨地実習指導者に聞いてください。その都度、対応します。                               |                  |    |    |                        |      |
| 備考  | 履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と精神看護学概論および精神看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、精神看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。 |                  |    |    |                        |      |

| 授業科目名  |                                | 担当教員  |            |      |                               |                                     |
|--|--------------------------------|---|------------|------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 課題研究事前演習   |                                | 熊田 ますみ・他 (代表教員 熊田 ますみ)                                  |            |      |                               |                                     |
| 必修・選択  | 配当年次                           | 単位数(時間数)  | 開講形態       |      |                               |                                     |
| 必修   | 3年 前学期                         | 1単位(15時間)   | 講義・演習 オムバス |      |                               |                                     |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                                | 実務家教員   |            |      |                               |                                     |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                                | 熊田ますみ(看護師)皮野さよみ(助産師・看護師)眞田正世(看護師)三品弘司(保健師・看護師)中齋二三博(司書) |            |      |                               |                                     |
| 授業概要   |                                |   |            |      |                               |                                     |
| 課題研究事前演習は、看護研究を行うための研究の目的・目標及びプロセスを学び、看護領域における研究の概要と研究の方法・看護研究を実践できる基礎的能力を養う。                          |                                |   |            |      |                               |                                     |
| 学修の到達目標  |                                |   |            |      |                               |                                     |
| ①看護領域における研究の目的・目標・倫理方法・考察を説明できる。<br>②研究の進め方を説明できる。<br>③文献検索をして、研究課題を見つけることができる。<br>④文献リスト・文献カードの作成ができる |                                |   |            |      |                               |                                     |
| 回  | 授業計画                           | 到達目標  | 担当         | 形態   | 事前学習                          | 事後学習                                |
| 1  | 看護研究とは何か、研究テーマの見つけ方            | ①<br>②  | 眞田         | 講義   | 領域別実習で興味や関心をもった内容についてまとめる120分 | 講義内容を振り返り、研究テーマ(案)についてまとめる120分      |
| 2  | 看護研究の手順、概念枠組みの作成               | ①<br>②  | 眞田         | 講義   | テキストの該当箇所を熟読する120分            | 講義内容を振り返り、看護研究の手順をまとめる120分          |
| 3  | 質的研究・量的研究                      | ①<br>②  | 熊田         | 講義   | テキストの該当箇所を熟読する120分            | 講義資料を振り返り、質的・量的研究の違いをまとめる120分       |
| 4  | 看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題           | ①<br>②  | 皮野         | 講義   | テキストの該当箇所を熟読する120分            | 研究計画書の作成及び倫理的問題についてまとめる120分         |
| 5  | 研究のまとめと研究発表(抄録・スライド・プレゼンテーション) | ③   | 皮野         | 講義   | テキストの該当箇所を熟読する120分            | 研究発表の方法についてまとめる120分                 |
| 6  | 文献検索の方法                        | ③   | 中齋         | 演習   | 自己の研究テーマ(案)に関するキーワードを3つ考える30分 | 自己の研究テーマ(案)に関する文献を1つ探す150分          |
| 7  | 文献検索                           | ③   | 三品         | 講義演習 | 自己の研究テーマ(案)に関する文献を2つ探す120分    | 自己の研究テーマ(案)に関する文献を探し、文献リストを作成する。    |
| 8  | 文献リスト・文献カード作成                  | ③   | 熊田他        | 演習   | 1文献について文献カードを作成する120分         | 文献リストを作成し提出する。文献カード1文献のみ作成し提出する180分 |
|  |                                |   |            |      |                               |                                     |

| 評価基準・評価方法   |  |
|---|--|
| 文献カード（50％） 文献リスト（40％） 演習への参加態度（10％）にて評価する   |  |
| 使用教科書   |  |
| 基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子.--学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4  |  |
| 参考図書  |  |
| 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by Step 第3版、学研<br>横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版<br>竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル ナース専科BOOKS、アンフェミア<br>川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院 |  |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 第1講から5講においては配布資料と教科書を対比させる。質問等に対しては次回の講義で対応する。   |
| 備考  | 専門分野の教員が、講義と演習形式で指導する。講義の進行上、授業内容・担当者が変更することがある。 |

| 授業科目名   |                    | 担当教員  |                      |    |                                   |                          |
|---|--------------------|---|----------------------|----|-----------------------------------|--------------------------|
| 課題研究  |                    | 熊田 ますみ・他 (代表教員 熊田 ますみ)                          |                      |    |                                   |                          |
| 必修・選択   | 配当年次               | 単位数(時間数)  | 開講形態                 |    |                                   |                          |
| 必修  | 3年 後学期             | 1単位(15時間)                                       | 演習                   |    |                                   |                          |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |                    | 実務家教員   |                      |    |                                   |                          |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |                    | 熊田ますみ(看護師)皮野さよみ(助産師・看護師)眞田正世(看護師)三品弘司(保健師・看護師)他 |                      |    |                                   |                          |
| 授業概要  |                    |   |                      |    |                                   |                          |
| 課題研究事前演習を踏まえ、それまでに履修した授業科目や実習から各人が関心のあるテーマを設定し、研究計画書を作成する。文献検索、論文収集、クリティークを主体的に進め、研究計画書を作成することで科学的な思考で看護を追求する姿勢を養う。       |                    |   |                      |    |                                   |                          |
| 学修の到達目標   |                    |   |                      |    |                                   |                          |
| ①必要な文献の収集ができる。<br>②文献学習を通して、研究デザインや倫理・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について説明できる。<br>③研究課題の選択や吟味の方法を説明できる。<br>④研究計画書の作成ができる。 |                    |   |                      |    |                                   |                          |
| 回   | 授業計画               | 到達目標  | 担当                   | 形態 | 事前学習                              | 事後学習                     |
| 1   | 研究テーマの絞り込み         | ①<br>②  | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 文献検討を見直して自分が興味をもった内容をまとめる<br>120分 | 指導を受けて研究テーマを絞り込む<br>120分 |
| 2   | 研究計画書の作成(研究動機の明確化) | ①<br>②  | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 研究テーマを絞りこみまとめ提出する<br>120分         | 研究動機を明確にして文章化する120分      |
| 3   | 研究計画書の作成(研究目的)     | ①<br>②<br>③                                     | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 研究目的をまとめる<br>120分                 | 指導を受けて研究目的を修正する120分      |
| 4   | 研究計画書の作成(概念枠組み)    | ①<br>②  | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 概念枠組みをまとめる<br>120分                | 指導を受けて概念枠組みを修正する<br>120分 |
| 5   | 研究計画書の作成(倫理的配慮)    | ③<br>④  | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 自己の研究における倫理的配慮をまとめる<br>120分       | 指導を受けて倫理的配慮の修正する<br>120分 |
| 6   | 研究計画書の作成(研究方法)     | ①<br>②<br>③                                     | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 研究方法をまとめる<br>120分                 | 指導を受けて研究方法を修正する120分      |
| 7   | 研究計画書の作成(研究方法)     | ①<br>②<br>③<br>④                                | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 指導を受けて研究方法をまとめる120分               | 指導を受けて研究方法を修正する120分      |
| 8   | 研究計画書の作成(スケジュール)   | ③<br>④  | 熊田<br>皮野<br>眞田<br>三品 | 演習 | 研究計画書を作成する<br>120分                | 研究計画書を完成して提出する120分       |
|   | 研究計画書提出            |   |                      |    |                                   |                          |

| 評価基準・評価方法  |   |
|--|---|
| 研究計画書（90％） 取り組み（10％）にて評価する。  |   |
| 使用教科書  |   |
| 基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子.--学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4   |   |
| 参考図書   |   |
| 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第3版、学研<br>横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版<br>竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル ナース専科BOOKS、アンフェミア<br>川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院 |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 課題内容は確認し各学生にフィードバックする。また、グループ間で検討し内容を深める。 |
| 備考   | 学生を6～8名のグループに分け、教員がゼミナール形式で指導する。          |

| 授業科目名   |   | 担当教員             |      |    |  |   |
|---|---|------------------|------|----|--|---|
| 在宅看護概論  |   | 小林 和成            |      |    |  |   |
| 必修・選択   | 配当年次  | 単位数(時間数)         | 開講形態 |    |  |   |
| 必修  | 2年 前学期  | 1単位(15時間)        | 講義   |    |  |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員            |      |    |  |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   | 小林和成(看護師・保健師)    |      |    |  |   |
| 授業概要  |   |                  |      |    |  |   |
| 地域・在宅で療養する看護の対象とその家族について理解し、療養環境と対象の特徴、更に看護の目的について学ぶ。また、在宅療養の環境が介護を継続する家族の生活にあることを理解して、援助者としての訪問看護のあり方と、在宅療養が医療と福祉からの連携が必要であることを学習する。 |   |                  |      |    |  |   |
| 学修の到達目標   |   |                  |      |    |  |   |
| ①地域・在宅看護の目的と基本理念を説明できる。<br>②地域・在宅看護の対象を生活者としてとらえる意義を説明できる。<br>③在宅療養を支える訪問看護の特徴を説明できる。<br>④在宅療法および健康増進のための社会資源および制度を説明できる。             |   |                  |      |    |  |   |
| 回   | 授業計画  | 到達目標             | 担当   | 形態 | 事前学習   | 事後学習  |
| 1   | 第1回 地域・在宅看護の概念① ー地域と生活<br>／地域・在宅看護の背景ー<br>第2回 地域・在宅看護の概念② | ①<br>②           | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成(120分)                               |
| 2   | 在宅療養者と家族の支援(第2章)  | ①<br>②           | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成(120分)                               |
| 3   | 地域包括ケアシステムにおける在宅看護(3章)                                    | ①<br>②           | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成・自分の地域の地域包括支援センターの住民の取り組みをレポート(120分) |
| 4   | 在宅医療を支える制度(4章)ー社会資源の活用、医療保険制度、介護保険制度                      | ④                | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成(120分)                               |
| 5   | 在宅医療を支える制度(4章)ー1<br>生活保護制度、障害者に関する法律                      | ①<br>②<br>④      | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成(120分)                               |
| 6   | 在宅ケアを支える制度(4章)ー2<br>難病・子どもの在宅療養                           | ①<br>②<br>④      | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成(120分)                               |
| 7   | 在宅療養を支える訪問看護(5章)  | ①<br>②<br>③      | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成(120分)                               |
| 8   | 在宅看護における危機管理と援助技術(6章唐章)                                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 小林   | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成・在宅看護概論での学びレポート(120分)                |
|   | 定期試験(筆記)  |                  |      |    |  |   |

| 評価基準・評価方法  |   |
|--|---|
| 定期試験（70％）、課題レポート（30％）  |   |
| 使用教科書  |   |
| ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア臺、株式会社メディカ出版 / 有桂・石田千絵・山下留理子 編.--MCメディカ出版, 2022, 978-4-8404-7543-3 |   |
| 参考図書   |   |
| その他は必要に応じて紹介する   |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。 |
| 備考   |   |

| 授業科目名  |                          | 担当教員   |          |    |                |                      |
|--|--------------------------|--|----------|----|----------------|----------------------|
| 在宅看護活動論Ⅰ（基礎）   |                          | 越納 美和・山田 剛司・清水 美智子・中川 幸代・堀 信宏（代表教員 越納 美和）                |          |    |                |                      |
| 必修・選択  | 配当年次                     | 単位数(時間数)   | 開講形態     |    |                |                      |
| 必修   | 2年 後学期                   | 2単位(90時間)  | 講義 小グループ |    |                |                      |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                          | 実務家教員  |          |    |                |                      |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                          | 越納美和(看護師), 堀 信宏(理学療法士), 山田剛司(看護師), 中川幸代(看護師), 清水美智子(看護師) |          |    |                |                      |
| 授業概要   |                          |  |          |    |                |                      |
| 地域においてしばしば見られる医療処置に伴う援助技術を必要とする在宅療養者の療養状況を理解し、各々の技術の実際を学習する。在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、CAPD、褥創ケア、在宅中心静脈栄養、吸引などについて、施設内での援助方法をもとに在宅で実践する場合の応用や緊急時の対処および家族への指導方法を中心に学習する。また、療養者の自立支援とQOLに向けた在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイントについて学習する。 |                          |  |          |    |                |                      |
| 学修の到達目標  |                          |  |          |    |                |                      |
| ①在宅療養者における日常生活の自立支援のアセスメント技術について説明できる。<br>②在宅における医療管理を必要とする人の看護アセスメントについて説明できる。<br>③看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護師の機能について説明できる。<br>④継続看護・退院時支援および地域連携の役割について説明できる。   |                          |  |          |    |                |                      |
| 回  | 授業計画                     | 到達目標   | 担当       | 形態 | 事前学習           | 事後学習                 |
| 1  | 在宅における・生活ケアと医療的ケアの援助技術   | ①  | 越納       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 2  | 在宅看護における安全と健康危機管理        | ①<br>②   | 越納       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 3  | 在宅療養生活を支える基本的な技術         | ①<br>②   | 越納       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 4  | 退院支援・退院調整の看護師の役割         | ③<br>④   | 山田       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 5  | 在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイント | ①<br>④   | 堀        | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 6  | 在宅における安全の確保 感染対策・医療事故防止  | ①<br>②   | 越納       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 7  | 在宅における服薬管理・継続看護の実際       | ①<br>③<br>④  | 越納       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 8  | 在宅医療技術 在宅酸素療法            | ①<br>②<br>④  | 山田       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |
| 9  | 在宅医療技術 在宅人工呼吸療法          | ①<br>②<br>④  | 山田       | 講義 | 事前配布資料を読む(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く(90分) |

| 回  | 授業計画                       | 到達目標             | 担当      | 形態 | 事前学習               | 事後学習                     |
|--|----------------------------|------------------|---------|----|--------------------|--------------------------|
| 10   | 在宅医療技術 胃瘻・経管栄養④中心静脈栄養      | ①<br>②<br>④      | 清水      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 11   | 在宅医療技術 尿路カテーテル・尿路ストーマ      | ①<br>②<br>④      | 中川      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 12   | 在宅ターミナル 在宅の看取りのケアと疼痛コントロール | ①<br>②<br>③      | 越納      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 13   | 在宅ターミナル 在宅訪問看護における終末期ケア    | ①<br>②<br>③      | 越納      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 14   | 療養者に適した福祉用具（施設見学）          | ①<br>②           | 越納      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 15   | 療養者に適した福祉用具（施設見学）          | ①<br>②           | 越納      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 16   | 在宅療養に関わる多職種の役割と連携          | ①<br>②<br>④      | 山田      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 17   | 多職種連携の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 越納<br>他 | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 18   | 多職種連携の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 越納<br>他 | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 19   | 多職種連携の実際                   | ①<br>②<br>③<br>④ | 越納<br>他 | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
| 20   | 在宅看護の展望                    | ①<br>②<br>③<br>④ | 越納      | 講義 | 事前配布資料を読む<br>(60分) | 講義の学びと感想レポートを書く<br>(90分) |
|  | 試験：定期試験またはレポート             |                  |         |    |                    |                          |
| 評価基準・評価方法  |                            |                  |         |    |                    |                          |
| 定期試験（70％）、課題レポート・演習参加態度（20％）、小テスト（10％）   |                            |                  |         |    |                    |                          |
| 使用教科書  |                            |                  |         |    |                    |                          |
| ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論①－地域療養を支えるケア / 第7版--MCメディカ出版, 2022年, 978-4-8404-7543-3<br>ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論②－地域療養を支える技術 / 臺 有桂他.--第2版--MCメディカ出版, 2022年, 978-4-8404-7544-0 |                            |                  |         |    |                    |                          |

参考図書

その他は必要に応じて紹介する

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| <p>課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法</p> | <p>講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。</p> |
| <p>備考</p>                        | <p>講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。</p>   |

| 授業科目名   |                            | 担当教員        |       |    |  |                        |
|---|----------------------------|-------------|-------|----|--|------------------------|
| 在宅看護活動論Ⅱ（発展）  |                            | 越納 美和       |       |    |  |                        |
| 必修・選択   | 配当年次                       | 単位数(時間数)    | 開講形態  |    |  |                        |
| 必修  | 3年 前学期                     | 1単位(45時間)   | 講義・演習 |    |  |                        |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |                            | 実務家教員       |       |    |  |                        |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |                            | 越納美和(看護師)   |       |    |  |                        |
| 授業概要  |                            |             |       |    |  |                        |
| <p>疾病や障害を持ちながら在宅で生活、療養する人とその家族を対象とし、各人のニーズに基づく生活行動の支援方法、及び社会資源の活用方法を理解し、対象に必要な在宅看護の展開方法を学習する。また、在宅看護における信頼関係形成の重要性を理解する。更に、在宅療養に必要な社会資源とその活用方法を学習する。</p>  |                            |             |       |    |  |                        |
| 学修の到達目標   |                            |             |       |    |  |                        |
| <p>①在宅でのコミュニケーション・面接技術や、訪問時のマナーについて説明できる。<br/>         ②在宅看護論実習における学生の動き方や、実習で学ぶ内容を説明できる。<br/>         ③在宅看護論実習における情報収集の視点や、在宅看護という特性を考えた看護過程展開の根拠を説明できる。<br/>         ④在宅看護実習における患者と家族のQOLや自立支援に向けた社会資源の根拠について説明できる。</p> |                            |             |       |    |  |                        |
| 回   | 授業計画                       | 到達目標        | 担当    | 形態 | 事前学習                                     | 事後学習                   |
| 1   | 在宅ケアの看護過程の展開とケアマネジメント      | ①<br>③<br>④ | 越納    | 講義 | ケアマネジメントと社会資源の活用について調べる(120分)            | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 2   | 脳梗塞後遺症の事例-介護保険による          | ②<br>③      | 越納    | 講義 | 介護保険及び患者の病態、治療、処置、看護援助に関連した学習(120分)      | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 3   | 中途障害による脊髄損傷療養者の事例          | ②<br>③      | 越納    | 講義 | 医療保険、介護保険及び患者の病態、治療、処置、看護援助に関連した学習(120分) | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 4   | 重度心身障害をもちながら地域で生活する小児      | ②<br>③      | 越納    | 演習 | 障害者総合支援法、病態、治療、処置、看護援助に関連した学習(120分)      | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 5   | 難病でをもちながら地域で生活する人のケアマネジメント | ②<br>③      | 越納    | 演習 | 障害者総合支援法、病態、治療、処置、看護援助に関連した学習(120分)      | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 6   | 看護過程展開の事例演習①               | ②<br>③      | 越納    | 演習 | 紙上事例に関する病態、治療に関する学習(120分)                | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 7   | 看護過程展開の事例演習②               | ②<br>③      | 越納    | 演習 | 紙上事例に関するケアマネジメントと多職種連携について調べる(120分)      | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
| 8   | 看護過程展開の事例演習③               | ①<br>②      | 越納    | 演習 | 紙上事例に関する本人と家族への看護上も課題とケアプランについて調べる(120分) | 授業に関する学びと感想をまとめる(120分) |
|   | 定期試験(筆記)                   |             |       |    |  |                        |

| 評価基準・評価方法   |   |
|---|---|
| 小テスト (10%)、課題レポート (40%)・定期試験 (50%)  |   |
| 使用教科書   |   |
| ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論①―地域療養を支えるケア / 臺 有桂他.―第6版―MCメディカ出版, 2021年, 978-4-8404-6520-5<br>ナーシンググラフィカ 2 1 在宅看護論②―地域療養を支える技術 / 臺 有桂他.―第1版―MCメディカ出版, 2018年, 978-4-8404-6134-4<br>強みと弱みからみた 在宅看護過程+総合的機能関連図 / 河野あゆみ.―第1版―医学書院, 2018年, 978-4-260-03684-9 |   |
| 参考図書  |   |
| その他は必要に応じて紹介する  |   |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。 |
| 備考  | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。   |

| 授業科目名  |  | 担当教員                        |      |    |      |      |
|--|--|-----------------------------|------|----|------|------|
| 在宅看護論実習  |  | 越納 美和・松野 ゆかり・他 (代表教員 越納 美和) |      |    |      |      |
| 必修・選択  | 配当年次   | 単位数(時間数)                    | 開講形態 |    |      |      |
| 必修   | 3年 前学期   | 2単位(90時間)                   | 実習   |    |      |      |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |  | 実務家教員                       |      |    |      |      |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |  | 越納美和(看護師)、松野ゆかり(看護師)他       |      |    |      |      |
| 授業概要   |  |                             |      |    |      |      |
| 地域で療養する人々やその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けたケアの実際を学ぶ。医療施設のみにとどまらず地域で生活する多様な人々を対象とした看護の他職種や患者・家族に対する役割を学び、さらに地域包括システム全体の理解を深め、保健医療と看護について看護実践を通して包括的な視野を得る。   |  |                             |      |    |      |      |
| 学修の到達目標  |  |                             |      |    |      |      |
| ①在宅で療養生活を送る療養者とその家族の特徴を説明できる。<br>②生活の場であることを理解し、対象者が望む生活を考慮した看護について支援計画を立案することができる。<br>③在宅療養者支援に必要な社会資源の種類や法律・制度を理解し、活用方法を説明できる。<br>④在宅療養に関わる多職種の役割と連携・調整方法について理解し、現状の課題を説明することができる。<br>⑤在宅療養や地域での人々の暮らしを包括的に支援するしくみを説明することができる。 |  |                             |      |    |      |      |
| 回  | 授業計画   | 到達目標                        | 担当   | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|  | I. 実習施設  |                             |      |    |      |      |
|  | 訪問看護ステーション実習：いび訪問看護ステーション、まつなみ訪問看護ステーション、訪問看護ステーション北方、岩砂訪問看護ステーション他                      |                             |      |    |      |      |
|  | 訪問看護ステーションひかり、うずら訪問看護ステーション、医師会訪問看護サンライズケアステーション、訪問看護ステーション平野、                           |                             |      |    |      |      |
|  | 地域包括支援センター：岐阜市地域包括支援センター長良、岐阜市地域包括支援センター岐北   |                             |      |    |      |      |
|  | 地域連携室：岩砂病院、山田病院、山内ホスピタル、岐阜北地域包括支援センター、在宅介護支援センター平野、松波病院入退院センター                           |                             |      |    |      |      |
|  | II. 実習方法   |                             |      |    |      |      |
|  | 1. 学生を12～14名ずつの6グループに分け1班とする。在宅看護論実習においては、実習施設での受け入れ人数が、1～3名であるため、1班はおおよそ10施設に分かれて実習を行う。 |                             |      |    |      |      |
|  | 2. 実習についてのオリエンテーション(施設の概要、諸注意、事前学習など)を受ける。   |                             |      |    |      |      |
|  | 3. 施設の概要や利用者の特徴について紹介を受け、看護過程展開に生かす。   |                             |      |    |      |      |

| 回  | 授業計画  | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|------|------|
|  | 4. 2週間のうち1週間を訪問看護ステーション、1週間のうち2日間を退院調整部門または在宅支援施設などの施設で実習を行い、学内日に学びを発表する。                                   |      |    |    |      |      |
|  | 5. 訪問看護ステーションでは、対象者1名を受け持ち、生活の場で対象の望む生活を考慮した看護を考える。   |      |    |    |      |      |
|  | 6. 受け持ち以外の対象者についても、1日1～2件程度同行訪問する。  |      |    |    |      |      |
|  | 7. 実習中に、ケアマネージャー、ホームヘルパー、医師、理学療法士、作業療法士などの多職種との連携場面を学習する。   |      |    |    |      |      |
|  | 8. 在宅療養を支えたり、在宅生活に繋ぐ施設では、その役割や連携方法を学ぶ。  |      |    |    |      |      |
|  | 9. 実習期間内で指導者と2回～3回程度カンファレンスを実施する。   |      |    |    |      |      |
|  | 10. 学内日に実習内容の検討、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や各施設での学びを共有する。  |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法  |   |      |    |    |      |      |
| 実習目標の到達度、実習態度、実習記録など実習全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。<br>実習態度・実習記録・課題レポート60%、学内日でのグループワークの取り組み態度、課題レポート、発表40%   |   |      |    |    |      |      |
| 使用教科書  |   |      |    |    |      |      |
| ナーシンググラフィカ2 1 在宅看護論①－地域療養を支えるケア / 臺 有桂他.--第6版--MCメディカ出版, 2021年, ISBN978-4-8404-6520-5<br>ナーシンググラフィカ2 1 在宅看護論②－地域療養を支える技術 / 臺 有桂他.--第1版--MCメディカ出版, 2021年, ISBN978-4-8404-6134-4 |   |      |    |    |      |      |
| 参考図書   |   |      |    |    |      |      |
| 河野 あゆみ (著) : 強みと弱みからみた 在宅看護過程: +総合的機能関連図 医学書院  |   |      |    |    |      |      |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法  | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義がクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートの内容が不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。 |      |    |    |      |      |
| 備考   | 履修前提条件: 【看護の原理と基礎】全科目と在宅看護概論および在宅看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、在宅看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。                               |      |    |    |      |      |

| 授業科目名  |                                   | 担当教員  |    |          |                        |                 |
|--|-----------------------------------|---|----|----------|------------------------|-----------------|
| 災害看護論  |                                   | 松田 好美・瀬瀬 朋弥・杉山 清美・山下 浩司 (代表教員 松田好美)                 |    |          |                        |                 |
| 必修・選択  | 配当年次                              | 単位数(時間数)  |    | 開講形態     |                        |                 |
| 必修   | 3年 後学期                            | 1単位(30時間)   |    | 講義 小グループ |                        |                 |
| 学位授与の方針と授業科目の関連  |                                   | 実務家教員   |    |          |                        |                 |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。   |                                   | 松田好美(看護師)、瀬瀬朋弥(看護師)、杉山清美(訪問看護認定看護師)、山下浩司(救急看護認定看護師) |    |          |                        |                 |
| 授業概要   |                                   |   |    |          |                        |                 |
| 大規模地震・洪水等の自然災害や大型交通事故や大火災などの人的災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から中・長期に渡り必要となる看護活動について理解を深める。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療、感染症対策、避難施設の保健対策、精神的ケア等の実例から、災害時における保健活動の概要を理解し、被災者に必要とされる医療・看護の基本的知識・技術を学んでいく。また、私たちが生活している地域にも、いつ災害が降りかかるかわからない状況である。そのため、災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術や判断・応用方法も考察する。 |                                   |   |    |          |                        |                 |
| 学修の到達目標  |                                   |   |    |          |                        |                 |
| ①災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術を理解し、判断・応用を説明できる。<br>②災害が人々の健康生活に及ぼす影響を述べることができる。<br>③災害急性期における活動に必要な知識、判断、技術、行動を理解し、関連して述べるができる。<br>④平常期から災害時期、災害復興期における看護活動について述べるができる。   |                                   |   |    |          |                        |                 |
| 回  | 授業計画                              | 到達目標  | 担当 | 形態       | 事前学習                   | 事後学習            |
| 1  | ガイダンス、災害概論                        | ①   | 松田 |          |                        | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 2  | 災害の分類、災害への備え：貴方はどうしますか(レポート課題の提示) | ①   | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 3  | 災害サイクル、災害が人々の健康生活に及ぼす影響           | ②   | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 4  | 災害時に必要な看護技術：CSCA、トリアージ            | ③   | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 5  | 病院における災害看護：TTT                    | ③<br>④  | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 6  | 災害時に必要な看護技術：二次トリアージ(トリアージの実施)     | ③   | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 7  | 災害時の倫理的問題・法律問題、国家試験問題について         | ④   | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 8  | 災害被災者へのメンタルケア、災害援助者のストレスと緩和       | ④   | 松田 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 9  | 避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護          | ④   | 瀬瀬 |          | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |

| 回   | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習                   | 事後学習            |
|---|--|------|----|----|------------------------|-----------------|
| 10  | 避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護   | ④    | 額額 |    | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 11  | 災害時に必要な看護技術：成人への心肺蘇生   | ③    | 松田 |    | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 12  | 災害時に必要な看護技術：成人のALS、小児・乳児の心肺蘇生  | ③    | 松田 |    | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 13  | 災害時に必要な看護技術：演習（成人、乳児への心肺蘇生）3グループに分けて行う   | ③    | 松田 |    | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 14  | 災害発災時のDMAT活動（ドクターヘリ活動を含む）  | ③    | 山下 |    | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
| 15  | 災害発生地における被災者のケア  | ④    | 杉山 |    | 教科書の該当部分や資料を確認する。(20分) | 講義内容を振り返る。(50分) |
|   | 定期試験（筆記）。講義、演習の順序は変更する可能性がある。  |      |    |    |                        |                 |
| 評価基準・評価方法   |  |      |    |    |                        |                 |
| 最終試験60%, レポート40% (2回)   |  |      |    |    |                        |                 |
| 使用教科書   |  |      |    |    |                        |                 |
| 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編 / 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修.--改訂6版 --へるす出版, 2021年, 978-4-86719-026-5<br>看護の統合と実践(3) : 災害看護 / 酒井明子 他.--第5版--MCメディカ出版, 2022年, 978-4-8404-7545-7 |  |      |    |    |                        |                 |
| 参考図書  |  |      |    |    |                        |                 |
|   |  |      |    |    |                        |                 |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | レポート1: レポート提出後、課題について講義時間内に説明する。<br>レポート2: レポート課題は授業時間内に説明済みであり、学生の質問等に対しては掲示文章によりフィードバックする。   |      |    |    |                        |                 |
| 備考  | 授業開始までに。消防署などで一般市民用の心肺蘇生の講習を受ける(3~4時間)。レポート(評価20%)する。<br>演習・講習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止し、内容・方法を変更する可能性がある。<br>授業時に質問調査紙を配付し、授業最後に回収する。資料にない内容であれば、次回の授業開始時に回答する。 |      |    |    |                        |                 |

| 授業科目名   |  | 担当教員  |                      |    |   |   |
|---|--|---|----------------------|----|---|---|
| 総合判断育成演習  |  | 熊田 ますみ・皮野 さよみ・山内 久美子・他 (代表教員 熊田 ますみ)              |                      |    |   |   |
| 必修・選択   | 配当年次   | 単位数(時間数)  | 開講形態                 |    |   |   |
| 必修  | 3年 後学期   | 2単位(30時間)   | 講義・演習                |    |   |   |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |  | 実務家教員   |                      |    |   |   |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |  | 熊田ますみ(看護師)、皮野さよみ(助産師・看護師)、眞田正世(看護師)、三品弘司(保健師・看護師) |                      |    |   |   |
| 授業概要  |  |   |                      |    |   |   |
| 看護師として実践チームの中で機能するために、看護管理・チーム医療の基礎を学び、複数の看護の対象の日常生活援助・診療の補助行為等実際の場面を想定して演習を行い、対象及び場面に応じた判断力・看護技術を学ぶ。   |  |   |                      |    |   |   |
| 学修の到達目標   |  |   |                      |    |   |   |
| ①医療チームの一員として、看護におけるマネジメントの視点を説明できる。<br>②チーム医療に関する連携協働を学び、多重課題に対する優先順位を説明できる。<br>③医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制と医療安全活動を説明できる。<br>④「実習における卒業時到達度Ⅰ」の項目を事例を用いて情報をアセスメントして立案した計画に基づいて実施できる。 |  |   |                      |    |   |   |
| 回   | 授業計画   | 到達目標  | 担当                   | 形態 | 事前学習                                      | 事後学習                                    |
| 1   | 看護管理(組織の一員としての役割と行動・リーダーシップとフォロワーシップ・円滑な組織運営に必要な対人力) | ①   | 皮野                   | 講義 | テキストの該当箇所を読む 120分                         | 配布資料・講義内容を振り返る 120分                     |
| 2   | 看護管理(看護管理とは・看護管理システム・看護部門と他部門との連携)                   | ①   | 山内                   | 講義 | テキストの該当箇所を読む 120分                         | 配布資料・講義内容を振り返る 120分                     |
| 3   | 看護管理(人材資源の管理・看護ケアマネジメントとは・看護サービス管理のマネジメントとは)         | ①   | 山内                   | 講義 | テキストの該当箇所を読む 120分                         | 課題レポートを作成し提出する 120分                     |
| 4   | チーム医療(チーム医療とは・チームナースング・一日の業務の組み立て方・多重課題に対する優先順位のつけ方) | ②   | 熊田                   | 講義 | テキストの該当箇所を読む120分                          | 課題に取り組み提出する 120分                        |
| 5   | チーム医療(多重課題のシュミレーション・トレーニング)                          | ②   | 熊田                   | 講義 | 事前資料を読み、対象をアセスメントし援助の方向性をまとめる 120分        | 多重課題の課題レポートを作成し提出する 120分                |
| 6   | チーム医療(事例を理解し、患者に必要な看護ケア、留意点を検討して「一日の業務計画」を立案する)      | ②   | 熊田<br>松野<br>二村<br>清水 | 演習 | 事例を通して事例毎の留意点、優先順位をまとめる 120分              | グループワークを実施して「一日の業務計画」を提出する 120分         |
| 7   | 医療安全の意義・法律・施策指針及び医療安全体制                              | ③   | 皮野                   | 講義 | テキストの医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制を読んでくる 120分  | 医療安全における指針・方針及び医療安全体制の重点をまとめ提出する 120分   |
| 8   | 組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制                              | ③   | 皮野                   | 講義 | 組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制についてテキストを読んでくる120分 | 組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制についてまとめ提出する 120分 |
| 9   | 医療安全活動:接遇・クレーム予防・5S他                                 | ③   | 三品<br>古田             | 講義 | 医療安全活動に係る具体的内容について予習する120分                | 接遇・クレーム予防・5S他の医療安全活動についてまとめ提出する120分     |

| 回   | 授業計画  | 到達目標 | 担当   | 形態 | 事前学習                      | 事後学習                            |
|---|---|------|------|----|---------------------------|---------------------------------|
| 10  | 医療安全活動：KYTの実際                                     | ③    | 三品古田 | 演習 | KYTについて予習する120分           | KYTについてまとめ提出する 120分             |
| 11  | 基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）     | ④    | 眞田他  | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分 | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分    |
| 12  | 基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）     | ④    | 眞田他  | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分 | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分    |
| 13  | 基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）     | ④    | 眞田他  | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分 | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分    |
| 14  | 基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に基づいた基礎看護技術の実施）     | ④    | 眞田他  | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分 | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分    |
| 15  | 基礎看護技術（事例に応じた治療・処置に対する情報収集・留意点に応じた看護技術の提供）        | ④    | 眞田他  | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分 | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめ提出する120分 |
| 評価基準・評価方法   |   |      |      |    |                           |                                 |
| 看護管理（15%） チーム医療（15%） 医療安全（30%） 基礎看護技術（40%）                                  |   |      |      |    |                           |                                 |
| 使用教科書   |   |      |      |    |                           |                                 |
| 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全 / 高橋則子他.--小澤かおり--メジカルフレンド社, ISBN978-4-8392-3374-7 |   |      |      |    |                           |                                 |
| 参考図書  |   |      |      |    |                           |                                 |
| 必要時、参考文献等を紹介する。   |   |      |      |    |                           |                                 |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法   | 演習での発表内容や課題については講評し、フィードバックする。                    |      |      |    |                           |                                 |
| 備考  | グループワーク等については、主体的に参加すること。講義の進行上、担当者・内容を変更することがある。 |      |      |    |                           |                                 |

| 授業科目名   |   | 担当教員                   |      |    |  |                  |
|---|---|------------------------|------|----|--|------------------|
| 看護の統合実習   |   | 熊田 ますみ・他 (代表教員 熊田 ますみ) |      |    |  |                  |
| 必修・選択   | 配当年次  | 単位数(時間数)               | 開講形態 |    |  |                  |
| 必修  | 3年 後学期  | 2単位(135時間)             | 実習   |    |  |                  |
| 学位授与の方針と授業科目の関連   |   | 実務家教員                  |      |    |  |                  |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。  |   | 熊田ますみ(看護師)他            |      |    |  |                  |
| 授業概要  |   |                        |      |    |  |                  |
| 各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任と役割を果たす看護師の役割について学ぶ。さらに看護の継続性を理解し、患者に応じた看護のあり方を学ぶ。  |   |                        |      |    |  |                  |
| 学修の到達目標   |   |                        |      |    |  |                  |
| ①看護師長、チームリーダー、チームメンバーの役割と業務や他部門との調整や連携の実際と看護管理の在り方を説明できる。<br>②複数の受け持ち患者の状態を把握し、多重課題に対し優先順位を考えながら安全・安楽に看護を実施することができる。<br>③患者の24時間の生活状況を知り、継続看護の在り方を説明できる。<br>④看護の統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にし表現できる。 |   |                        |      |    |  |                  |
| 回   | 授業計画  | 到達目標                   | 担当   | 形態 | 事前学習   | 事後学習             |
|   | I. 実習施設   |                        |      |    |  |                  |
|   | 平野総合病院 各務原リハビリテーション病院<br>松波総合病院 揖斐厚生病院 岩砂病院・<br>岩砂マタニティ 岐阜清流病院            |                        |      |    |  |                  |
|   | II. 実習方法  |                        |      |    |  |                  |
|   | 1. 学生は、1グループ4～6名で編成し、病院のいずれかの病棟で3週間実習を行う。                                 |                        |      |    |  |                  |
|   | 2. 実習についてのオリエンテーション(施設の概要、諸注意、事前学習等)を受ける。                                 |                        |      |    |  |                  |
|   | 3. 看護師長、チームリーダー、チームメンバーと行動を共にし、見学を通して各々の役割と業務を知る。また、他職種連携についても知る。         |                        |      |    | 視聴覚教材や教科書より実習に活かせるように学習する。<br>・看護管理<br>・チームナーシング<br>・多職種連携 | 実習記録をまとめる        |
|   | 4. 学生は複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護師と共にして看護を実施する。                                  |                        |      |    | ・多重課題への対応  | 看護展開にあたり必要な学習をする |
|   | 5. 夕方から早朝の時間帯の患者の様子や看護の実際について説明を受け、24時間の対象の状況及び看護師の動きを知る。また、継続看護について考察する。 |                        |      |    | 継続看護   |                  |
|   | 6. カンファレンスを実施し、実習目標が到達できるように問題の解決や学習内容の共有をする。                             |                        |      |    |  |                  |

| 回   | 授業計画   | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
|   | 7. 実習終了後、実習目標に対するまとめの学習を行い、達成状況や自己の課題をレポートにまとめる。   |      |    |    |      |      |
| 評価基準・評価方法                                     |  |      |    |    |      |      |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 |  |      |    |    |      |      |
| 使用教科書   |  |      |    |    |      |      |
| 参考図書  |  |      |    |    |      |      |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法                     | 実習中その都度、記録へのコメントを残し、口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導する。実習最後のまとめ時に教員より学習内容に対してコメントする。                           |      |    |    |      |      |
| 備考  | 履修前提条件：【看護の原理と基礎】の全科目、成人看護学実習Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学・精神看護学実習、在宅看護論実習の単位を修得済みであること。総合判断育成演習を履修中であること。 |      |    |    |      |      |

## 看護学科 授業担当者索引

### …あ行…

|       |        |
|-------|--------|
| 足立 哲夫 | 非常勤講師  |
| 安藤 彰浩 | 非常勤講師  |
| 飯沼 温美 | 非常勤講師  |
| 伊藤 薫  | 非常勤講師  |
| 伊原 亮司 | 非常勤講師  |
| 岩瀬 桃子 | 看護学科講師 |
| 遠渡 絹代 | 非常勤講師  |
| 塩谷 滝雄 | 非常勤講師  |
| 大井 一高 | 非常勤講師  |
| 大井 修三 | 非常勤講師  |
| 大江 直行 | 非常勤講師  |
| 大藪 千穂 | 非常勤講師  |
| 岡本 知美 | 非常勤講師  |

### …か行…

|        |          |
|--------|----------|
| 片岡 恵美  | 非常勤講師    |
| 加藤 清人  | 作業療法専攻教授 |
| 亀山 泰永  | 非常勤講師    |
| 粥川 誠至  | 非常勤講師    |
| 河合 克尚  | 理学療法専攻教授 |
| 川崎 葉子  | 看護学科教授   |
| 皮野 さよみ | 看護学科教授   |
| 川村 清子  | 非常勤講師    |
| 紀ノ定 保臣 | 非常勤講師    |
| 久保 和弘  | 非常勤講師    |
| 熊田 ますみ | 看護学科教授   |
| 藏満 彩結実 | 非常勤講師    |
| 纈纈 朋弥  | 非常勤講師    |
| 神戸 博一  | 非常勤講師    |
| 越納 美和  | 看護学科准教授  |
| 小林 和成  | 非常勤講師    |
| 小林 美奈子 | 非常勤講師    |
| 小森 あゆみ | 非常勤講師    |
| 近藤 富雄  | 非常勤講師    |
| 近藤 直実  | 顧問       |
| 近藤 ひろえ | 非常勤講師    |

### …さ行…

|            |        |
|------------|--------|
| 坂本 裕子      | 看護学科助手 |
| 佐々木 智恵     | 看護学科助教 |
| 佐竹 裕孝      | 非常勤講師  |
| 眞田 正世      | 看護学科教授 |
| 塩野 美里      | 非常勤講師  |
| 清水 美智子     | 非常勤講師  |
| 清水 ゆかり     | 看護学科助教 |
| ジャマリ マルジャン | 非常勤講師  |
| 白木 大輔      | 非常勤講師  |
| 杉山 清美      | 非常勤講師  |
| 杉山 俊介      | 非常勤講師  |
| 鷺見 高光      | 非常勤講師  |

### …た行…

|        |          |
|--------|----------|
| 高井 健太郎 | 非常勤講師    |
| 竹内 章郎  | 非常勤講師    |
| 田島 嘉人  | 理学療法専攻教授 |
| 田中 耕   | 非常勤講師    |
| 塚田 敬義  | 非常勤講師    |

### …な行…

|        |        |
|--------|--------|
| 中川 幸代  | 非常勤講師  |
| 中川 みのり | 非常勤講師  |
| 中斎 二三博 | 司書     |
| 中村 琢   | 非常勤講師  |
| 中山 則之  | 非常勤講師  |
| 長屋 江見  | 看護学科講師 |
| 野瀬 早織  | 非常勤講師  |

### …は行…

|        |          |
|--------|----------|
| 橋本 永貢子 | 非常勤講師    |
| 長谷部 武久 | 理学療法専攻教授 |
| 林 将大   | 非常勤講師    |
| 林 宗典   | 看護学科助教   |
| 坂 義人   | 非常勤講師    |
| 平野 聡子  | 非常勤講師    |
| 深尾 琢   | 非常勤講師    |
| 福岡 大輔  | 非常勤講師    |
| 二村 美津子 | 看護学科講師   |
| 武内 康雄  | 学長       |
| 古田 弥生  | 看護学科准教授  |
| 堀 信宏   | 理学療法専攻教授 |

### …ま行…

|             |         |
|-------------|---------|
| 益川 優子       | 非常勤講師   |
| 松井 永子       | 非常勤講師   |
| 松田 好美       | 非常勤講師   |
| 松野 ゆかり      | 看護学科准教授 |
| 三品 弘司       | 看護学科教授  |
| シルト・セイト・モルト | 非常勤講師   |
| 武藤 恭昌       | 非常勤講師   |
| 武藤 吉徳       | 非常勤講師   |
| 森 敏幸        | 非常勤講師   |
| 森岡 菜穂子      | 看護学科助教  |

### …や行…

|        |       |
|--------|-------|
| 山内 久美子 | 非常勤講師 |
| 山下 浩司  | 非常勤講師 |
| 山田 剛司  | 非常勤講師 |
| 山田 日吉  | 非常勤講師 |
| 山田 宏尚  | 非常勤講師 |
| 山本 容正  | 非常勤講師 |
| 弓削 繁   | 非常勤講師 |

### …わ行…

|       |       |
|-------|-------|
| 和田 恵子 | 非常勤講師 |
|-------|-------|

